

01

題材名 「いい てんき」 (第1時/全1時間)

目標 ○教科書の絵を見ながら想像を膨らませ、感じたこと、考えたことを話し合うことができる。
・友だちの話に関心を持ち、応答することができる。(主体的に学習に取り組む態度)

領域等 A 話すこと・聞くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「いいてんき」を書く。 ・ゆっくりと声にだしながら板書する ② 本時の目標を児童に知らせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px 0;"> いいてんき 「えをみておはなしをしよう」 </div>	・本時の目標を知る。 めあてを明確にするため、教師と一緒に読む。
展開 30分	③ P0~3のさし絵を見て、何をしているのか、見たことや想像したことを自由に発表させる。 「だれがいるかな。」「登場人物はだれかな。」 「どんなばしょだろう。なにがあるかな。」 「なにをしているところだろう。」 ④ P4~8のさし絵を見て 絵の中の人物になりきって自由に発表させる。 「この男の子は、なにをしているのかな。」 「この女の子は、なにをしているのかな。」 「絵を見て気が付いたことはなにかな。」	・絵を見て、登場人物等を確認する。 ・絵を見て、絵の中の人物になりきって自由に話す。 ・教師に質問したり友だちと会話をしたりしながら楽しく話し合う。 ・ゆっくりと日本語を言葉にだす。日本語の文を確認しながら読んでいく。 ・みんなで一緒に楽しく学習をしていくのだという意識をもつ。
終末 10分	⑤ P8の様子を想像しながら教師の声にあわせて読ませる。 「先生と一緒に読んでみよう。」 ⑥ 補習校の学習について説明する。 「国語の学習では、日本語を話したり、聞いたり、読んだり、書いたりします。とても楽しい学習です。これからみんなで一緒に、たくさんのかんじたり考えたりしましょう。」 ・次の時間の学習について知らせる。 「この次は、おはなし たのしいな」を学習します。 どんな勉強か楽しみですね。	・こんなことを学習したいということがあれば発表する。 ・学習についていろいろなルールがあることを知る。 ・次時の見通しを持つ。

指導のポイント

- 初めての国語の授業ということで「国語」ではどんなことを学習するのか伝える。
 - ・国語とは、日本語を「話すこと」「聞くこと」「書くこと」「読むこと」を主な活動とする学習である。
- 授業での約束について指導・確認をする。
 - ・聞く姿勢、発表の仕方や姿勢、声の大きさなどを図や写真があれば用いて指導する。
 - ・友だちと一緒に学び合っていくという気持ちを繰り返し指導していく。

板書例

③挿絵を見て、何をしているのか、見たことや想像したことを自由に発表させる。
 「どんな人が できますか。」
 「どんな ばしょだろう。」
 「なにを しているところだろう。」

①題材名「いい てんき」を黒板に書く。
 ・児童はまだ文字が読めないが、題材名、を説明しながら書き、少しずつ読めるようにする。
 ②本時の目標を児童に知らせる。
 ・めあてを意識させることにより主体的な学習につなげていく。
 ・挿絵を掲示してイメージを広げさせる。

こくご（ほしゅうこう）のがくしゅう

- ・にほんごをつかう
- ・にほんごをよむ
- ・にほんごをかく

挿絵	8 ページ	いい てんき
さあ		いこう

挿絵	4 ～ 7 ページ	
----	-----------	--

挿絵	0 ～ 3 ページ	
----	-----------	--

いい てんき

「めあて
えをみて おはなしをしよう。」

⑤P8 の挿絵を見ながら教師の声にあわせて読ませる。
 「先生と一緒に読みましょう。」

④挿絵を見て、絵の中の人物になりきって自由に発表させる。
 友達の話聞き、発想を広げる。

⑥これからの補習校での国語の学習について知らせる。
 にほんごをつかう
 にほんごをよむ
 にほんごをかく
 「次の時間は、おはなし たのしいな」を学習します。
 ・挿絵を見せ、自分が読みたい本を見つけることにより主体的に学習していこうとする気持ちを持ち、学習意欲を高めさせる。

なまえ)

めあて

○1～3ページのえをみて おはなしをしよう。

○4～8ページのえをみて おはなしをしよう。

○8ページのぶんを いっしょによんでみよう。

なまえ)

めあて

えをみて おはなしをしよう。

○1～3ページのえをみて おはなしをしよう。

こどもたちの えんそくのようす。

おおきな き がある。

○4～8ページのえをみて おはなしをしよう。

おおきな きのこがある。

おおきな さかながいる。

にじがきれい。

たのしく あそんでいる。

おとこのこやおんなのこがいる。

○8ページのぶんを いっしょによんでみよう。

いいてんき さあいこう

ひろい せかいへ とびだそう

わくわくするね たのしいね。

02

題材名 「おはなし たのしいな」「あつまって はなそう」(第1時/全1時間)

- 目 標**
- 先生の読み聞かせる物語を聞いたり好きな動物を話したりして日本語へ興味を広げることができる。
 - ・さし絵を見て、物語や好きな動物、その動物について知っていることを伝えたいという気持ちをもつことができる。(主体的に学習に取り組む態度)

領域等 A 話すこと 聞くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	<p>① 題材名「おはなし たのしいな」「あつまって はなそう」とめあてを黒板に書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>おはなし たのしいな 「ほんを たのしく きこう」「すきな ことを はなそう」</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標を知る。 ・教師と一緒に読み、いろいろな本に親しむこと、日本語を話すことに意欲を持つ。
展開 30分	<p>②教科書P10～11にのっている本を見て知っている話やその題名を話し合わせ、教師が本を読んであげる。 「いろいろな本がありますね。知っているお話はありますか。」 「どんなお話が言えるかな？」 「知らないお話も、どんなお話か想像してみましょう。」</p> <p>○本の読み聞かせをする。 「今から『ぐりとぐら』というお話を読みます。このお話は、双子の野ねずみの話です。」 ※児童に親しみの深い本を選んでおくとよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よい聞き方ができている児童を称賛する。 「お話を聞いて、どんなことを思ったり、考えたりしましたか？」 ・友だちの感想を聞きながら自分の感想を深めさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知っているお話について発表する。 ・知っているお話の内容も自由に想像して発表する。 ・聞く態度について確認し、意識して聞く。 ・感想を発表する。
終末 10分	<p>③教科書P12～13のさし絵の内容を確かめさせる。 「どんな 動物がいますか。」「好きな動物は どれですか。」</p> <p>○ペアによる会話学習をさせる。 「お友達と二人でお話をしましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文型を黒板に提示し、指名した児童と教師がそれに合った会話をして見せることで示範をする。 ・友だちの話聞きながら友だちの好きな理由を理解させる。 <p>○今日の学習内容をふりかえさせる。 「今日は、物語を聞いたり好きな動物を友だちに伝えたりする勉強をしました。」</p> <p>④次時の予告をする。 「次の時間は、『えんぴつと なかよし』の学習をします。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本の楽しさや読書のよさにきづく。 ・好きな動物を発表する。 ・会話の示範を聞く。 ・好きな動物や、その理由を友だちに伝える。 ・次時の見通しをもつ。

指導のポイント

- 本の提示について
 - ・補習校では、現地校の借用などの諸事情で教室内にクラス文庫を常設することはむずかしいと思うが、日本語の本は、なるべく子どもたちの身近におけるように工夫をしたい。
- 会話の基本文型を学ぶ
 - ・自分が伝えたいことをはっきり伝えられるようにする。
私は、『○○が好きです。そのわけは、△△だからです。』
教師が示範することにより、全員が基本文型を使えるように工夫をしたい。
- 発表した友達の内容を集中して聞けるような態度を育てる。
 - ・友達の好きな動物やその理由を自分と比べて聞くことができるような児童に育てたい。

板書例

①題材名「おはなし たのしいな」「あつまってはなそう」とめあてを黒板に書く。

- ・あらかじめ教科書に載っている本があれば用意しておく。
- ・児童には、教師に読んでもらいたい本があれば、持参しておくように伝えておく。

②教科書の絵を見て、知っている話やその題名を発表しようようにさせる。

- ・知っている内容であれば説明させる。
- 教師の読み聞かせを聞かせる。
- ・聞く態度について（姿勢・目線・集中等）指導しながら聞かせる・
- ・よい聞き方ができている児童を称賛する。

おはなし たのしいな

「ほんを たのしく きこう」

◎どんな おはなしのほんかな。

- ・一ねんせいになつたら
- ・一ねん一くみの一にち
- ・さくら
- ・ぐりとぐら
- ・とのさま一ねんせい
- ・おおかみと七ひきのこやぎ

「あつまってはなそう」

写真や挿絵
いぬ
ねこ

写真や挿絵
らいおん
ぞう
パンダ

ともだちに じぶんのすきな
どうぶつを しらせましょう

わたし は○○がすきです。
ぼく

△△だからです、
そのわけは、

④次時の予告をする。

- ・「家でもいろいろな本をよんだり聞いたりしましょう。」
- ・日本語でいろいろなお話しをするようにしましょう。

③教科書P12～13のさし絵の内容を確かめさせる。
「どんな動物がいますか。」「好きな動物はどれですか。」

○ペアによる会話学習をさせる。

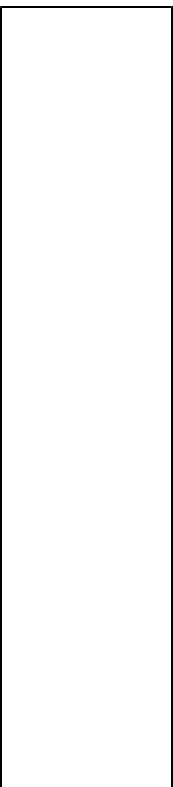
「お友達と二人でお話をしましょう。」

- ・文型を黒板に提示し、指名した児童と教師がそれに合った会話をして見せることで示範をする。
- ・友だちの話を聞きながら友だちの好きな理由を理解させる。

おはなし たのしいな

なまえ (

めあて



○あなたの すきな おはなしは
なんですか。

○ほんを よみます。
たのしく ききましよう。

○あなたの すきな どうぶつは
なんですか。

おはなし たのしいな

記入見本

W
02

なまえ（

めあて

ほんを たのしく きこう。

すきなことをはなそう。

○あなたの すきな おはなしは

なんですか。

一ねんせいになったら

ぐりとぐら

さくら

○ほんを よみます。

たのしく ききましよう。

○あなたの すきな どうぶつは

なんですか。

いぬ

ねこ

らいおん

ぞう

）

03

題材名 「えんぴつと なかよし」「どうぞ よろしく」(第1時/全1時間)

- 目標** ○姿勢や筆記具の持ち方を正しくして書くことができる。
 ・自己紹介のための名刺をつくることができる。(主体的に学習に取り組む態度)

領域等 B 書くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「めいしをつくろう」とめあてを黒板に書く。 ・P16を参考に「どうぞ よろしく」のゲームをさせる。 ・本時のめあてを黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> めいしをつくろう ただしいしせい えんぴつのもちかた </div>	・本時の目標を知る。 ゲームを楽しく行い、自分の名刺を作ろうという意欲を持つ。
展開 30分	②「唱え歌」を通して、正しい鉛筆の持ち方、姿勢を知らせる。 ・P14「先生にあわせて言ってみましょう。鉛筆をもちましょう。」 ・P15「先生にあわせて言ってみましょう。よい姿勢になりましょう」 ・P14～15「挿絵をなぞりましょう。」 ・「ワークシートで練習をしましょう。」 ・正しい鉛筆を持てる子、正しい姿勢の子を称賛する。 ③名刺作りをさせる。 ・「自分のことを友達に紹介する名刺を作ろう。」 ・名刺の作り方を説明する。 「いちねん」の書き方を丁寧に指導する。 名刺は、氏名(出身都道府県)を書かせる。 (出身都道府県に関しては、担任が準備しておいてもよい。) ・子どもたちが作る名刺は、レターサイズ(またはA4)を半切にした程度の用紙を活用する。 ・文字を書くときは、姿勢や鉛筆の持ち方に気をつけて書くようにさせる。 ・「はじめまして ゲーム」をさせる。	・唱え歌を通して、主体的に学習に取り組む。 ・丁寧に書く。 ・児童の実態をふまえて、氏名 出身都道府県 好きな動物等をカードに書いてもよい。 ・渡す時のことを考えながら楽しく、見やすいものにするように意識する。 ・名刺は、実態に応じて複数枚作成する。 ・楽しく、ゲームをする。 ・相手に文字を向け、両手で渡す。
終末 10分	「『こんにちは、私は〇〇です。どうぞ、よろしく申し上げます。』と言ってから始めましょう。」 ④次時の予告をする。 「次の時間は、『なんて いおうかな』の学習をします。	・次時の見通しをもつ。 ・時と場所に応じた日本語を話すことに意欲を持たせるようにする。

指導のポイント

- 姿勢や筆記具の持ち方は継続的に取り組むように支援していく。
- 姿勢や筆記具の持ち方の絵が準備できるときは、しばらくの間、国語の授業の前に掲示しておくようにする。
- 姿勢や筆記具の持ち方は、QR/バーコードを読みとり事前に確認しておく。
- 書くことの指導については、一文字一文字丁寧にゆっくりと指導をする。もっと書きたいと思うように支援と称賛を心がけたい。
- 友達とかかわり、相手を知り、自分を表現することに対する前向きな意欲を大切にす。

板書例

- ②P14の「唱え歌」を唱えながら、鉛筆の正しい持ち方を知らせる。
- ・P15の「唱え歌」を唱えながら、正しい姿勢を知らせる。
- ・唱え歌を通して楽しく、主体的に学習に取り組むように支援をする。
- ・正しい姿勢に気をつけてP14～15の挿絵を指でなぞる。
- ・ワークシートを使って練習をする。

- ①題材名「めいしをつくろう」とめあてを黒板に書く。
- ・「どうぞ よろしく」ゲームをする。
- ・学習意欲を高める。
- ・めあてを書く。
- ・めあてを一緒に読ませ理解させる。
- ・筆記用具の持ち方、姿勢の絵を掲示しておく。

◎どうぞよろしく ゲームをしよう	五十音表	いちねん ○ ○ ○ ○	◎めいしを つくろう	◎えんぴつのもちかた しせい
				めいしをつくろう めあて 「ただししせい えんぴつのもちかたを しり めいしをつくろう」

- ④次時の予告をする。
- ・「なんて いおうかな」
時と場所を考えて日本語を使う練習をします。

- ③名刺作りをさせる。
- ・「はじめましてゲーム」をするための意欲を高める。
- ・「名刺作りをする。」
- ・「初めましてゲーム」をする。

04

題材名 「なんて いおうかな」「こんな もの みつけたよ」(第1時/全1時間)

目 標 ○学校を探検して見つけたことを話すことができる。
 ・場面に応じて 自分の考えを伝えようとするができる。(主体的に学習に取り組む態度)

領域等 A 話すこと・聞くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「なんていおうかな」「こんなもの みつけたよ」とめあてを黒板に書く。 ・本時のめあてを黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> ほしゅうこう たんけん ばめんに おうじた はなしかたを しろう </div>	・本時の目標を知る。 本時のめあてを明確にして意欲を高めるために、子どもたちにもめあてを読ませる。
展開 30分	②P18～19の絵を見て、何をしてどんな話をしている場面のなのか出しあう。 「この絵に出てくるお友達は、なんといっているのでしょうか。」 ・それぞれの場面にあった言葉や動作を練習する。 ・補習校で使っている教室・部屋・施設について、知っていることを発表させる。 ・「補習校の中では、どんな部屋を使っているか知っていますか。また、どんなものが置いてあったりどんなものを使ったりしているか、気がついたことがあったら発表してください。」 ・補習校探検をするにあたって、どのような言葉をつかったらよいか練習させる。 「しつれいします」「ありがとうございました。」	・おはようございます。 ・こんにちは ・さようなら ・日本で使わないような言葉がでたときは、日本と現地校両方の言い方を書く。
終末 10分	③児童と共に補習校探検に行く。 ・「探検に行く前に約束があります。それは、〇〇です。」 見つけても触らない 動かさない 挨拶をする。 ・見つけたら、絵や文字で記録しておけると良いことを指導する。 ④探検して見つけたことや発見したことをさし絵や絵カード、文字でまとめさせる。 ・「発表できるように絵や文字であらわそう。」	・しつれいします。 ・ありがとうございました。 ・P20～21を参考にさせる。 ・児童の実態をふまえて、絵や文字、言葉で発表できるように練習をする。
	⑤見つけたことを発表させる。 「探検してきて 見つけたことを 友だちにわかるように発表しよう。」 ・話の仕方や聞き方を知らせる。 ⑥次時の予告をする。 「次の時間は、『うたに あわせて あいうえお』の学習をします。	・大きな声で話すこと、話す人の方におへそを向けて聞くことなどを意識して話したり聞いたりする。 ・次時の見通しをもつ。

指導のポイント

- 子どもたちが気づいたものは、できるだけ認めてやるようにする。日本語だけでなく現地校での表現も大切に扱うようにする。
- 探検のルールについては、指示、命令ではなく一年生なりにわかるように説明する。
- 探検の目的が戻ってから発表することを意識させ、主体的に取り組むように支援していく。
- 話す時は、どの程度の声の大きさがよいのか、聞くときは、発表する方にへそを向けるなど具体的に指導する。良くできている児童に対しては称賛を心がけたい。
- 文字、挿絵、絵カードなどを組み合わせて見つけたことを表現することに前向きな意欲を大切にする。

板書例

- ②P18～19の絵を見て、何をしてどんな話をしている場面のなのか、出しあう。
「この絵に出てくるお友達は、なんといっているのでしょうか。」
- それぞれの場面にあった言葉や動作を練習する。
 - 補習校で使っている教室・部屋・施設について、知っていることを発表させる。
 - 「補習校の中では、どんな部屋を使っているか知っていますか。」
 - 補習校探検をするにあたって、どのような言葉をつかったらよいかを練習させる。
「しつれいします」「ありがとうございました。」

- ①題材名「なんていおうかな」「こんなもの
みつけたよ」とめあてを黒板に書く。
- 「学校探検」をするにあたり学習意欲を高める。
 - めあてを書く。
 - めあてを一緒に読ませ理解させる。

◎

みつけた ことを はっぴょうしよう

- たいいくかん
- りかしつ
- おんがくしつ
- たんけんのやくそく
- ものにさわらない
- あいさつをする
- みつけたものをえやもじにする

◎ ほしゅうこうたんけん
なんて いおうかな
おはようございます。
しつれいします。

こんな もの みつけたよ

- ④探検して見つけたことや発見したことを、文字、挿絵、絵カードなどを活用してまとめさせるようにさせる。
- P20～21を参考にさせる。
- ⑤まとめたことを発表させる。
- 話の仕方や聞き方を知らせる。

- ④次時の予告をする。
- 「うたにあわせて あいうえお」歌にあわせて楽しく文字を練習します。」

- ③補習校探検に、児童と共に行く。
- 探検を終えて、戻る合図を確認する。
 - 約束を確認させる。
それぞれの場所に置いてあるものには触れない。一人では行動しない。部屋に入るときや人に聞くときの挨拶や聞き方のルールを守る。

こんなものみつけたよ

めあて

なまえ)

やくそく



みつけたもの

こんなもの みつけたよ

記入見本

w
04

めあて

ほしゅうこう たんけん

なまえ

やくそく

○あいさつ

○かってにさわらない

○みつけたものを えやもじにする

○しずかにいどうする。

みつけたもの

おんがくしつ

がつき(たいこ)

としよしつ

ほん

たいいくかん

たいいくようぐ(ぼーる)

しよくいんしつ

せんせい

○ねんせいのきょうしつ

○ねんせい

こうてい

グラウンド(はしるところ)

じむしつ

じむいんさん

こうちようしつ

○○こうちようせんせい

05

題材名 「うたに あわせて あいうえお」 (第1時/全1時間)
目標 声に出して楽しく読み上げながら、「あいうえお」に親しむことができる。
領域名 C 読むこと 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導 入 10 分	① 題材名「うたに あわせて あいうえお」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 「あいうえお をリズムに合わせてひょうげんしよう」 ・ワークシートを配布し、書き込ませる。	・めあてを教師と一緒に読む。
展 開 33 分	③ 教師の音読を聞かせ、その後、共読みをし、斉読を行う。 「まず、私が「うたにあわせて あいうえお」を読みます。口の形をよく見ながら聞きましょう。」 ④ 教師の口形をよく見させて、形と音を一致させる。 「では、私がなんと言っているか当ててみましょう」(声を出さずに口を動かす。) ・あ〜おまで、ランダムに言い当てさせる。 ⑤ 自分で言葉をみつけて、うたを作らせる。 「あ・い・う・え・お で始まる言葉を集めて、自分のうたをつくってみよう」 ・巻末のひらがな表を参考にさせてもよい。 ⑥ 自分のうたを発表させる。 ・音やリズムをはっきりとさせて発表させる。 ・相互にできていたかどうかの感想を述べあう。	・先生の顔を見て聞く。 ・口形写真を確認し、見比べながら聞く。 ・口の形を見て、何と言っているか分かれば発表する。
終 末 2 分	⑦ あいうえおについて、書き練習をする。 ・教科書に書き込んで、丁寧に練習させる。 ⑧ 次時の予告をする。 「次の時間は「こえにだしてよもう」を学習します」	・ありをあつめてあいうえお ・いぬもいっしょにあいうえお ・うしもうれしいあいうえお ・えんぴつえらぶよあいうえお ・おにぎりおいしいあいうえおなど…。 ・まずなぞり、空白マス目まで埋める。

指導のポイント

○声に出して読む

- ・大きな声で、はっきりと発音させたり、口の形を丁寧になぞらせたりする。口ごもっていい加減な発音にならないように注意する
- ・うたにはリズムがあり、意味の区切りともなっているので、発表の際にはリズムを整えさせるよう注意する。

板書例

- ① 題材名「うたに あわせて あいうえお」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を黒板に書く。

- ③ 教師の音読を聞かせ、その後、共読みをし、斉読を行う。
- ④ 教師の口形をよく見させて、形と音を一致させる。
 - ・口の形やリズムに注意させる。

- ⑤ 自分で言葉をみつけて、うたを作らせる。
 - ・巻末のひらがな表などを参考にさせてもよい。

◇書き練習 ていねいに れんしゅう しょう	◇発表 リズムよく うたを うたおう	いぬも うしも うれしい あいうえお	いぬも いっしよに あいうえお	あ い う え お	あり いぬ いし うま えんぴつ おんがく	あ・い・う・え・お の ことば	◇音読 くちのかたち に ちゅうい しょう	うたに あわせて あいうえお あいうえお をリズムにあわせて ひょうげん しょう
--------------------------------	-----------------------------	-----------------------------	-----------------------	-----------------------	--------------------------------------	-----------------------	-----------------------------------	--

- ⑥ 自分の歌を発表させる。
 - ・大きくはっきりと話させる。
 - ・リズムにも心がけて言えるよう助言する。

- ⑦ あいうえおについて、書き練習をする。
 - ・教科書に、丁寧に書き込ませる。

- ⑧ 次時の予告をする。
「次の時間は、『こえに だして よもう』 の学習をします。」

うたにあわせてあいうえお

W
05

ねん くみ なまえ)

(

めあて

--

◇あ・い・う・え・お のことばをみつめよう。

あ	い	う	え	お

◇あ・い・う・え・お のうたをつくろう。

--	--	--

うたにあわせてあいうえお（記入例）

W 05

ねん くみ なまえ（ ）

めあて

--

◇あ・い・う・え・お のことばをあつめよう。

あ	ありあし
い	いぬいす
う	うしうま
え	えんぴつ えりんぎ
お	おにぎり おんがく

◇あ・い・う・え・お のうたをつくらう。

ありを	あつめて	あいうえお
いぬも	いつしよに	あいうえお
うしも	うれしい	あいうえお

06

題材名 「こえに だして よもう」①（第1時／全1時間）

目標 ○「声の大きさやリズム」を工夫してはっきりと読むことができる。
 ・文に描かれた様子を想像して音読しようとするすることができる。（主体的に学習に取り組む態度）

領域等 C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	①題材名とめあてを黒板に書く。 ・本時のめあてを黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">あさの おひさまの おはなしを たのしもう</div>	・本時の目標を知る。 本時のめあてを明確にするために子どもたちにもめあてを読ませる。
展開 30分	②朝日や海の様子を想像しながら読み聞かせる。 ・挿絵から気がついたことを想像させる・ 「教科書の絵を見て、気がついたことはありますか。」 ・教科書P26～P27を範読（教師の読み）する。 「どんなお話か考えながら、聞きましょう。」 ・「どんなお話でしたか。どんなかんじがしましたか。」 ③「あさのおひさま」を読ませる。（1回目） ・一斉読み ・ペア読み	・感想を発表し、音読への意欲を持つ。 ・一斉読み、ペア読みをする。
終末 10分	○聞く人がわかりやすく、楽しめる読み方にするには、何に気をつければよいか考えさせる。 ・口を大きく 間をとる ゆっくりと ④声の大きさやリズムを工夫して、読ませる。（2回目） ・一斉読み ・ペア読み ・工夫して読んでいる児童を賞賛する。 ・指名読み ○めあてを考えながら自分のペースで読ませる。（3回目） ・大きな声で読む ・楽しく（表情豊かに）読む。 ・一斉読み	・音読の留意点を確かめる。 ・音読の留意点を意識し、音読する。 ・工夫して読んでいる児童が文を読む。 ・音読の響きやリズムに気をつけながら、音読する。
	⑤次時の予告をする。 「次の時間は、『すきな あそび』の話をみんなにお話しします。みんなは、どんな遊びがすきですか。」	・次時の見通しをもつ。

指導のポイント

○音読

・基本的な心構えは、「聞き手を意識させる」こと。「自分だけが満足する読みではなく、聞いてくれる人が聞き取りやすく、わかりやすいことを目的に音読する。」という意識を身につけさせ、継続させたい。

○挿絵から想像できることを発表させ、文の楽しさを感じさせたい。

○一人読み、一斉読み、ペア読みを活用することにより主体的に音読に取り組ませたい。

板書例

②朝日や海の様子を想像しながら読み聴かせる。
・挿絵から気が付いたことを想像させる。
・場面の様子や登場人物の行動を考えながら聴く。

①題材名「あさのおひさま」とめあてを黒板に書く。
・文を声に出して楽しく読もうとする」をするにあたり学習意欲を高める。
・めあてを書く。
・めあてを一緒に読ませ理解させる。

こえに だして よもう

めあて 『あさのおひさまのおはなしをたのしもう』

・おひさま
・うみ
・あかい

◎ きく ひとものしいよみかた
かおも こえも たのしそくに
くちを おおきく はつきり
ききやすい おおきさ
ゆっくり
まをあける

④声の大きさやリズムを工夫して、読ませる。(2回目)
・一斉読み
・ペア読み
・工夫して読んでいる児童を称賛する。
○めあてを考えながら自分のペースで読ませる。(3回目)
・大きな声で読む。・表情豊かに読む。

③「あさのおひさま」を読ませる。(1回目)
・「あさのおひさま」を一斉に読む。
・「あさのおひさま」をペアで読みあう。
○音読の際に、どのように工夫したらよいか考えさせる。
・場面を想像して ・楽しそうに
・口を大きく・ゆっくり
・聞きやすい声の大きさ

⑤次時の予告をする。
・「すきな あそび」の話を みんなにお話をします。
みんなは どんな あそびがすきかな。

こえにだしてよもう

なまえ)

w
06

めあて

○さしえから きがついたこと

○あさの おひさまを よもう

あさの おひさま

おおきな

のっこり うみから

おきでした

あさの おひさま

あかい かお

ざぶんと うみで

あらったよ

○よみかた

めあて あさの おひさまの おはなしを

たのしもう。

○さしえから きがついたこと

おひさま

うみ

あかい

○あさの おひさまを よもう

あさの おひさま

おおきな

のっこり うみから

おきでした

あさの おひさま

あかい かお

ざぶんと うみで

あらったよ

○よみかた

かおもこえも たのしそうに

くちをおおきく はつきりと

ゆっくり

ま を あける

07

題材名 「ききたいな ともだちの はなし」 (第1時/全1時間)

目標 ○自分の伝えたいことをわかりやすく伝えることができる。
 ・友だちの話を集中して聞こうとすることができる。(主体的に学習に取り組む態度)

領域等 A 話すこと 聞くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	①題材名とめあてを黒板に書く。 ・本時のめあてを黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> すきな あそびを きいてみましょう すきな あそびを しらせましょう </div>	・本時の目標を知る。 本時のめあてを明確にするために子どもたちにもめあてを読ませる。
展開 30分	②友達とペアになり好きな遊びについて話すこと・集中して聞くことができるようにP28を参考に指導する。 「自分の好きな遊びを友達にわかるように知らせましょう。」 「友達がどんな遊びが好きか みんなに伝えられるように聞きましょう。」 「聞く人は、話す方におへそをむけましょう。」 P28を、範読(教師の読み)する。 ・伝えるときの基本の形を黒板に書く。 わたしの すきな あそびは ○○です。 ③わかったことや感想を、声の大きさや速さに気をつけて全体に知らせる。 ・P29を参考に話し方の基本形式について知らせる。 P29を、範読(教師の読み)する。 「友達の好きな遊びをみんなにわかるように伝えましょう。」 ・声の大きさ 速さを考えて発表させる。 「友達の好きな遊びは何か集中して聞きましょう。」	・自分の好きな遊びを話す。 ・友達の好きな遊びを聞く。 ・P28を聞いて、発表の仕方を確認する。 ・友達の話に感想を持つ。 ・P29を聞いて、発表の仕方を確認する。 ・友達のことを、クラス全体に知らせる。
終末 10分	④聞き手と話し手を交代して、②と③の活動をさせる。 ・教師と活動のふり返りをする。 ⑤次時の予告をする。 「次の時間は、『たのしいな ことば あそび』をします。」 ・絵カードを見せ、学習意欲を高めさせる。	・友達と交代して、好きな遊びの話をする。聞く。 ・話をするときの基本の形を確認する。 ・次時の見通しをもつ。

指導のポイント

- 自分の考えの伝え方、聞き方の基本の形を確認する。
 - ・「ぼくは、○○がすきだよ。」「わたしも すきだよ。」
 - ・話す人は、相手の目を見て話をする。聞く人は、うなずきながら聞くことを伝える。
- 興味をもって友達の話を聞き、より伝わる話し方を考えながら、みんなに知らせようとするにはどのようにしたらよいか、挿絵から話し方、聞き方を確認させたい。
- 事前に、友達に伝えたいことを宿題などで考えてくるように指導しておくことにより主体的に授業に参加できるようにする。

板書例

②友達とペアになり好きな遊びについて伝えるように指導する。また、聞き方の基本を知らせる。

「自分の好きな遊びを友達にわかるように知らせてみましょう。」

・P28を参考に話し方の基本の形式について知らせる。

私は、〇〇が好きです。

・聞き方の基本の形式について知らせる。

・お話を聞くときは、相手の方におへそを向けましょう。

①題材名「好きな あそびを きいて みましょう」とめあてを黒板に書く。

・P28～P29を読み、教師の説明を聞いて活動内容を理解させる。

・伝えたいことを事前に考えさせておくことにより主体的な学習につながる。

ききたいな
ともだちの
はなし

めあて

好きな
あそびを
しらせましょう。

・ぼくは、〇〇が好きです。

・おにごっこ

・ブランコ

・なわとび

◎好きな
あそびを
きいてみましょう

◎きいて
わかったことを
みんなに知らせましょう。

④聞き手と話し手を交代して②と③の活動をする。

・教師と活動の振りかえりをする。

⑤次時の予告をする。

・「たのしいな ことば あそび」の話を みんなにお話をします。

・絵カードを見せ、学習が楽しみになるように告げる。

③分かったことや感想を、声の大きさや速さに気をつけて全体に知らせる。

「〇〇さんの好きな遊びについてお話をします。」

・P29を参考に話し方の基本の形式について知らせる。

・P29を、範読（教師の読み）する。

「友達の好きな遊びをみんなにわかるように伝えましょう。」

・声の大きさ 速さを考えて発表させる。

「友達の好きな遊びは何か集中して聞きましょう。」

ききたいなともだちのはなし

なまえ（

W
07

めあて

○すきな あそびを きいて みましよう。

○きいて わかったことを
みんなにしらせましょう。

※きを つけること

）

めあて

すきな あそびを きいてみましょう。

すきな あそびを しらせましょう。

○すきな あそびを きいて みましょう。

ぼくは、おにごっこが すきだよ。

わたしは、ぶらんこがすきだよ。

ぼくは、（ ）がすきだよ。

○きいて わかったことを

みんなにしらせましょう。

むらさんが すきな

あそびは、（ ）です。

※きを つけること

はなすひとは きくひとの めをみてはなす。

きくひとは はなすひとのほうに

おへそをむける。

08

題材名 「たのしいな ことば あそび」 (第1時/全1時間)

目標 ○身近なことを表す語句の量を増し、語彙を増やすことができる。
 ・音節と文字との関係にきづき、言葉を集めようとすることができる。
 (主体的に学習に取り組む態度)

領域等 言葉の特徴や使い方 (音節と文字の関係 語彙を増やす)

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	①題材名「たのしい ことばあそび」とめあてを黒板に書く。 ・P30を参考に「あり」と声に出して読む。 「これは、なんですか。」 「『あり』と口でいいながら手をたたいてみましょう。」 (2回) ・本時のめあてを黒板に書く。	・本時の目標を知る。 口と手を使って、楽しく言葉を見つけていく学習であることを通して意欲を持つ。
展開 30分	②「あり」(2回)「あしか」(3回)「あいさつ」(4回)の言葉をはっきり言いながら手をたたき活動を児童と一緒にやる。 「『あしか』とはっきり言いながら手をたたきましょう。」 「教科書にでていない『あ』を使った言葉を見つけましょう。」	・教師の演示や挿絵を通して、主体的に学習に取り組む。
終末 10分	③「い」「う」「か」など既習の平仮名で始まる言葉集めをする。 「『いす』と口で言いながら手をたたいてみましょう。」 ・「い」で始まる教科書以外の言葉集めをする。 「『い』で始まる言葉を探しましょう。」 ・手を打ちながら、文字数を意識する。 ・音節と文字の関係を意識させる。 ・これまでに習った文字を使って言葉を見つけて、ノートに書く。 ・ワークシートに書いた言葉を発表させる。	・ペア学習を取り入れることにより主体的に全員が発表する。 ・手をたたきながら言葉を言う。 ・ワークシートに言葉を書く。
	④次時の予告をする。 「次の時間は、『はなの みち』の学習をします。」	・次時の見通しをもつ。 ・挿絵をみて学習意欲が高まる。

たのしいな ことばあそび
 あり

指導のポイント

- 語句の音節と文字の関係に関心をもち、今までの学習をいかして言葉集めをすることができるように絵カードを準備しておくようにする。
- 書くことの指導については、一文字一文字正しいひらがなを書くようにし、ていねいに書いている児童には、具体的な称賛を心がけたい。
- ワークシートに文字を書く際は、線描きの指導や一マスの中を4つに区切った、○○の部屋から書き出すとバランスのとれた文字になることを指導するとよい。
- ペア学習を取り入れることにより全員が主体的に活動できるように心がける。

板書例

②P30を見て「あ」で始まる言葉は、いろいろあることを知らせる。

- 手を打ちながら1音節1文字であることに気づき、2文字3文字4文字の言葉等があることを知る。

「『あり』と口で言いながら手をたたいてみましょう。」

- 「あ」で始まる教科書以外の言葉集めをする。

「『あ』で始まる言葉を探しましょう。」

①題材名「たのしいな ことばあそび」とめあてを黒板に書く。

- 「ことば あそびを しよう」絵カードを通して学習意欲を高める。
- 絵カードを準備しておくことで学習意欲が高まる。

『か』

『う』

いるか

いす

『い』ではじまることば

あいさつ

あしか

あり

『あ』ではじまることば

めあて
ことば あそびをしよう

たのしいな ことばあそび

④次時の予告をする。

- 「はなの みち」挿絵を見せ、楽しい物語の学習であることを感じさせる。

③「い」「う」「か」など既習の平仮名で始まる言葉集めをさせる。

「『いす』と口で言いながら手をたたいてみましょう。」

- 「い」で始まる教科書以外の言葉集めをする。
- 「『い』で始まる言葉を探しましょう。」
- 手を打ちながら、文字数を意識する。
- これまでに習った文字を使って言葉を見つけて、ノートに書く。

たのしいな、ことばあそび

いちねん

くみ

なまえ

めあて

『あ』で はじまることば

あ
り

あ
し
か

あ
い
さ
つ

『い』で はじまることば

--	--	--

--	--	--

--	--	--	--	--

『う』で はじまることば

--	--	--

--	--	--

『か』で はじまることば

--	--	--

たのしいな、ことばあそび

記入見本

W
08

いちねん

くみ

なまえ

めあて

ことば あそびをしよう

『あ』で はじまることば

あ
り

あ
し
か

あ
い
さ
つ

あ
り

あ
し
か

あ
い
さ
つ

『い』ではじまることば

『う』ではじまることば

い
る
か

う
き
わ

『か』で はじまることば

か
ら
す

)

題材名 「はなの みち」①（第1時／全3時間）

- 目 標
- ・ 教師の範読や挿絵から、だいたいの内容がわかる。
 - ・ お話の感想が持て、言える。

領域名 B 書くこと C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導 入	① 題材名「はなの みち」とめあてを黒板に書く。 「どんな おはなしなのか たしかめよう」	・ めあてを教師と一緒に読み、活動への意欲を持つ。
10 分	② 登場する動物と場面（季節）を確かめさせる。 ・ 教師の範読を、教科書を読ませながら聞かせる。 「お話を聞いて、どんなことを感じましたか。」→ 発表を板書。 「お話を読んでわからなかったことや変だなと思ったことなどはありますか。」→ 発表を板書。 「このお話に出てくる動物は何ですか。絵の中から見つけてもいいですよ。」→ くまさん、りすさん、うさぎさん、小鳥（すずめ）さん、かえるさん、かたつむりさん、きつねさん、たぬきさん 「このお話の季節はいつでしょうか。」 ・ 暖かくなり花が咲いたことから「春」を、その前の季節は「冬」であることを確かめさせる。挿絵で考えさせてもよい。	・ 教科書を目で追いながら、範読を聞く。 ・ 自由に感想を述べる。 ・ 登場する動物を文章や挿絵から探し、答える。 ・ 文章や挿絵から季節を推測し答える。
展 開	③ 挿絵の並べ替えを通して、あらすじをまとめさせる。 ・ 拡大した挿絵を準備しておき、順序はバラバラに掲示する。 ・ 児童たちに自由に発話させながら、物語に展開順どおりに並べ替える。 「それぞれの絵の時に、くまさんがしたことは何でしょう。」 ・ 挿絵の下に発表された内容を簡潔に記す。 ・ 挿絵と板書から、あらすじを確認させる。	・ 物語の展開に沿った、挿絵の順序を考える。 ・ くまの行動と、最後にできたものをとらえる。
33 分	④ 教科書を音読させる。 ・ さまざまな読み方をさせ、児童が楽しく読めるようにする。 ※ 教師との掛け合いで、セリフだけを読む。1行ずつ、順番に間を空けずに読む。1文ずつ交替で読む。	・ いろいろな読み方を楽しむ。 ・ 物語の内容を再確認する。
終 末	⑤ 本時を振り返らせ、次時の予告をする。 「この時間の学習でどんなことがわかりましたか。」 「次の時間は、みんなで『くまさん』の気持ちを考えましょう。」	・ 本時の学習を見返す。 ・ 次時の学習の見通しを持つ。
2 分		

指導のポイント

○ 物語の初読場面での学習

- ・ 教師の範読を第一段階とすることが多い。内容をスムーズに把握するためである。
- ・ 初読後は、感想（初発の感想という）発表や読んでわかったこと、驚いたこと、疑問に感じたことなどを述べさせ、今後の学習に生かすのが基本的な展開である。
- ・ 特に、児童の疑問は大切にしたい。それが場面の状況を正確に読み取る必要性や登場人物の心情の把握のための精読（表現内容を緻密に読んでいく学習）のきっかけとなるからである。

児童自身が自己課題を持ち、その解決のための学習方法を知り、課題解決し、達成感を得るという「課題解決学習」に結びつくのである。

板書例

① 題材名「はなの みち」と めあてを黒板に書く。

- ・ めあてを一緒に読ませて 理解させる

② 登場する動物と場面を確かめさせる。

- ・ 教師の範読を聞かせる。
- ・ 児童の感想や疑問を言わせる。
- ・ 第3時の劇につながるので、挿絵も見させながら、全ての 動物名を挙げさせる。
- ・ 季節が冬から春へと移り変わることを確認させる。

③ 挿絵の並べ替えを通して、あらすじをまとめさせる。

- ・ 拡大し、掲示できるようにした4枚の挿絵を準備しておく。
- ・ 挿絵を適当な順序に掲示し、児童たちとともに、物語 の順序に従って並び替える。
- ・ 「くまさん」のしたこと、最後に「できたもの」を 読み取らせ（聞き取らせ）、発表させる。
- ・ 掲示した挿絵の下に、発表内容を簡潔に記す。
- ・ 児童とともにあらすじを確認する

はなの
みち

どんな おはなしなのか たしかめよう

◎ かんそう おもしろい。 くまさんがかわいい。
おはながさいてうれしい。

◎ わからなかったことなど
ふくろの なかみはなに？

○ でてきた どうぶつ（えの なかも いい）
くまりすうさぎ きつね たぬき
ことり（すずめ） かえる かたつむり

○ きせつ ふゆ ↓ はる

○ おはなしの じゅんじよを かんがえよう。

挿絵 くまさんが みつけた。

挿絵 くまさんが ききに いった。

挿絵 くまさんが ふくろを あけた。

挿絵 はなの みちが できた。

◇ おはなしを こえに だして よもう。

④ 教科書を音読させる。

- ・ さまざまな読み方をさせ、 児童が楽しく読めるように 工夫する。
- ・ 児童から、どのような読 み方をしたいかというリク エストを募ってもよい。

⑤ 次時の予告をする。

- ・ 「次の時間は、みんなで『くまさん』の気持ちを考えてみましょう。

10

題材名 「はなの みち」②（第2時／全3時間）

- 目標**
- ・ くまのしたことやその場の出来事を読み返し、そのときのくまの気持ちを考えることができる。
 - ・ 自分の好きな部分を選び、視写できる。

領域名 B 書くこと C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 10分	① 前時の学習を想起させる。 「なんというお話でしたか。」 「どんな学習をしましたか。覚えていることを何でもいいので言ってみましょう。」 「この時間は、どんな学習をすることになっていますか。」 ・ 題材名「はなの みち」とめあてを黒板に書く。 「くまさんの きもちを かんがえよう」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 題名を言う。 ・ 場面の挿絵を見ながら、あらすじを確かめたことを思い出させる。 ・ めあてを教師と一緒に読み、確認する。
展開 33分	② 場面ごとに熊さんの心情を考えさせる。 ・ 挿絵を掲示し、児童に見せながら、くまの行動を思い出させる ・ 場面を一つずつ追いながら、「このとき、くまさんはどんな気持ちだったのでしょうか。」と発問する。→ 発表を板書。 「〇〇さんはなぜそう考えたのですか。」と切り返し発問をする。 答えに窮する児童には「〇〇だからかな？」と助け船を出す。	<ul style="list-style-type: none"> ・ くまの行動を場面ごとに振り返る。 ・ 文やくまの行動から心情を推測し、答える。 ・ 考えの根拠を述べる。根拠を述べると「なるほど」と思えることを知る。
終末 2分	③ 好きな部分を視写させる。 ・ 4場面のうち一つの場面を選ばせ、ノートに書き写させる。 「書き終えたら、くまさんになったつもりで、くまさんの気持ちが聞く人に伝わるように、声に出して読んでみましょう。」 ④ 本時を振り返らせ、次時の予告をする。 「この時間の学習でどんなことがわかりましたか。」 「次の時間は、みんなで劇をしましょう。どの動物になるか考えましょう。」	<ul style="list-style-type: none"> ・ くまになったつもりで音読する。 ・ 本時の学習を見返す。 ・ 次時の学習の見通しと活動への意欲を持つ。

指導のポイント

- 登場人物の心情をとらえる。
 - ・ 「なんとなく、そう思う。」ではいけない。「なんとなく」の裏にも、それなりの根拠があるはずで、それを本人や他の子供に追究させることも大切。それゆえの「〇〇さんは、なぜそう考えたのですか。（切り返しの発問）」ただ、あまり児童を追い込んでもいけないので、笑顔で尋ね、適宜助け 船を出すことも大切。それにより、自分では思いつかなかった根拠に気づけることも多い。
 - ・ 人物の心情が地の文に書かれていることもあるが、それはまれである。会話文中の言葉や行動・表情の描写、場合によっては周辺の情景描写が心情の反映であることも。さまざまな記述（「叙述」という）の中から心情を探り出せるように指導・助言をしていく。ただし、発達段階に応じてとし、あまり深入りしないことも大事。
 - ・ 場面ごとの心情を読み取ることができるようになったら、文章全体をとおしての「心情変化」を追わせたい。特に心情が大きく変化する場面は、物語のクライマックスでもあり、作品の主題にも関わる重要な場面である。
- 読み取った心情を、児童にどのように表現させるか。
 - ・ 低学年のうち、人物の心情を人物の言葉で表現させるのが児童にとってはハードルが低く、よい。
 - ・ 高学年になるにしたがい、心情を説明するように表現できる力を身につけさせたい。

板書例

① 題材名「はなの みち」とめあてを黒板に書く。

- ・ 児童に言わせてから板書する。その後、教師と一緒に読んで確認する。

② 場面ごとのくまの心情を考えさせる。

- ・ 掲示された挿絵を見せながら、くまさんの行動を思い出させる。
- ・ 場面を一つずつ追いながら、「このとき、くまさんはどんな気持ちだったのでしょうか。」と問いかける。
- ・ 発言に対して、なぜそう考えたのかという切り返し発問をし、児童本人や他の児童により深く考えさせるようにする。

はなの
みち

くまさんの
きもちを
かんがえよう

○ おはなしのじゅんじょ

くまさんがふくろをみつけた。

挿絵

「おや、なにかな？」

くまさんがききにいった。

挿絵

「りすさんなら、しっているかも。」

くまさんがふくろをあけた。

挿絵

「しまった。みんなおちちやった。」

はなのみちができた。

挿絵

「ああ、はなのたねだったんだ。」

◇ おはなしのすきなところをのーとにうつそう。

◇ すきなところをくまさんのきもちになって、こえにだしてよもう。

③ 好きな部分を視写させる。

- ・ 4場面から一つを選ばせる。
 - ・ 早く書き終えた児童から、書いた文章を音読させる。
- 「くまさんになったつもりで、くまさんの気持ちが聞く人に伝わるように読んでごらん。」

④ 次時の予告をする。

- ・ 「次の時間は、みんなで劇をしましょう。」
- 「どの動物になりますか。考えましょう。」

11

題材名 「はなの みち」③（第3時／全3時間）

- 目標**
- ・ 登場する動物の会話を想像して、簡単な劇遊び（ロールプレイング）ができる。
 - ・ 動物になりきり、劇遊びを楽しめる。

領域名 B 書くこと C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 10分	① 前時の学習を想起させる。 「なんというお話でしたか。」 「どんな学習をしましたか。覚えていることを何でもいいので言ってみましょう。」 「この時間は、どんな学習をすることになっていますか。」 ・ 題材名「はなの みち」とめあてを黒板に書く。 「どうぶつに なって げきを しよう」	・ 題名を言う。 ・ 場面ごとにくまの気持ちを考えたことを思い出して発表する。 ・ めあてを教師と一緒に読み、確認する。
展開 33分	② グループ分けをし、役割分担をさせる。 「どんな動物がいたかな。」 ・ やりたい役を聞いてから、グループ分けをしてもよい。 「どの動物になりたいかな。」 ・ クラスの実情により、グループ編成の方法を事前に決めておく。 ・ 生活班を活用してもよい。一人で複数役でもよい。	・ 登場する動物を確認する。 ・ どんな動物を演じたいか考える。
終末 2分	③ セリフを決め、練習させる。 ・ 本時中でのセリフ決めが困難な場合は教師が事前に決めておく。 「どの動物も必ず何かを言いましょう。みんなで相談して決めましょう。」と明確に指示を出しておく。 ・ 練習や観劇がしやすいように机を下げるなど、十分な空間をつくる。 ・ お面または札などを作成しておき、付けさせるとよい。 ・ 練習を巡視する。つまずきがちな児童を励ます。	・ みんなで相談し、どの動物にもセリフがあるように話し合いを進める。 ・ 動物になったつもりで、セリフを言う練習をする。
	④ 発表会（発表順を決めておく） ・ 観劇する位置を指示し、整列させる。 ・ 評価の観点を示す。 発表は「動物になりきってセリフを言えたか。」 観劇は「動物になりきっていたか」 「お友達の発表をきちんと見られたか」 ・ 発表後は、自分の様子を振り返らせ評価を言わせる。肯定的な評価を中心に発表させる。教師は児童のよい点を認め、学習活動の意欲付けに努める。	・ 何に気を付け、どんな活動ができればよいのか知る。 ・ 発表を振り返り、自分や友達のよかったことを述べる。
	⑤ 次時の予告をする。 「次の時間は、『としょかんへ いこう』を学習します。」	・ 次時の学習の見通しを持つ。

指導のポイント

○ 劇化（ロールプレイング）

- ・ 劇そのものがではない。なり切り、演じることで登場人物の置かれた状況や心情をより深く考え、実感できるから劇化する。また、共に演じる児童や観劇する教師・児童に対して、自分なりの心情のとらえを体現に発表できる点が良い。
- ・ 学年が上がるにつれ、「演じてみて・観劇してみてわかったこと（改めて人物の〇〇な気持ちが理解できた、など）」を考えさせ、話し合わせると、さらに劇化の有効性が高まる

板書例

- ① 題材名「はなの みち」と めあてを黒板に書く。
・ 児童に言わせてから板書する。その後、教師と一緒に読んで確認する。

- ② ルール分けをし、役割分担させる。
・ やりたい役を聞いてから、グループ分けをしてもよい。
・ クラスに生活班があるなら、それを活用してもよい（一人で複数でも可）。

- ③ セリをめさせ、練習習させる。
・ 一人一言以上言えるように考えさせる。
・ グループで相談しながらセリフを決めさせる。
・ 個の児童やクラスの実態により、授業内でのセリフ決めが、難しいと判断されるのであれば、教師が事前にしなりをを準備し、セリフ決めの活動は省略してもよい。
・ 練習やその後の観劇がしやすいように、机を下げるなどして、スペースを作っておく。
・ 自分の役になりきってセリフを言うように励ます。練習を見て回り、大いに称揚する。

はなの
みち

どうぶつに なって げきを しよう

○ やくわりを きめよう。

くまさん

りすさん

まつねさん

たぬきさん

うさぎさん

ことり（すずめ）さん

かえるさん

かたつりさん

○ セリふを きめよう。

くまさんは なんて いったのかな。

りすさんは？ きつねさんは？

○ おめん（ふだ）をつけて（かけて）

○ れんしゅうしよう。

はっぴようかい

どうぶつさんになれたかな。

おともだちのはっぴようを きちんと

みられたかな。

- ④ 発表会
・ 発表の順番を決めておく。
・ 練習を打ち切らせ、他のグループの発表をきちんと鑑賞できる態勢を作らせる。
・ 評価観点は、発表・観劇のどちらも、「役になりきってセリフを言えたか。」でよい。
・ 「お友達の発表をきちんと見られたら。」も大切な評価項目である。評価の観点は、板書しておく。
・ 発表後、自分の姿を振り返らせ、評価の観点に沿って言わせる。劇の様子についても 同様に振り返らせる

- ④ 次時の予告をする。
「次の時間は、『としょかんへ いこう』を学習します。」

12

題材名 「としょかんへ いこう」（第1時／全1時間）

- 目 標** ○読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。
 ・好きな本を選んで読書に親しむことができる。（主体的に学習に取り組む態度）

領域等 我が国の言語文化（読書に親しむ）

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「としょかんへ いこう」とめあてを黒板に書く。 ・児童を引率して、補習校の図書館へ行き、めあてを知らせる。 「どんな 本がありますか。」 「読んでみたい本を探しましょう。」 ・本時のめあてを黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">よんでみたい ほんを さがそう</div>	・本時の目標を知る。 補習校の図書館へ行って、いろいろな本があることを知り、読んでみたい本を探す。
展開 30分	②学校図書館でのきまりについて考えさせる。 ・みんなの本であることに気づき、大切に扱うことや静かに本を読むこと等の約束を考えさせる。 「図書館で 本を読むときは、どんなことに注意したらよいでしょうか。」 ・P40を参考にさせる。 ③読みたい本を選んで、読書に親しませる。 「読みたい本を 選んで楽しみましょう。」 ④どんな本を選んだか発表させる。 「自分が選んだ本を友達に知らせましょう。」 ・自宅には、どんな本があるか探そうとする意欲を起こさせる。	・静かに読む。 ・本はあった場所に返す。 ・本を大切に扱う。 ・いろいろな日本語の本を見つける。 ・日本語がまだよくわからない児童は、絵を見てたのしむ。
終末 10分	⑤次時の予告をする。 「次の時間は、『かきと かぎ』の学習をします。」	・次時の見通しをもつ。 ・挿絵をみて学習意欲が高まる。

指導のポイント

- 現地校の図書館と日本の図書館、補習校の図書館の違いに気づかせる。
- 教師の言葉だけでなく、P40の挿絵を活用して本の扱いについて確認する。
- 補習校にある本は数が限られていることをふまえ、家庭にある本にも目を向けさせる。
- 日本語が読めない児童がいる場合は、絵を通して本に親しむように指導する。
- 児童の実態にあった本を数冊選んでおき、子ども同士が読み合ったり、教師が読み聞かせをしたりしてもよい。

板書例

③読みたい本を選んで、読書に親しませる。
「読みたい本を選んで楽しみましょう。」
④どんな本を選んだか発表させる。
「自分が選んだ本を友達に知らせましょう。」
・家には、どんな本があるか探そうとする意欲を起こさせる。

①題材名「としょかんへ いこう」とめあてを黒板に書く。
「よんで みたい ほんを さがそう」

と
し
よ
か
ん
へ
い
こ
う

め
あ
て

よ
ん
で
み
た
い
ほ
ん
を
さ
が
そ
う

と
し
よ
か
ん
で
の
き
ま
り

・し
ず
か
に

・た
い
せ
つ
に

・も
と
の
ば
し
よ
へ

え
ら
ん
だ
ほ
ん
を

と
も
だ
ち
に
し
ら
せ
ま
し
よ
う。

⑤次時の予告をする。
・「かきと かぎ」
かきとかぎの違いを考えるという楽しい学習であると知らせる。
かきとかぎの挿絵を準備しておく。

②学校図書館のきまりについて考えさせる。
・みんなの本であることに気づいて、きまりを自分の言葉で発表させる。
「図書館で本を読むときは、どんなことに注意したらよいでしょうか。」

としよかんへ いこう

なまえ

めあて

○としよしつでの きまり

○えらんだほんを
ともだちにしらせよう。

としよかんへ いこう

記入見本

W
12

なまえ)

)

めあて

よんでみたい ほんを さがそう

○としよしつでの きまり

・しずかに

・ほんをたいせつに

・ほんは、もとのばしよに

○えらんだほんを

ともだちにしらせよう。

ぼくは、どうぶつのえほんをえらびました。

そのわけは、ぞうさんがすきだからです。

13

題材名 「かきとかぎ」（第1時／全1時間）

目標 ○平仮名を読んだり書いたりすることができる。特に、濁音のつく平仮名の表記ができる。
 ・濁音の含む言葉を見つけることができる。（主体的に学習に取り組む態度）

領域等 言葉の特徴や使い方

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「かきと かぎ」とめあてを黒板に書く。 ・本時のめあてを黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">「てんてん」の つく じをよんだり かいたりしよう。</div> ・本時のめあてを明確にするため、子どもたちにも読ませて理解させる。	・本時の目標を知る。
展開 30分	②P42の唱え歌を読む。 ・教師の範読をする。 「先生がゆっくり読んでみます。そのあとで、みなさんに読んでもらいます。 ・共 ^{とも} 読み、一斉読みをさせる。 「先生と一緒に読んでください。」 「自分たちで読んでみましょう。」 ・唱えるように慣れるまで、読みの練習をさせる。	・範読を聞く。 ・先生との声に合わせて読む。 ・自分たちだけで読む。
終末 10分	③P43の平仮名を読む。 「ゆっくり読んでみましょう。はっきり口を開けて読むように注意してください。」 ・字に点々がつくと意味が異なる事に気づかせる。 「『さる』『ざる』とはなんでしょう。どんなものでしょう。」 「絵と文字を線で結んでみましょう。」 ④P43の清音と濁音の平仮名をノートに書く。 「てんてんの書く場所に注意して平仮名を書きましょう。」	・「さる」と「ざる」の違いを発表する。 ・日本語の意味がよくわからない児童は、絵を見て理解する。 ・清音と濁音を書く。
	⑤次時の予告をする。 「次の時間は、『ぶんをつくろう』の学習をします。	・次時の見通しをもつ。 ・挿絵をみて学習意欲が高まる。

指導のポイント

- 子どもたちには、範読に続いて、共^{とも}読み（先生と一緒に読む）、一斉読み（子どもたちで）をさせるようにすると効果的である。
- 読み方は、はじめは細かく分けて、手でリズムを取ったり身体で動作化したりするなど、心地よく言葉のリズムに浸らせるようにするとよい。
- 濁音の位置については、一文字を4つの部屋に分けて、上段右上の部屋に点々を書くように指導するとよい。
- 日本語の意味がわからない児童がいる場合は、絵を通して清音と濁音の読みや言葉の違いに気づくように指導する。

板書例

③P43 の平仮名を読む。

「ゆっくり読んでみましょう。はっきり口を開けて読むように注意してください。」

- ・字に点々がつくと意味が異なる事に気がつかせる。

「『さる』と『ざる』どんな意味でしょう。」

「絵と文字を線で結んでみましょう。」

①題材名「かきと かぎ」とめあてを黒板に書く。

- ・本時のめあてを黒板に書く。
- ・本時のめあてを明確にするため、子どもたちにも読ませて理解させる。

かき さる
ふた こま

かぎ ざる
ぶた ごま

かきの だいな
げんかん うらぐち
まど とだな
どれが どれだか
わからない

めあて
「てんてん」の つく
かいたりしよう。 じをよんだり

かきとかぎ

④P43 の清音と濁音の平仮名をノートに書く。

「てんてんの書く場所に注意して平仮名を書きましょう。」

⑤次時の予告をする。

「次の時間は、『ぶんをつくろう』の学習をします。」

②P42 の唱え歌を読む。

- ・教師の範読をする。
「先生がゆっくり読んでみます。そのあとで、みなさんに読んでもらいます。」
- ・共読み、一斉読みさせる。
「先生と一緒に読んでください。」
「自分たちで読んでみましょう。」
- ・唱えるように慣れるまで、読みの練習をさせる。

かきと かぎ

いちねん

くみ

なまえ

（

めあて

--

○『かきとかぎ』をよみましょう。

さるの だいじな

かぎの たば

げんかん うらぐち

まど とだな

どれが どれだか

わからない

○てんでんのつく じをれんしゅうしましょう。

さ
る

か
ぎ

こ
ま

ふ
た

--

--

--

--

いちねん

くみ

なまえ

めあて

「てんてん」のつく じをよんだり かいたりしよう

○『かきとかぎ』をよみましょう。

さるの だいじな

かぎの たば

げんかん うらぐち

まど とだな

どれが どれだか

わからない

○てんてんのつく じをれんしゅうしましょう。

ちる
る

か
き

こ
ま

ふ
た

ざ
る

か
ぎ

ご
ま

ぶ
た

14

題材名 「ぶんをつくろう」（第1時／全1時間）

目標 ○文の中における主語と述語の関係及び句点を意識して文を書くことができる。
 ・今までの学習をいかして文を書こうとすることができる。（主体的に取り組む態度）

領域等 B 書くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	①題材名「ぶんをつくろう」とめあてを黒板に書く。 ・本時のめあてを黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> きょうかしょの えをみて、おはなしを かんがえよう。 </div> ・本時のめあてを明確にするため、子どもたちにも読ませて理解させる。	・本時の目標を知る。
展開 30分	②P44の絵を見てお話を考える。 「絵の中には、だれがでてきますか。」 「何をしているところでしょう。」 ・「～が ～する。」の形の文を作る。 わたしが はなす。 ぼくが はなす。 みんなが わらう。 おんなのこが はなす。ぼくが きく。 ・文の終わりには『。』をつけることを教える。 ・主語、述語、句点を意識してP44の文を視写させる。	・男の子 女の子 お話をしている。 笑っている。 ・P44の文を視写する。
終末 10分	③P45の挿絵を見て、「～が～。」の文を考えさせる。 ・いろいろな話が出てくると思われるができるだけ許容する。 「絵の中には だれがいますか。」 「ここには、どんな動物や虫がいますか。」 「その人は 何をしていますか。」 ④挿絵や日常生活から、「～が～。」の文を考え、ノートに書かせる。 「挿絵を参考にして、文を作りましょう。おわりに、マル『。』をつけましょう。」	・男の子 女の子 かまきり 先生 ねこ ちょうちょ 女の子が虫を見ている。 ・文を作る。
	⑤次時の予告をする。 「次の時間は、『ねこと ねっこ』の学習をします。	・次時の見通しをもつ。 ・挿絵をみて学習意欲が高まる。

指導のポイント

- 子どもたちの中には、いろいろな話が出てくると考えられる。（例 P45 の挿絵から、子どもたちが走っている。）進行形を使って話すことも考えられる。ここでは、あえて訂正しないで、「そうだね。走る。だね」と言い表すようにしたい。
- 文の終わりには、必ず「。」をつけることを指導する。
- 文字を書くときには書き順を言葉に出しながら書くようにするとよい。

板書例

③P45の挿絵を見て、「～が～。」の文を考えさせる。

- ・いろいろな話が出てくると思われるができるだけ許容する。

「絵の中には だれがいますか。」

「ここには、どんな動物や虫がいますか。」

「その人は 何をしていますか。」

①題材名「ぶんを つくろう」とめあてを黒板に書く。

- ・本時のめあてを黒板に書く。
- ・本時のめあてを明確にするため、子どもたちにも読ませて理解させる。

めあて
ぶんを つくろう

きょうかしよの えをみて、
おはなしを かんがえよう。

わたしが はなす。
みんなが わらう。
ぼくが きく。

p45の挿絵

ねこ
おとこのこ
おんなのこ
せんせい
むし

ぶんを つくりましょう。
おわりに、まるを つけましょう。

④挿絵や日常生活から、「～が～。」の文を考えノートに書かせる。

「挿絵を参考にして、文を作りましょう。おわりに、マル『。』をつけましょう。」

⑤次時の予告をする。

「次の時間は、『ねこと ねっこ』の学習をします。」

②P44の絵を見てお話を考える。

「絵の中には、だれがでてきますか。」

「何をしているところでしょう。」

- ・「～が ～する。」の形の文を作る。

わたしが はなす。 ぼくが はなす。

みんなが わらう。 おとこのこが はなす。

- ・文の終わりには『。』をつけることを教える。

- ・主語、述語、句点を意識して P44 の文を視写させる。

ぶんをつくらう

w
14

いちねん

くみ

なまえ

）

めあて

--

◎ぶんをつくりましょう。

わ	た	し	が						

み	ん	な	が						

◎うえと したを



でおすんで、ぶんをつくりましょう。

○ねこが・

・とんでいる。

○ちようが・

・はなしている。

○せんせいと・

・はしっている。

○おとこのこが・

・ねている。

ぶんをつくろう 記入見本

いちねん くみ なまえ（

めあて

おはなしをかんがえよう

◎ぶんをつくりましょう。

わ	た	し	が	は	な	す	。	
---	---	---	---	---	---	---	---	--

み	ん	な	が	わ	ら	う	。	
---	---	---	---	---	---	---	---	--

◎うえと したを ———— でおすんで、ぶんをつくりましょう。

○ねこが ・ とんでいる。

○ちようが ・ はなしている。

○せんせいと ・ はしっている。

○おとこのこが ・ ねている。

（

15

題材名 「ねこと ねっこ」（第1時／全1時間）

目標 ○促音の表記及び助詞「は」の使い方、句読点の打ち方を考えて、文中で使うことができる。
・促音や半濁音のある言葉を見つけ、文を書こうとすることができる。

（主体的に学習に取り組む態度）

領域等 B 書くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「ねこと ねっこ」とめあてを黒板に書く。 ・本時のめあてを黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin: 5px 0;">よんでみよう かいてみよう</div> ・本時のめあてを明確にするため、子どもたちにも読ませて理解させる。	・本時の目標を知る。
展開 30分	②P46の唱歌を楽しく読み、促音に気づかせる。 「先生が読みます。『つ』のつく言葉を探しながら聞いてください。「小さな『っ』のつく言葉を発表しましょう。」 「先生の後に続いて読んでみましょう。」 ・教師の範読を聞いた後、共読み、一斉読み、一人読みをさせる。	・『つ』のつく言葉を探しながら聞く。 ・『つ』のつく言葉を発表する。 ・共読み、一斉読み、一人読み
終末 10分	③P47の挿絵を見て、「ねこ」「ねっこ」「きつね」「きって」の言葉、意味の違いを考えさせる。 「ねこ」「ねっこ」の違いはどこでしょう。」 「きつね」と「きって」の違いはどこでしょう。」 ④半濁音を読んだり書いたりさせる。 「はらっぱ」と先生の後に続いて読みましょう。 「はらっぱ」とノートに書きましょう。 ・P47の言葉の中の清音、濁音、半濁音、を書き順や濁音、半濁音の位置に気をつけて視写をさせる。 ・濁音、半濁音のある言葉と助詞「は」を使って、簡単な文を書かせる。 ⑤次時の予告をする。 「次の時間は、『わけを はなそう』の学習をします。	・小さな「っ」が入ると意味が全く異なることを理解する。 ・P47を読む。書く。 ・P47の文を視写する。 ・次時の見通しをもつ。 ・挿絵をみて学習意欲が高まる。

指導のポイント

- 促音を「つまる音」と呼ぶことを教え、息を少し止めて発音することを知らせる。
- 音頭については、「範読～共読み～一斉読～一人読み」をふまえて指導する。
- 手をたたきながら、「ねこ」「ねっこ」と言わせて文字数を理解させる。
- 「。」の大きさ、位置、書く方法などに注意して書かせる。その際、一の部屋に「まるやてんてん」を書くことを指導する。文字の基本となるので、個別指導を大切にする。
- 子どもたちが唱歌にたっぷり触れて、目で馴染み、耳で馴染み、口で馴染んでいくことが、促音や半濁音に慣れる方法でもある。

板書例

③P47の挿絵を見て、「ねこ」「ねっこ」「きつね」「きって」の言葉、意味の違いを考えさせる。
「ねこ」「ねっこ」の違いはどこでしょう。「きつね」と「きって」の違いはどこでしょう。」

①題材名「ねこと ねっこ」とめあてを黒板に書く。
・本時のめあてを黒板に書く。
・めあてを明確にするため、子どもたちにも読ませて理解させる。

ばったは、むしです。

きつね
きつね
ねこ
ねっこ

ねこと ねっこ
めあて
よんでみよう かいてみよう
ねこが いっぴき、
はらっぱ はしる。
ねっこ とびこえ、
ばったと かけっこ。

④半濁音を読んだり書いたりさせる。
「『はらっぱ』と先生の後に続いて読みましょう。」
「『はらっぱ』とノートに書きましょう。」
・P47の言葉の中の清音、濁音、半濁音、を書き順や濁音、半濁音の位置に気をつけて視写をさせる。
・濁音、半濁音のある言葉と助詞「は」を使って、簡単な文を書かせる。

⑤次時の予告をする。
「次の時間は、『わけをはなそう』の学習をします。」

②P46の唱え歌を楽しく読み、促音に気づかせる。
「先生が読みます。『つ』のつく言葉を捜しながら聞いてください。「小さな『っ』のつく言葉を発表しましょう。」
「先生の後に続いて読んでみましょう。」
・教師の範読を聞いた後、共読み、一斉読み、一人読みをさせる。

ねこと ねっこ

いちねん

くみ

なまえ

めあて

Blank vertical box for writing the goal (めあて).

ね
こ

ね
っ
こ

Blank box for writing the character 'ね'.

Blank box for writing the character 'こ'.

ことばになるように、□のなかにつかつかきましよう。

き
て

し
ぽ

ば
た
と
か
け
こ

)

ねこと ねっこ

記入見本

w
15

いちねん

くみ

なまえ（

）

めあて

よんでみよう かいてみよう

ね
こ

ね
っ
こ

ね
こ

ね
っ
こ

ことばになるように、□のなかにつかつかつをかきました。

き
っ
て

し
っ
ぽ

ば
っ
た
と
か
け
っ
こ

16

題材名 「わけを はなそう」 (第1時/全1時間)

目標 ○相手に伝わるように行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えることができる。

・自分の気持ちとそのわけを話そうとすることができる。(主体的に学習に取り組む態度)

領域等 A 話すこと・聞くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	<p>① 題材名「わけを はなそう」とめあてを黒板に書く。</p> <p>・本時のめあてを黒板に書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">さしえをみて はなしをしよう。</div> <p>・本時のめあてを明確にするため、子どもたちにも読ませて理解させる。</p>	<p>・本時の目標を知る。</p>
展開 30分	<p>②P48の話型を確認し、P49の挿絵を見て、顔の表情と出来事から女の子の気持ちやわけを考えさせる。</p> <p>「顔の表情から、どんな気持ちかを考え、『私は()です。』に気持ちを表す言葉を入れてみましょう。」</p> <p>「どうしてかという、()だからです。と理由になる言葉を入れてお話しが続くような会話をしましょう。」</p> <p>③P49の挿絵や教師の用意した絵等をもとに、二人組で学んだ話型を使って伝えあう。</p> <p>「()の絵を見て様子がわかるように、友だちと話し合ってみましょう。」</p>	<p>・私は、()です。 私は絵を描くことが好きです。 どうしてかという、絵をほめられてうれしかったからです。</p> <p>・どうしてかという、()だからです・ ・どうしてかという、石につまづいたからです。</p>
終末 10分	<p>④日常生活の中で自分が経験したことを、話型を使って二人組やグループ、全体の前で話させる。</p> <p>「この文にあうような、お話しを考えてみましょう。」</p> <p>⑤次時の予告をする。</p> <p>「次の時間は、『おばさんと おばあさん』の学習をします。」</p>	<p>・女の子がこわがっています。 そのわけは、犬が吠えているからです。</p> <p>・学習したことを自分の生活の中で考えようとする。</p> <p>・次時の見通しをもつ。 ・挿絵をみて学習意欲が高まる。</p>

指導のポイント

○これまでの家庭生活や学校生活の中の経験を思い出して、事柄とわけを話そうとする環境を作ってあげることが主体的な学習につながるので文型を大きな用紙に書いておくとよい。

○一斉学習、ペア学習、グループ学習を組み合わせることで一人一人が活動する時間を確保するようにする。

板書例

③P49 の挿絵や教師の用意した絵等をもとに、二人組で学んだ話型を使って伝えあう。

「（ ）の絵を見て様子がわかるように、友だちと話し合ってみましょう。」

①題材名「わけを はなそう」とめあてを黒板に書く。

- ・本時のめあてを黒板に書く。
- ・本時のめあてを明確にするため、子どもたちにも読ませて理解させる。

わけを はなそう
めあて さしえをみて はなしをしよう。

わたしは、（ ）です。

どうしてかというと、

（ ）からです。

挿絵 笑顔 悲しい顔

わたしは、きのうたのしいことが
ありました。

どうしてかというと、（ ）
からです。

④日常生活の中で自分が経験したことを、話型を使って二人組やグループ、全体の前で話させる。

「生活の中で この文型をつかったお話しを考えてみましょう。」

⑤次時の予告をする。

「次の時間は、『おばさんとおばあさん』の学習をします。」

②P48 の話型を確認し、P49 の挿絵を見て、顔の表情と出来事から女の子の気持ちやわけを考えさせる。

「顔の表情から、どんな気持ちかを考え、『私は（ ）です。』に気持ちを表す言葉を入れてみましょう。」
「どうしてかというと、『（ ）だからです。』と理由になる言葉を入れてお話しが続くような会話をしましょう。」

わけを はなそう

いちねん

くみ

なまえ（

めあて

○わたしは

です。

どうしてかと
いうと、

からです。

○わたしは、きのう たのしいことが
ありました。

どうしてかというと、

からです。

わけを はなそう

記入見本

W
16

いちねん

くみ

なまえ

）

めあて

さしえを みて はなしをしよう。

○わたしは

えをかくことがすき

です。

どうしてかと いうと、

えをほめられてうれしかった

からです。

○わたしは、きのう たのしいことが
ありました。

どうしてかというと、

おはなのめがでた

からです。

例2

どうぶつえんできりんをみた

17

題材名 「おばさんと おばあさん」 (第1時/全1時間)

目標 ○長音の表記、助詞「を」を理解して、文の中で使うことができる。

・長音のある言葉を見つけ、それを使って文を書こうとすることができる

(主体的に学習に取り組む態度)

領域等 B 書くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	①題材名「おばさんと おばあさん」とめあてを黒板に書く。 ・本時のめあてを黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">よんでみよう かいてみよう</div> ・本時のめあてを明確にするため、子どもたちにも読ませて理解させる。	・本時の目標を知る。
展開 30分	②P50の唱え歌を楽しく読み、意味の違いに気づかせる。 「先生が読みます。とても似た言葉が出てきますので、どんな違いがあるのか考えながら、気をつけて聞いてください。 ・長音になることで言葉の意味が変わることに気づかせる。 ・意味の違いを考えながらP50を読ませる。 「おばさんとおばあさんの違いに気をつけて、先生の後に続いて読んでみましょう。」 ・教師の範読を聞いた後、共読み、一斉読み、一人読みをさせる。 ③P51の言葉と挿絵を見て、それぞれの言葉の意味を考えさせながら読みの練習をさせる。 「おかあさんとおばあさん」 「おねえさんとおとうさん」 「おにいさんとおじいさん」 「いもうととおとうと」 P51の長音のある言葉を読んだり書いたり練習をさせる。 「『おかあさんとおばあさん』を声に出しながらノートに書いてみましょう。」	・『おばさん』『おばあさん』の違いに気をつけながら聞く。 ・意味の違いを考えながらP50を読む。 ・共読み、一斉読み、一人読み
終末 10分	④長音のある言葉を使って文を書かせる。 「『いもうとをよぶ』のように文を作ってみましょう。」 ・「～を～」という助詞「を」を使った文を書く練習をさせる。 ⑤次時の予告をする。 「次の時間は、『くちばし』の学習をします。」	・P51の言葉を読みながら視写する。 ・長音を使った文を書く。 ・次時の見通しをもつ。 ・挿絵をみて学習意欲が高まる。

指導のポイント

- 「おばさんとおばあさん」は、長音のついた唱え歌である。子どもたちが調子よく舌慣れ、口慣れ、音慣れするように繰り返し唱えさせたい。言葉遊びをするような感覚で自然に馴染ませるようにしたい。
- 補習校の子どもたちの中には、海外生活の長い子どももいる。挿絵を効果的に活用したり「おばさんとおばあさん」の違いを現地の言い方でも理解させたりして意味の違いについて理解させたい。
- 「おかあさん」と「おかーさん」の読みの違いを知らせ、長音の読み方を手拍子を使って、文字数も含めて理解させる。
- 長音のつく言葉に慣れるように、子どもたちからも生活の中から見つけさせるようにする。(主体的に学習に取り組めるようにさせたい。)
- 長音のつく言葉例 (こうえん ふうせん おうむ等)
- 文字を書く場合に、一文字を4つの部屋に分けて、どの部屋から書き出していくと美しい文字になるか指導する。(大きいマス目の用紙を準備しておくといよい。)

板書例

③P51の言葉と挿絵を見て、それぞれの言葉の意味を考えさせながら読みの練習をさせる。

「おかあさんとおばあさん」「おねえさんとおとうさん」

「おにいさんとおじいさん」「いもうととおとうと」

・P51の長音のある言葉を読んだり書いたり練習をさせる。

「『おかあさんとおばあさん』を声に出しながらノートに書いてみましょう。」

①題材名「おばさんと おばあさん」とめあてを黒板に書く。

・本時のめあてを黒板に書く。

・本時のめあてを明確にするため、子どもたちにも読ませて理解させる。

おばさんとおばあさん
めあて
よんでみよう かいてみよう

まほうのほうきで
そらとぶおばさん。
げんきにたいそう
おばあさん。

おかあさん
おばあさん
おにいさん
おじいさん
おねえさん
おとうさん

いもうとをよぶ。
おとうとをよぶ。

④長音のある言葉を使って文を書かせる。

「『いもうとをよぶ』のように文を作ってみましょう。」

・「～を～。」という助詞「を」を使った文を書く練習をさせる。

⑤次時の予告をする。

「次の時間は、『くちばし』の学習をします。」

②P50の唱え歌を楽しく読み、意味の違いに気づかせる。

「先生が読みます。とても似た言葉が出てきますので、どんな違いがあるのか考えながら、気をつけて聞いてください。」

・長音になることで言葉の意味が変わることに気づかせる。

・意味の違いを考えながらP50を読ませる。

「おばさんとおばあさんの違いに気をつけて、先生の後について読んでみましょう。」

・教師の範読を聞いた後、共読み、一斉読み、一人読みをさせる。

おばさんと おばあさん

いちねん

くみ

なまえ

(

めあて

--

『いえの ひと』の よびかたを、ただしく

かきましよう。

お
か

お
と

お
ば

お
ね

『いもうとをよぶ』のようにぶんをつ

くろう

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

『いえの ひと』の よびかたをのーとにかきましよう。

おばさんと おばあさん

記入見本

いちねん

くみ

なまえ

めあて

よんでみよう かいてみよう

『いえのひと』のよびかたを、ただしく

かきましよう。

お か あ さ ん

お と う さ ん

お ば あ さ ん

お ね え さ ん

『いもうとをよぶ』のようにぶんをつ

くろう

お ば あ さ ん を よ ぶ 。

『いえのひと』のよびかたをのーとにかきましよう。

18

題材名 「くちばし」①（第1時／全3時間）

目標 ・ 説明の順序や内容を考えながら読み、自分の経験と結び付けて、感想をもつことができる。

領域名 C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 10分	① 題材名「くちばし」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 「くちばしの ひみつを よみとろう」 ・ワークシートを配布し、書きこませる。	・本時のめあてを知る。
展開 33分	③ いろいろな鳥について、知っていることを発表させる。 「どんな鳥の名前を知っていますか。」 ④ P53 を読み、何のくちばしか話し合わせる。 「これはなんのくちばしでしょう。」 ⑤ P54 を読み、わかったことをまとめさせる。 「なんのくちばしだったでしょう。」 ⑥ P55 を読み、何のくちばしか話し合わせる。	・いろいろな鳥について知っていることを発表する。 ・それぞれのくちばしについて「何のくちばしだろう」「わかったことはどんなことだろう」と考えさせる。
終末 2分	⑦ P56 を読み、わかったことをまとめさせる。 ⑧ P57 を読み、何のくちばしか話し合わせる。 ⑨ P58 を読み、わかったことをまとめさせる。 ⑩ 本時の学習を確認させる。 「くちばしのひみつが読みとれましたか。」	・本時の学習を振り返る。

指導のポイント

○ 鳥についての学習

- ・子どもたちが鳥の名前をいくつも知っていることも考えられるが、名前は知らなくても、実際に鳥と触れ合っている子や家庭で鳥を飼って世話をしているような子もいることを想定しながら指導にあたりたい。また、海外では、その地での鳥の呼び名が日本とは異なるであろうことも、十分に留意しておく必要がある。
- ・子どもたちといっしょに、実際に鳥を見つける時間を設定することも考えられる。授業時間内に行うことがむずかしければ、休み時間を使ってもよいだろう。子どもたちの学習意欲を喚起させることに結びつくと期待できるが、いずれにしても、安全面・治安面には十分に留意する必要がある

板書例

- ① 題材名「くちばし」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を知らせる。
 - ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

③ いろいろな鳥について、知っていることを発表させる。
「どんな鳥の名前を知っていますか。」

- ④ P53 を読み、何のくちばしか話し合わせる。
「これはなんのくちばしでしょう。」
 - ⑤ P54 を読み、わかったことをまとめさせる。
「なんのくちばしだったでしょう。」
- ※ 3つのくちばしについて、それぞれ活動させる。

くちばし	なんのくちばしでしょう。
くちばしの ひみつを よみとろう	
53頁の写真 きつつき すどくとがった ↓ きにあなをあけて くちばし むしをたべる。	54頁の写真
55頁の写真 おうむ ふとくて、さきが ↓ かたいからをわって まがったくちばし みをたべる。	56頁の写真
57頁の写真 はちどり ほそくてながく ↓ はなのなかにいれて のびたくちばし みつをすう	58頁の写真

- ⑩ 本時の学習を確認させる。
「くちばしのひみつが読みとれましたか。」

くちばし①

くちねん くみ なねん()

めあて

[Empty rectangular box for the goal]

なんの くちばし でしょう。

43ページの写真

[Grid of 4 boxes] の くちばし
[Long empty box] くちばし

45ページの写真

[Grid of 3 boxes] の くちばし
[Long empty box] くちばし

47ページの写真

[Grid of 4 boxes] の くちばし
[Long empty box] くちばし

くちばし①(記入例)

くちねん くみ なまえ()

めあて

くちばしの ひみつを よみとる。

なんの くちばし でしょう。

43ページの写真

き	つ	つ	き	の くちばし
するどく とがた				くちばし

きに あなを あけて おしを たぐる。

45ページの写真

お	う	お	の くちばし
ふとくて、ちぎが まがた			くちばし

かたい からを わて みを たぐる。

47ページの写真

は	ち	ど	り	の くちばし
ほそくて なかく のびた				くちばし

はなの なかに いれて みつを すう。

題材名 「くちばし」②（第2時／全3時間）

目標 説明の順序や内容を考えながら読み、自分の経験と結び付けて、感想をもつことができる。

領域名 C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 10分	② 題材名「くちばし」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 「『とい』と『こたえ』のぶんを みつけよう」 ・ワークシートを配布し、書き込ませる。	・本時のめあてを知る。 ・範読を聞く。
展開 33分	③ 範読する。 ④ 音読させる。 ・一人読み → 一斉読み ⑤ P53を読んで、「問い」の文を見つけさせる。 「『問い』になっている文を見つけましょう。」 ⑥ P54を読んで、「答え」の文を見つけさせる。 「『答え』になっている文を見つけましょう。」	・範読を聞く。 ・音読する。 ・P53を読んで「問い」の文を見つける。 ・P54を読んで「答え」の文を見つける。
終末 2分	⑦ 説明の文を書き出し、視写させる。 「『説明』の文を書き写しましょう。」 ⑧ P55 ～ P58 を読んで、「おうむ」と「はちどり」についても 同 じようにまとめさせる。 「『おうむ』と『はちどり』についても、まとめてみましょう。」 ⑨ 本時の学習を確認させる。 「『問い』と『答え』の文を見つけることができましたか。」	・説明の文を視写する。 ・P55～P58を読んで、「おうむ」と「はちどり」についても同じようにまとめる。 ・本時の学習を確認する。

指導のポイント

- 学習活動について ・写真と文を照応させながら、三つのくちばしについて、それぞれが「問い・答えと説明」という形式になっていることを理解する。

板書例

- ① 題材名「くちばし」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を知らせる。
 - ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

- ③ 範読する。
- ④ 音読させる

- ⑤ P53 を読んで、「問い」の文を見つけさせる。
「『問い』になっている文を見つけましょう。」
- ⑥ P54 を読んで、「答え」の文を見つけさせる。
「『答え』になっている文を見つけましょう。」
- ⑦ 説明の文を書き出し、視写させる。
「『説明』の文を書き写しましょう。」
- ⑧ P55～P58 を読んで、「おうむ」と「はちどり」についても 同じように
まとめさせる。
「『おうむ』と『はちどり』についても、まとめてみましょう。」

くちばし

「どい」と「こたえ」の ぶんを みつけよう

53 頁の写真

「どい」これは、なんのくちばしでしょう。
「こたえ」これは、きつつきのくちばしです。
「せつめい」きつつきは、とがたくちばしで、きにあなをあげ、きのなかにいるむしをたべます。

55 頁の写真

「どい」これは、なんのくちばしでしょう。
「こたえ」これは、おうむのくちばしです。
「せつめい」おうむは、まがったくちばしのさきで、かたいたねのからをわりなかのみをたべます。

57 頁の写真

「どい」これは、なんのくちばしでしょう。
「こたえ」これは、はちどりのくちばしです。
「せつめい」はちどりは、ほそながいくちばしを、はなのなかにいれ、はなのみつをすいます

- ⑨ 本時の学習を確認させる。
「『問い』と『答え』の文を見つけることができましたか。」

くちばし②

くちねん くみ なかえ()

めあえ

Empty rectangular box for drawing or writing.

「ㄨ」

43<-ㄨ	「ㄨ」
写真	「ㄨ」

「ㄨ」

45<-ㄨ	「ㄨ」
写真	「ㄨ」

「ㄨ」

47<-ㄨ	「ㄨ」
写真	「ㄨ」

くちばし②(記入例)

くちねん くみ なまえ()

めあて

「とら」と「いたえ」のふんをみつけよう

「とら」これは、なんのくちばしでしょう。

43<->の 写真	「いたえ」これは、せつめいのくちばしです。 「せつめい」せつめいは、まがたのくちばし。
--------------	--

せつめい あなを あけ、せいの なかに いる おしを だくね。

45<->の 写真	「とら」これは、なんのくちばしでしょう。 「いたえ」これは、おうおのくちばしです。
--------------	--

「せつめい」おうおは、まがたのくちばしのせつめい、

かたいたねの からを わり、なかの むを だくね。

47<->の 写真	「とら」これは、なんのくちばしでしょう。 「いたえ」これは、はちどりのくちばしです。
--------------	---

「せつめい」はちどりは、ほそながい くちばしを、はなの

なかに いる、はなの むを だくね。

20

題材名 「くちばし」③（第3時／全3時間）

目標 説明の順序や内容を考えながら読み，自分の経験と結び付けて，感想をもつことができる。

領域名 C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 10分	② 題材名「くちばし」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 「くちばしの ひみつを みつけよう」 ・ワークシートを配布し、書き込ませる。	・本時のめあてを知る。
展開 33分	③ 知っている鳥や見たことのある鳥について発表させる。 「どんな鳥を知っていますか。」 ④ くちばしとえさの関係について、考えたことを発表させる。 「くちばしは、どんな形をしているでしょう。それは、何をするのにそうなのでしょう。」	・くちばしとえさの関係について、考えたことを発表する。
終末 2分	⑤ よく知っている動物について「問」と「答え」の文を書かせる。 「『これは何の～でしょう。』」「『これは～の～です。』という文で書きましょう。」 ・図鑑などで、くちばしの形と食べているものなどが分かる資料があれば、提示できるとよい。 ⑥ 書いた文を発表させる。 ⑦ 本時の学習を確認させる。 「くちばしのひみつを見つけることができましたか。」	・よく知っているもしくは調べた動物について「問」と「答え」の文を書く。 ・書いた文を発表させる。 ・本時の学習の確認をする。

指導のポイント

○ 学習活動について ・写真と文を照応させながら，三つのくちばしについて，それぞれが「問い・答えと説明」という形式になっていることを理解する。

板書例

- ① 題材名「くちばし」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を知らせる。
 - ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

- ③ 知っている鳥や見たことのある鳥について発表させる。
「どんな鳥を知っていますか。」
- ④ くちばしとえさの関係について、考えたことを発表させる。
「くちばしは、どんな形をしているでしょう。それは、何をするのに便利なのでしょうか。」
- ⑤ よく知っている動物について、「問い」と「答え」の文を書かせる。

くちばし

くちばしの ひみつを みつけよう

○知っている とりについて はっぴようしよう。
にわたりの くちばしは とがっている

◇「問い」と「こたえ」のぶんを かこう
にわたりの くちばしが とがっているのは
ちいさい えさを ひろうためです。

◇じぶんで かんがえた ぶんを はっぴようしよう。

- ⑥ 書いた文を発表させる。
- ⑦ 本時の学習を確認させる。
「くちばしのひみつを見つけることができましたか。」

くまのぼん③

いちねん くま のせう ()

めあて

[Empty rectangular box for writing the objective]

「とら」

[Horizontal lines for writing the first objective]

「りせう」

[Horizontal lines for writing the second objective]

「せうせう」

[Horizontal lines for writing the third objective]

くちばし③ (記入例)

いちねん くみ なまえ ()

めあて

くちばしの ひみつを みつけよう

「とら」

ほそくし とがった くちばしです。

これは、なんの くちばしでしょう。

「いたえ」

これは、かわせみの くちばしです。

「せつめい」

かわせみは、水のうえから かわのなかを みつめ、

せかなを みつけるよ、すばやく みずのなかに

くちばしを せしめれます。そして、せかなを

はねんで せしめれます。

21

題材名 「おもちゃと おもちゃ」（第1時／全1時間）

目 標 ○拗音の表記、助詞の「へ」を理解して、文の中で使うことができる。

・進んで拗音のある言葉を見つけ、それを使って文を書こうとすることができる。

（主体的に学習に取り組む態度）

領域等 B 書くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	<p>① 題材名「おもちゃと おもちゃ」とめあてを黒板に書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時のめあてを黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">よんでみよう かいてみよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・本時のめあてを明確にするため、子どもたちにも読ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標を知る。
展開 30分	<p>② P60「おもちゃとおもちゃ」をリズムにのって読む練習をさせる。</p> <p>。「先生が読みます。とても似た言葉が出てきますので、どんな違いがあるのか考えながら、気をつけて聞いてください。」</p> <p>「次の言葉を手拍子しながら読んでみましょう。」</p> <p>「おもちゃ」「おもちゃ」</p> <p>「今日は、小さい『や ゆ よ』が入った言葉を学習します。」</p> <p>「おもちゃとおもちゃの違いに気をつけて、先生の後に続いて読んでみましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の範読を聞いた後、共読み、一斉読み、一人読みをさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・『おもちゃ』『おもちゃ』の違いに気をつけながら聞く。 ・手拍子をして、読む。 ・意味の違いを考えながらP60を読む。
終末 10分	<p>③P61の拗音のある言葉を読んだり書いたりして練習をさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拗音の文字の書き方を知らせる。 <p>「ちいさな、や ゆ よ をノートに書いてみましょう。」</p> <p>じてんしゃ あくしゅ としょかん じゃんけん ぎゅうにゅう しよつき</p> <p>④拗音のある言葉を使って文を書かせる。</p> <p>「『おもちゃへいく。』のように文を作ってみましょう。」</p> <p>⑤次時の予告をする。</p> <p>「次の時間は、『あいうえおで あそぼう』の学習をします。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・共読み、一斉読み、一人読み ・P61の拗音を使った言葉を読んだり、書いたりする。 ・拗音を使った文を書く。
		<ul style="list-style-type: none"> ・次時の見通しをもつ。 ・挿絵をみて学習意欲が高まる。

指導のポイント

○「おもちゃとおもちゃ」は、拗音のついたリズム歌である。子どもたちが調子よく舌慣れ、口慣れ、音慣れするように繰り返し唱えさせたい。共読みしたり一人読みをしたりする中で、リズムよく自然に身につくような指導を工夫していきたい。

○補習校の子どもたちの中には、海外生活の長い子どももいる。挿絵を効果的に活用したり「おもちゃとおもちゃ」の違いを現地の言い方でも理解させたりして意味の違いについて理解させたい。

また、「おもちゃ」という店は海外ではない。日本では、和菓子屋さんや団子屋さんなどの一部で、おもちゃを売っていることなどを知らせる。

○拗音のついた言葉は、特に口をしっかりと開けて、はっきり発音することが大切であることを伝える。

○拗音は、促音「っ」や句読点と同様に、マス目の右上に書くことを理解させる。

（大きいマス目の用紙を準備しておくとうい。）

板書例

③P61 の拗音のある言葉を読んだり書いたり練習をさせる。

- ・拗音の文字の書き方を知らせる。
じてんしゃ あくしゅ としょかん
じゃんけん ぎゅうにゅう しょつき

①題材名「おもちゃと おもちゃ」とめあてを黒板に書く。

- ・本時のめあてを黒板に書く。
- ・本時のめあてを明確にするため、子どもたちにも読ませて理解させる。

おもちゃやへいく

じてんしゃ
あくしゅ
としょかん
じゃんけん
ぎゅうにゅう
しょつき

おきやくが ぎょうれつ
しょうてんがい。
おもちの ならぶ
おもちやさん。
おもちやが いっぱい
おもちややさん。

おもちゃと おもちゃ
めあて
よんでみよう かいてみよう

④拗音のある言葉を使って文を書かせる。

「『おもちゃやへいく』のように文を作ってみましょう。」

⑤次時の予告をする。

「次の時間は、『あいうえおであそぼう』の学習をします。」

②P60「おもちゃとおもちゃ」をリズムにのって読む練習をさせる。

「先生が読みます。とても似た言葉が出てきますので、どんな違いがあるのか考えながら、気をつけて聞いてください。」

「次の言葉を手拍子しながら読んでみましょう。」

「おもちゃ」 「おもちゃ」

「今日は、小さい『や ゆ よ』が入った言葉を学習します。」

「おもちゃとおもちゃの違いに気をつけて、先生の後に続いて読んでみましょう。」

- ・教師の範読を聞いた後、共読み、一斉読み、一人読みをさせる。

おもちゃとおもちや

いちねん

くみ

なまえ

)

めあて

よんでみよう かいてみよう

よんだり かいたり しよう。

○かきましよう。

じてん

じ ン

あく

し き

『おもちゃや』のようになんを

かって、ぶんをつくらう。

○『ちいさい や ゆ よ』をつかったことばを

のーとにかこう。

いちねん

くみ

なまえ(

)

めあて

よんでみよう かいてみよう

よんだり かいたり しよう。

○かきましよう。

じてんしや

じやんけん

あくしゆ

しよつき

『おもちゃや』のようになんかをつ
かいて、ぶんをつくらう。

がつ じゆう へい いく。

○『ちいさい や ゆ よ』をつかったことばを

のーとにかこう。

22

題材名 「あいうえおで あそぼう」 (第1時/全1時間)

目標 ○長く親しまれている言葉遊びを通して、語や文のまとまり、リズム、母音の響きなどを考えながら読むことができる。

・言葉遊びを楽しもうとすることができる。(主体的に学習に取り組む態度)

領域等 B 書くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	①題材名「あいうえおで あそぼう」とめあてを黒板に書く。 ・本時のめあてを黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">「あいうえお」をこえにだして うたおう。</div> ・本時のめあてを明確にするため、子どもたちにも読ませて理解させる。	・本時の目標を知る。 ・本時のめあてを読む。
展開 30分	②P62～P63の言葉遊び歌をリズムに乗って読む練習をさせる。 ・教師の範読を聞かせる。 ・共読み、一斉読みをさせる。 「先生が読みます。みなさんは、先生の口の形に注意しながら、またリズムを取りながら聞いてください。」 「先生と一緒に口の形に気をつけて、はっきりとした発音で読んでください。」 ・一行読みをさせる。 ・一斉読み、一人読みをさせる。	・先生の口の形に注意して聞く ・共読みをする。 ・一行読みをする。 ・一斉読み、一人読みをする。
終末 10分	③P64「あ・い・う・え・お」の表を見て、話し合う。 「たてやよこによみましょう。」 「しりとりをしましょう。」	・五十音表をたて、よこに読んでいく。 ・しりとりをする。
	④次時の予告をする。 「次の時間は、『おおきくなった』の学習をします。」	・次時の見通しをもつ。 ・挿絵をみて学習意欲が高まる。

指導のポイント

- 子どもたちは、リズムカルな文章が好きである。身体で感じ、そのまま表現できるからであろう。「あいうえおで あそぼう」は、何度も読んでいっうちに暗唱できる楽しいリズム歌である。暗唱を繰り返すうちに、子どもたちは母音の発音や言語感覚を身に付けていくに違いない。
- 母音を正確に発音させることは、子音の発音を指導する上で極めて重要である。しかしながら、母音を一字一字、姿勢、口形などに注意して反復練習させすぎると、単語としての発音にずれが生じてしまうことがある。そこで、「あ・い・う・え・お」の母音を語頭においたリズムカルな「あいうえおであそぼう」を学習させることによって、楽しみながら言葉としての母音の正確な発音と表記を習得させることを目標としたい。
- 口形に気をつけて縦や横に読んだり、各行の列の音の特徴に気をつけて読んだりさせたい。
- 「しりとり」遊びを通して日本語のおもしろさやたのしさを感じさせたい。

板書例

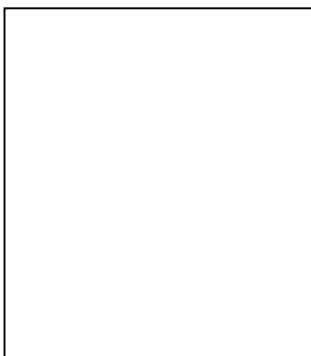
③P64「あ・い・う」の表を見て、話し合う。
「たてやよこによみましょう。」

「しりとりをしましょう。」

①題材名「あいうえおで あそぼう」と
めあてを黒板に書く。

- ・本時のめあてを黒板に書く。
- ・本時のめあてを明確にするため、子どもたちにも読ませて理解させる。

五十音表



あやとり いすとり あいうえお
かきの み くわの み かきくけこ
さんかく しかく さしすせそ
たこいと つりいと たちつてと

あいうえおで あそぼう
めあて
「あいうえお」をこえにだして
うたおう。

④次時の予告をする。
「次の時間は、『おおきくなった』の
学習をします。」

②P62～P63 の言葉遊び歌をリズムに乗って読む練習をさせる。

- ・教師の範読を聞かせる。
- ・共読み、一斉読みをさせる。

「先生が読みます。みなさんは、先生の口の形に注意しながら、またリズムを取りながら聞いてください。」

「先生と一緒に口の形に気をつけて、はっきりとした発音で読んでください。」

- ・一行読みをさせる。
- ・一斉読み、一人読みをさせる。

あいうえおで あそぼう

W
22

いちねん

くみ

なまえ

(

めあて

さんかいよんで◎○△をつけましょう。

◎よくできた ○できた △もうすこし

あやとり いすとり あいうえお
かきの みくわの み かきくけこ
さんかく しかく さしすせそ
たこいと つりいと たちつてと
なのはな ののはな なにぬねの
はるの ひ ふゆの ひ はひふへほ
まつむし みのむし まみむめも
やかん ようかん やいゆえよ
らんらん るんるん らりるれろ
わくわく わいわい わいうえお
ん ◎○○△()()()()

あいうえおで あそぼう

記入見本

W
22

いちねん

くみ

なまえ

)

めあて

さんかいよんで◎○△をつけましょう。

『あいうえお』をこえにだして うたおう。

◎よくできた ○できた △もうすこし

あやとり いすとり あいうえお
かきの み くわの み かきくけこ
さんかく しかく さしすせそ
たこいと つりいと たちつてと
なのはな ののはな なにぬねの
はるの ひ ふゆの ひ はひふへほ
まつむし みのむし まみむめも
やかん ようかん やいゆえよ
らんらん るんるん らりるれろ
わくわく わいわい わいうえお
ん ◎○△()()()()

23

題材名 「おおきく なった」 (第1時/全1時間)

目標 ○観察したことなどから書く事柄を見つけ、文章の中で使うことができる。
 ・観察したことを記録しようとするすることができる。(主体的に学習に取り組む態度)

領域等 B 書くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	①題材名「おおきく なった」とめあてを黒板に書く。 ・本時のめあてを黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">よくみて くわしく かこう</div>	・本時の目標を知る。
展開 30分	②学習の見通しを持たせる。 ・現地校や家庭で育てている植物の様子を想起し、「よくみて くわしくかく」という学習課題を確認させる。 「教科書P66～P67を参考にして、現地校や家庭で育てている草花をくわしくかけるようにしましょう。」 ・くわしく書いてある観点(いろ、たかさ、におい、かたちなど)を確かめる。 「P66～P67を先生が読みます。詳しく書いているところに線を引きながら聞きましょう。」 ・線を引いたところを全員で確かめる。	・P66の観点『いろ、たかさ、においなど』を確かめる。 ・観点到に沿って書いてある文に線を引きながら先生の話聞く。
終末 10分	③観察記録の書き方を知らせる。 ・P66～P67を参考に共通点、相違点を見つけさせる。 「二つの観察文を比べて、似ている所と違う所はどんなところでしょう。」 ④観察記録を書かせる。 ・教師が事前に準備しておいた物(補習校近辺の物)を提示して観察記録を書かせる。 「教科書を参考にして、観察した植物を家の方にわかるように観察記録にしよう。」 ⑤次時の予告をする。 「次の時間は、『おおきな かぶ』の学習をします。	・二つの観察記録の書き方の違いに気づく。 ・観察記録を書く。 ・次時の見通しをもつ。 ・挿絵をみて学習意欲が高まる。

指導のポイント

- どんな観点を観察したいかを P66 の観点を整理する。その他の観点があれば加える。
- 文で書けない場合は、絵やイラストで描いてもよいことを知らせる。その場合も整理した観点を基に書くように指導する。
- 補習校の授業時間の関係上、生活科や他の教科との合科は難しいが現地校や家庭での様子を想起させ学習したことを今後に生かせるように指導する。
- 子どもたちが書いた観察記録をもとに友だちと交流をし、いろいろな書き方があってよいことを理解させる。
- 現地にあさがおの種がない場合はラディッシュ(赤い小さなかぶ)やミニトマトでもおもしろい。(かぶは、次時の「おおきなかぶ」につながり、ミニトマトは生活科などとも関連する。)

板書例

③観察記録の書き方を知らせる。

・P66～P67 を参考に共通点、相違点を見つけさせる。

「二つの観察文を比べて、似ている所と違う所はどんなところでしょう。」

①題材名「おおきく なった」とめあてを黒板に書く。

- ・本時のめあてを黒板に書く。
- ・本時のめあてを明確にするため、子どもたちにも読ませて理解させる。

準備してきた草花

ちくちく
おなじくらい
わたしのと
かたち ふとさ
いろいろ たかさ
さわたたかさん
におい

教科書の観察メモ

めあて
よくみて くわしくかこう
おおきく なった

④観察記録を書かせる。

・教師が事前に準備しておいた物（補習校近辺の物）を提示して観察記録を書かせる。

「教科書を参考に観察をしたことを家の方にわかるような観察記録にしよう。」

⑤次時の予告をする。

「次の時間は、『おおきな かぶ』の学習をします。」

②学習の見通しを持たせる。

・現地校や家庭で育てている植物の様子を想起し、「よくみてくわしくかく」という学習課題を確認させる。

「教科書 P66～P67 を参考にして、現地校や家庭で育てている草花をくわしくかけるようにしましょう。」

・くわしく書いてある観点（いろ、たかさ、におい、かたちなど）を確かめる。

「P66～P67 を先生が読みます。詳しく書いているところに線を引きながら聞きましょう。」

・線を引いたところを全員で確かめる。

おおきく なった

いちねん くみ なまえ)

めあて

よくみて くわしく かこう。

くわしく かく こと

・いろ ・たかさ ・におい

・かたち ・ふとさ ・さわったかんじ

・おおきさ ・かず ・おもさ

○はっぱのおおきさは、どのくらいですか。

とおなじくらいです。

○さわったかんじが かいてあることはをかきましよう。

さわると

します。

おおきく なった

記入見本

W
23

いちねん

くみ

なまえ

（

めあて

よくみて くわしく かこう。

くわしく かくこと

・いろ ・たかさ ・におい

・かたち ・ふとさ ・さわったかんじ

・おおきさ ・かず ・おもさ

○はっぱのおおきさは、どのくらいですか。

わたしのて

とおなじくらいです。

○さわったかんじが かいてあることばをか
きましよう。

さわると

ちくちく

します。

かんさつカード

え

なまえ

(
(がつ
(
(にち

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

)

24

題材名 「大きなかぶ」①（第1時／全3時間）

目標 繰り返しの言葉や文章のリズムを考えながら音読することができる。

領域名 C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 10分	① 題材名「おおきな かぶ」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 「げきをつくるために『おおきな かぶ』をよもう」 ・ワークシートを配布し、目当てを確認する。	・本時のめあてを知る。
展開 33分	③ 範読し、お話のあら筋をつかませる。 「どんな人や動物が出てくるか、また、どんなお話なのかなどを考えながら、聞きましょう。」 ④ 「だれが、どうして、どうなったか」を考えさせながら、音読する。 ⑤ 登場人物を把握させる。 「どんな人や動物が出てきましたか。」	・範読を聞き、お話のあらすじをつかむ。
終末 2分	⑥ あら筋を把握させる。 「どんなお話でしたか。」 ⑦ 本時の学習を確認させる。 「劇をつくるつもりで『おおきなかぶ』が読めましたか。」	・「だれが、どうして、どうなったか」を考えさせながら、音読する。 ・登場人物を把握する。 ・あら筋を把握する。 ・本時の学習を確認する。

指導のポイント

○ 範読について

- ・教師が範読し、子どもたちと語り合いながら読み進めていく。CDがあれば活用するのもよいが、ここでは、なるべく子どもたちとのかけ合いを持つようにする方が望ましい。
- ・登場人物に注意して、聞くことに集中させる。子どもたちの状況を見ながら、必要に応じて読みの速さを工夫する必要がある。
- ・文章とさし絵が必ずしも一致していないことに気づかせ、どの場面の絵が不足しているかを理解させる。

板書例

- ① 題材名「おおきな かぶ」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
 - ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

③ 範読し、お話のあら筋をつかませる。
「どんな人や動物が出てくるか、また、どんなお話なのかななどを考えながら、聞きましょう。」

- ④ 「だれが、どうして、どうなったか」を考えさせながら、音読させる。
- ⑤ 登場人物を把握させる。
「どんな人や動物が出てきましたか。」
- ⑥ あら筋を把握させる。
「どんなお話でしたか。」

おおきな かぶ

げきを つくるために 「おおきなかぶ」を よもう

○でてくるひとやどうぶつ

- ・ おじいさん
- ・ おばあさん
- ・ まご
- ・ いぬ
- ・ ねこ
- ・ ねずみ

○なかなかぬけないおおきなかぶ

おじいさん ← おばあさん ← まご ← いぬ ← ねこ ← ねずみ ← やつとぬけた

- ⑦ 本時の学習を確認させる。
「劇をつくるつもりで『おおきなかぶ』が読めましたか。」

かきかき かき①

かきかき かきかき ()

かき

Empty rectangular box for handwriting practice.

かきかき かきかき

Five horizontal dotted lines for handwriting practice.

かきかき かきかき

Three horizontal dotted lines for handwriting practice.

おおきな かぶ①(記入例)

W 24

いねん くみ なまえ()

めあて

げきを つくるために 「おおきな かぶ」
を よもう

でんくる ひどや どうぶつ

・おじいちゃん

・おばあちゃん

・おにい

・いぬ ・ねこ ・ねずみ

どんな おはなし でしょう。

なかなか ぬけない おおきな かぶを

みんなで ちからを

あわせて ぬいた おはなし。

25

題材名 「大きなかぶ」②（第2時／全3時間）

目 標 場面の様子や登場人物について想像を広げながら読むことができる。

領域名 C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 10分	① 題材名「おおきな かぶ」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 「『おおきなかぶ』をもっとくわしくよんでいこう」 ・ワークシートを配布し、目当てを確認する。	・本時のめあてを知る。
展開 33分	③ P70,P71 を読んで、おじいさんの気持ちを想像させる。 「おじいさんは、どんな気持ちだったでしょう。」 ④P71、P72、L1を読んで、おじいさん・おばあさん・孫の気持ちを想像させる。 「おじいさん・おばあさん・孫はどんな気持ちだったでしょう。」	・おじいさんの気持ちを想像する。 ・おじいさん、おばあさん、孫の気持ちを想像する。
終末 2分	⑤ P72～P73、L2 を読んで、おじいさん・おばあさん・孫・犬の気持ちを想像させる。 「おじいさん・おばあさん・孫・犬は、どんな気持ちだったでしょう。」 ⑥ P73～P74、L6 を読んで、おじいさん・おばあさん・孫・犬・ねこの気持ちを想像させる。 「おじいさん・おばあさん・孫・犬・ねこは、どんな気持ちだったでしょう。」 ⑦ P74L8～P76、L4 を読んで、動作化させる。 「声に出しながら、動きをつけてみましょう。」 ⑧ 本時の学習を確認させる。 「『おおきな かぶ』をくわしく読んでいくことができましたか。」	・おじいさん、おばあさん、孫、犬の気持ちを想像する。 ・おじいさん、おばあさん、孫、犬、ねこの気持ちを想像する。 ・動作化する。 ・本時の学習を確認する。

指導のポイント

○ 繰り返しのおもしろさ

- ・子どもたちの出会う絵本の中で、子どもたちに共通して好まれるものは、「繰り返しのあるもの」と「リズムカルな文章のもの」である。本教材「大きなかぶ」は、この二つの要素を押さえたものである。繰り返しの部分は、単純な繰り返しだけでなく、繰り返すたびに登場人物が一人ずつ加わると同時に、言葉も微妙に変化している。また、文章表現は、リズムカルで音読しやすく、自然に暗唱できるであろう。

板書例

- ① 題材名「おおきな かぶ」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
 - ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

- ③ おじいさんの気持ちを想像させる。
「おじいさんは、どんな気持ちだったでしょう。」
- ④ おじいさん・おばあさん・孫の気持ちを想像させる。
「おじいさん・おばあさん・孫は、どんな気持ちだったでしょう。」
- ⑤ おじいさん・おばあさん・孫・犬の気持ちを想像させる。
「おじいさん・おばあさん・孫・犬は、どんな気持ちだったでしょう。」
- ⑥ おじいさん・おばあさん・孫・犬ねこの気持ちを想像させる。
「おじいさん・おばあさん・孫・犬・ねこは、どんな気持ちだったでしょう。」
- ⑦ 動作化させる。
「声に出しながら、動きをつけてみましょう。」

教科書の挿絵をコピーするなどして、イメージを持たせる。

◇うごきをつけてみよう

おじいさんのきもち
・はやく おおきなあれ
・おいしい かぶが たべたいな
おじいさん・おばあさん・まじいぬ・ねこのきもち
・なかなかぬけないな
・みんなでちからを あわせよう
・みんなでちからを
あわせよう
・もうすこしでぬけそうだから
だれか つたて

「おおきなかぶ」をもっとくわしくよんでいこう

おおきな
かぶ

- ⑧ 本時の学習を確認させる。
「『おおきな かぶ』をくわしく読むことができましたか。」

おはなから②

おねん くみ おねん()

おねん

Empty rectangular box for writing practice.

おしりへの おねん

・おねん

・おしり

おしりへの・おねんへの・おねん・おしりへの

いねん くみ なまえ()

めあて

「おおきなかぶ」を もっと くわしく
よんでほしい

おじいさんの おまめ

・はやく おおきく なれ。

・おじい かぶ が たくさん。

うじいさん・おばあさん・おにい・おね・おねの おまめ

・なかなか ぬけないな。

・みんなで ちからを あわせよう。

・もう すこし で ぬけそう。

26

題材名 「大きなかぶ」③（第3時／全3時間）

目標 場面の様子や登場人物について想像を広げながら読むことができる。

領域名 C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 10分	① 題材名「おおきな かぶ」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 「やくわりを わけて れんしゅうし、 げきをつくろう」 ・ワークシートを配布し、目当てを確認する。	・本時のめあてを知る。
展開 33分	③ 全文を通して音読させ、だれが、どこを読むのかを分担させる。 「だれが、どこを読むのか、分けましょう。」 ④ 分担された部分を読む練習をさせる。 「分けたところを読む練習をしましょう。」	・全文を通して音読し、だれがどこを読むのかを分担する。 ・分担された部分を読む練習をする。
終末 2分	⑤ 劇の発表会をさせる。 「劇の発表会をしましょう。」 ⑥ 本時の学習を確認させる。 「楽しく劇が発表できましたか。」	・劇の発表会をする。 ・本時の学習の確認をする。

指導のポイント

○ 劇の発表会

・子どもたちに役割分担をする時、長い文章は「、」のところで区切って分担したり、重ね読みをさせたりすることもできる。また、読める子には多めの分量を分担させたり、苦手な子には短い文を割り当てたりするような配慮も必要であろう。

・目的もなく繰り返し読むのではなく、演じるという目的を持つことによって、教科書をより進んで読むような活動意欲を期待したい。

・授業参観などの行事に合わせるなどして、保護者にも見てもらう機会を設けるとよい。

○ 主題について

・本教材の主題は、「協力することの大切さ」と「小さいもの、弱いものでも大きなはたらきをする」の二つである。しかし、そのことを指導者が意識しすぎて、子どもたちに気づかせようとすると、子どもたちの主体的活動を妨げる危険性があるため、気をつけたい。

板書例

- ① 題材名「おおきな かぶ」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
 - ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

- ③ 全文を通して音読させ、だれが、どこを読むのかを分担させる。
「だれが、どこを読むのか、分けましょう。」
- ④ 分担された部分を読む練習をさせる。
「分けたところを読む練習をしましょう。」

- ⑤ 劇の発表会をさせる。
「劇の発表会をしましょう。」

教科書の挿絵をコピーするなどして、イメージを持たせる。

おおきな
かぶ

やくわりを わけて れんしゅうし、げきを つくろう

○でてくる ひとや どうぶつ

・おじいさん

・おばあさん

・まご

・いぬ

・ねこ

・ねずみ

○はっぴょう の めあて

はつきりと

でてくる ひとや どうぶつの

きもちが つたわるように

○きく ときの めあて

しずかに

かけごえは いっしょに

◇たのしい はっぴょうかいに

しよう

- ⑧ 本時の学習を確認させる。
「楽しく劇が発表できましたか」

おもしろなから③

おちねん くみ なまへ()

おあし

Empty rectangular box for drawing or writing.

おあしのおおし

Three horizontal dotted lines for handwriting practice.

おあしのおおし

Three horizontal dotted lines for handwriting practice.

かんたん

Three horizontal dotted lines for handwriting practice.

Three horizontal dotted lines for handwriting practice.

おおきな かん③(記入例)

いちねん くみ なまえ()

めあて

やくわりを わけて れんじゆらじ、げんを
つくろう

はつまつの めあて

- ・おおきく くちを あげ
- ・ちもちが つたわるように

きくときの めあて

- ・しずかに
- ・かけがえ は らいしよに

かんそう

みんなが かんを ぬくことが たのしか
たです。かんが ぬけたときは、みんなでも
たたきました。

27

題材名 「はをへをつかおう」 (第1時/全1時間)

目標 語と語をつなぐ助詞「は」「を」「へ」を正しく使って文を書くことができる。

領域名 B 書くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 10分	① 題材名「はをへをつかおう」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 「「わ」と「は」、「お」と「を」、「え」と「へ」のつかいかたをおぼえよう」 ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。 ③ 「わに」の唱え歌を範読する。	・本時のめあてを知る。 ・「わに」の唱え歌を聞く。
展開 33分	④ 「は」「へ」の読み方に注意して音読させる。 ・「『は』『へ』の読み方に気をつけて、声に出して読んでみましょう」 ⑤ 「わ」と「は」、「お」と「を」、「え」と「へ」の使い方を理解させる。 「『わ』と『は』、『お』と『を』、『え』と『へ』の使い方を覚えましょう」	・「は」「へ」の読み方に注意して音読する。 ・「わ」と「は」、「お」と「を」、「え」と「へ」の使い方を覚える。
終末 2分	⑥ 「は」「を」「へ」を使った文を作り、発表させる。 「『は』、『を』、『へ』を使った文を作り、発表しましょう」 ⑦ 本時の学習を確認させる。 「『わ』と『は』、『お』と『を』、『え』と『へ』の使い方を覚えましたか。」	・「は」「を」「へ」を使った文を作り、発表する。 ・本時の学習を確認する。

指導のポイント

○ 学習活動について

- ・教科書の「わに」の唱え歌を読み、調子よく読み慣れるまで唱える。
- ・身の回りを見て、自分や友達がしていることを考えて文を作る。
- ・～は、～を、～。という文を作る。
- ・～は、～へ、～。という文を作る。

板書例

- ① 題材名「はをへを つかおう」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
 - ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

- ③ 「わに」の唱え歌を範読する。
- ④ 「は」「へ」の読み方に注意して音読させる。
「『は』『へ』の読み方に気をつけて、声に出して読んでみましょう」
- ⑤ 「わ」と「は」, 「お」と「を」, 「え」と「へ」の使い方を理解させる。
「『わ』と『は』, 『お』と『を』, 『え』と『へ』の使い方を覚えましょう」
- ⑥ 「は」「を」「へ」を使った文を作り、発表させる。
「『は』, 『を』, 『へ』を使った文を作り、発表しましょう」

はをへを つかおう

「わ」と「は」、
「お」と「を」「え」と「へ」のつ
かいかたを おぼえよう

本文を掲示する。

○ わ と は

わには はしる。

はなは きれいだ

○ え と へ

えきへ いく。

となりの へやへ いく。

○ お と を

おにごっこを する。

かおを あらう。

は を へ を つ か お う

い ち ね ん く み な ち ん ()

お へ

--

お は

--	--	--

--	--	--

--	--	--

--	--	--	--

お の ち

--	--	--	--	--	--

--	--

--	--	--

--	--	--

は を へ を つかおう(記入例)

いちねん くみ なまえ()

めあて

「わ」と「は」、「お」と「を」、「え」と「く」の
つかいかたを おぼえよう

わとは

わ	に	は
---	---	---

は	し	る
---	---	---

は	な	は
---	---	---

き	れ	い	だ
---	---	---	---

おとを

お	に	い	つ	い	を
---	---	---	---	---	---

す	る
---	---

か	お	を
---	---	---

あ	ら	う
---	---	---

28

題材名 「すきなもの なあに」① (第1時/全2時間)

目標 ○相手に伝わるように、「すきなもの、なあに」と「その理由」を2文で書くことができる。
・自分が好きなものとその理由を紹介しようとするすることができる。(主体的に学習に取り組む態度)

領域等 B 書くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	①題材名「すきなもの、なあに」とめあてを黒板に書く。 ・本時のめあてを黒板に書く。 「今日の学習は、『自分が好きなことを友だちに教え合う。』ことです。」 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">すきなものを おしえあおう。</div>	・本時の目標を知る。
展開 30分	②P82～83の挿絵を使って、紹介の方法を理解させる。 ・P82～83を読む。 「ぼくは、おりがみが すきだよ。いつも・・・。」 「どうして すきななの。」 「どうしてかという、・・・からです。」 ③自分の好きなものや好きなことをカードに書いて紹介させる。 ・自分の好きなことを考えさせる。 「自分の好きなことを友だちにわかるように教えます。ワークシートに伝えたいことの絵を描いてみましょう。」 ・言葉だけでなく絵などを使って話をすると相手に伝わることを知らせる。 ・ワークシートを配付する。	・教師の範読を聞く。 ・共読みをする。 ・ペアで会話文を読む。
終末 10分	④P83の文を視写させる。 「P83の文を書き写しましょう。」 ④次時の予告をする。 「次の時間は、今日考えた、自分の好きなことをワークシートに書いて発表会をします。」	・好きなことを考える。 ・好きなことを絵に描く。 ・視写する。 ・次時の見通しをもつ。 ・挿絵をみて学習意欲を高める。

指導のポイント

- 自分の好きなものや好きなことを紹介する際、言葉だけでなく 絵を見せながら紹介するとわかりやすいことを伝える。
- 教科書を読みあう際、二人ペアになって読むようにする。その中で、「ぼくの すきなものは・・・そのわけは・・・だからです。」という説明の仕方を理解させる。
- 教科書の例文を視写することを通して、用紙の使い方、主語、述語、句点の書き方を練習させる。

板書例

③自分の好きなものや好きなことをカードに書いて紹介させる。

- ・自分の好きなことを考えさせる。
「自分の好きなことを友だちにわかるように教えます。ワークシートに伝えたいことの絵を描いてみましょう。」
- ・言葉だけでなく絵などを使って話をするを相手に伝えることを知らせる。
- ・ワークシートを配付する。

①題材名「好きなもの、なあに」とめあてを黒板に書く。

- ・本時のめあてを黒板に書く。
「今日の学習は、『自分が好きなことを友だちに教え合う。』ことです。」

好きなもの、なあに
めあて

「好きなものをおしえあおう。」

ぼくは、おりがみが すきだよ

どうしてかという
と、いろいろなものが
つくれるからです。

84ページの作文を提示

④P84の文を視写させる。

「P84の文を書き写しましょう。」

⑤次時の予告をする。

「次の時間は、今日考えた、自分の好きなことをワークシートに書いて発表会をします。」

②P82～83の挿絵を使って、紹介の方法を理解させる。

- ・P82～83を読む。
「ぼくは、おりがみが すきだよ。いつも・・・。」
「どうして すきななの。」
「どうしてかという、・・・からです。」
- ・共読み、ペア読みをさせる。

すきな 物の、なあに① 記入見本

W
28

いちねん

くみ

なまえ

めあて

すきな 物の、おしえあおう。

ぼくの

すきな 物は、

おりがみです。

どうしてかと いうと、

いろいろな 物が

つくれるからです。

すきなものとそのわけをともだちにしらせるぶんをかきましょう。

きくち たくや

ぼくのすきなものは、

おりがみです。いろいろなものが、

つくれるからです。

29

題材名 「すきなものなあと」②（第2時／全2時間）

目標 ○相手に伝わるように、「すきなもの、なあと」と「その理由」を2文で書くことができる。
 ・自分が好きなものとその理由を紹介しようとすることができる。（主体的に学習に取り組む態度）

領域等 B 書くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	①題材名「すきなもの、なあと」とめあてを黒板に書く。 ・本時のめあてを黒板に書く。 「今日の学習は、『自分が好きなことを友だちに教え合う。』ことです。」 ・前の時間の復習をさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">すきなものを おしえあおう。</div> ・P83の紹介の仕方を読んで、今日の学習の見通しをもたせる。 「P83を読みましょう。」 「前の時間に書いた、自分の好きなものの絵を見て、例文を参考に言葉で言ってみましょう。」	・本時の目標を知る。 ・教師の範読を聞く。 ・一斉読みをする。
展開 30分	②例文を参考に、自分の好きなものや好きなこととその理由を文章に書かせる。 「自分の好きなものとそのわけを文に書きましょう。」 ③書いた文章を読み合わせる。 「書いた文を読み合いましょう。」 ・本時の学習の確認をさせる。 「好きなものを教え合えましたか。」	・自分の好きなものや好きなこと理由を文章に書く。 ・書いた文章を二人組で、読み合ったり全体の前で発表したりする。
終末 10分	④次時の予告をする。 「次の時間は、『おむすびころりん』の学習をします。」	・次時の見通しをもつ。 ・挿絵をみて学習意欲が高まる。

指導のポイント

- 教科書の例文を視写した際に注意したことを全体の前で確認をするようにしたい。（用紙の使い方、主語、述語、句点の書き方）
- 紹介の仕方方法として、二人組、グループ、全体とクラスの数によって工夫したい。
- 教科書の例文を視写することを通して、用紙の使い方、主語、述語、句点の書き方を練習させる。
- 教室に「すきなものひろば」を設置して、友だちの文章を読んだり感想を書いたりして交流をはかれるようにする。

すきな 物の、なあに② 記入見本

W
29

いちねん

くみ

なまえ

めあて

すきな 物をおしえあおう。

すきなことは、
えをかくこと
です。

どうしてかというと、

どうぶつのえをかくのが

すきだからです。

すきなものとそのわけをともだちにしらせるぶんをかきましょう。

いわた えいさく

ぼくのすきなことは、

えをかくことです。

どうぶつをかくのが すきだからです。

30

題材名 「おむすびころりん」①（第1時／全2時間）

目標 語や文としてのまとまりや内容，文章のリズムに注意しながら声に出して読むことができる。

領域名 C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 10分	① 題材名「おむすびころりん」を黒板に書く。 ② 本時の目標を児童に知らせる。 「おじいさんや ねずみや おばあさんに なってよんでみよう」 ・ワークシートを配布し、書き込ませる。	・本時のめあてを知る。
展開 33分	③ 範読を聞かせる。 「様子を思い浮かべながら聞きましょう」 ④ 感想を発表させる。 「先生が読んだ『おむすびころりん』のお話を聞いて、どんなことを感じましたか」	・範読を聞く。 ・感想を発表する。
終末 2分	⑤ 登場人物を確認させる。 「どんな人が出てきましたか」 ⑥ 登場人物の気持ちになって音読させる。 * 山の畑でおむすびを追いかけていくおじいさんになって * ねずみの穴で、おじいさんとねずみになって * 家に帰ってきたおじいさんとおばあさんになって ⑦ 本時の学習の確認をさせる。 「おじいさんや ねずみや おばあさんに なって よめま したか。」	・登場人物を確認する。 ・登場人物の気持ちになって音読する。 ・本時の学習を確認する。

指導のポイント

○ 昔話との出会い

・海外で生活する子どもたちの日本語環境は、一般に極めて厳しい状況にあると考えられる。すなわち、年齢の近い友だち同士で日本語で存分に話し合ったり、読書活動を十分に行ったりする機会には恵まれていないことが多い。ましてや、「むかしむかしあるところに・・・」で始まる日本の昔話に親しむ機会などは、はなはだ少ないことであろう。しかし、このような生活環境であるからこそ、日本人の心の原点ともいえる昔話に子どもたちを馴染ませることが大切なのである。

○ 学習活動について

・最初は、教師の範読が望ましいが、その後は、CDがあれば状況に合わせて聴かせるなどして、有効に活用するようにしたい。
・「おむすびころりんすっとなん」のところは、子どもたちがみんなで加わり、リズムカルに読むような楽しい雰囲気の中で展開したい。
・登場人物だけではなく、擬人化したおむすびなども登場者として位置づけ、楽しく筋を追わせるようにしたい。

板書例

- ① 題材名「おむすび ころりん」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
 - ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

- ③ 範読を聞かせる。
- ④ 感想を発表させる。

「先生が読んだ『おむすびころりん』のお話を聞いて、どんなことを感じましたか」
- ⑤ 登場人物を確認させる。

- ⑥ 登場人物の気持ちになって音読させる。
 - * 山の畑でおむすびを追いかけていくおじいさんになって
 - * ねずみの穴で、おじいさんとねずみになって
 - * 家に帰ってきたおじいさんとおばあさんになって

おむすび ころりん

おじいさんや ねずみや おばあさんになって
よんでみよう

○できたひとやどうぶつ

- ・ おじいさん
- ・ おばあさん
- ・ ねずみ

◇こえにだしてよんでみよう。

- ・ やまのはたけでおむすびをおい
- ・ かけていくおじいさんになって
- ・ ねずみのあなでおじいさんとね
- ・ ずみになって
- ・ いえにかえってきたおじいさん
- ・ とおばあさんになって

- ⑦ 本時の学習の確認をさせる。

「おじいさんや ねずみや おばあさんになってよめましたか。」

① 2. 1. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10.

1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10.)

2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10.

Empty rectangular box for drawing or notes.

1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10.

Five horizontal dotted lines for writing.

1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10.

Five horizontal dotted lines for writing.

おおすび こりん①(記入例)

おじいちゃん くみ なまえ()

おおすび

おじいちゃんや ねずみや おばあちゃんに なって
よんでみよう。

おじいちゃん ひよこや じいちゃん

おじいちゃん

おばあちゃん

ねずみ

いそに だして よんでみよう。

・やまのはだけで おおすびを おいかけよう

おじいちゃんに なって

・ねずみの あなで おじいちゃんや ねずみに なって

・いそに かんてんきた おじいちゃんや おばあちゃんに なって

31

題材名 「おむすびころりん」②（第2時／全2時間）

目標 場面の様子や登場人物について想像を広げながら読むことができる。

領域名 C 読むこと

学習の流れ

| | 教師の働きかけ | 児童の活動 |
|-----------|--|--|
| 導入
10分 | ① 題材名「おむすびころりん」を黒板に書く。
② 本時の目標を児童に知らせる。
「おむすびころりん げきじょう」
・ワークシートを配布し、書き込ませる。 | ・本時のめあてを知る。 |
| 展開
33分 | ③ 本文を読ませる。
「前の時間に、おもしろいと感じたところを考えながら読みましよう。」
④ もっと工夫できるところはないか話し合わせる。
「どんなどころを工夫して読めばいいでしょう。」 | ・本文を読む。
・工夫できそうなことについて話し合う。 |
| 終末
2分 | ⑤ 「おむすびころりん劇場」の出演者になって、みんなで読み合わせる。
「さあ、いよいよ『おむすびころりん劇場』の始まりです。お話は静かに聞きましょう。楽しいところはいっしょに手拍子などを入れてもいいですよ。」
⑥ 楽しかったことや気づいたことを発表させる。
「楽しかったことや、気づいたことはありませんか。」
⑦ 本時の学習を確認させる。
「『おむすびころりん げきじょう』で楽しく発表できましたか。」 | ・「おむすびころりん劇場」の出演者になって、みんなで読み合う。
・楽しかったことや気づいたことを発表する。
・本時の学習を確認する。 |

指導のポイント

○ 「おむすびころりん」について

・この昔話「おむすびころりん」は、リズムカルに読めるように、散文詩形式で構成されている。この散文詩形式のものは、一行あきの九連で表現されているので、話の場面やあら筋を読み取らせる上では比較的容易である。また、各連の終わりには繰り返しの部分もあるので、リズムカルに音読・暗唱させたり、場面ごとに描かれた動きのあるさし絵をもとに動作化させたりするのに適切である。

○ 学修活動について

・補習校の実態によって可能であれば、おじいさん用の頭巾（タオル）や、おめん・こづちなどの小道具を準備できると、活動の雰囲気をもっと高めることができる。
・おじいさんの行動やねずみの歌で、間をあげ、つぶやきや動作を入れさせるのもよい。
・子どもたちには、なるべく自分がなりたい役と読みたいところを選べるように配慮する。
・聞き手の態度については、発表者の立場になって考えることができるように、あらかじめしっかり指導しておくようにする。

板書例

- ① 題材名「おむすび ころりん」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
 - ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

- ③ 本文を読ませる。
「前の時間におもしろいと感じたところを考えながら読みましょう。」
- ④ もっと工夫できるところはないか話し合わせる。
「どんなところを工夫して読めばいいでしょう。」

- ⑤ 「おむすびころりん劇場」の出演者になって、みんなで読み合わせる。
「さあ、いよいよ『おむすびころりん劇場』の始まりです。」
- ⑥ 楽しかったことや気づいたことを発表させる。

おむすび ころりん

おむすびころりん げきじょう を ひらこう

おじいさん：
おばあさん：
ねずみ：

教科書の絵を拡大するなど
して掲示できるとよい

- ⑦ 本時の学習の確認をさせる。
「『おむすびころりん げきじょう』で楽しく発表できましたか。」

おはよう こんにちは②

おはよう こんにちは ()

おはよう

おはよう ...

おはよう ...

おはよう ...

おはよう こんにちは

おおすび ころりん②(記入例)

うちねん くみ なまえ()

めあて

「おおすびころりん げきじょう」を ひらいた

おじいちゃん ... たじやちゃん

おばあちゃん ... ひろちゃん

ねずみ ... りょうすけちゃん

よかたといふたのしかたといふ

「おおすび ころりん たしんぶん」のこ

かたが おもしろかったです。たじやちゃんの

おじいちゃんが、とてもおもしろかったです。りょう

すけちゃんの ねずみの おじりが たのしか

たです。

3 2

題 材 名 「としょかんと なかよし」 (第1時/全1時間)

目 標 ○図書館には、いろいろな本があることを知り、読みたい本を探すことができる。
 ・これまでの学習を生かして本を選ぼうとすることができる。(主体的に学習に取り組む態度)

領 域 等 我が国の言語文化

学習の流れ

| | 教師の働きかけ | 児童の活動 |
|-----------|--|--|
| 導入
5分 | ①題材名「としょかんと なかよし」とめあてを黒板に書く。
・本時のめあてを黒板に書く。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">「よみたい ほんをみつけよう」</div> ・本時のめあてを明確にするため、子どもたちにも読ませて理解させる。 | ・本時の目標を知る。
・本時のめあてを読む。
・前に図書館に来たときのことを思い出す。 |
| 展開
30分 | ②補習校の図書館へ行き、たくさん本があることに気づかせる。
・図書館での約束について知らせる。
「図書館の本は、みんなの本です。大切に扱いましょう。」
「図書館は、みんなが本を探したり本を読んだりする場所です。静かに本を探しましょう。」 | ・図書館での約束を理解する。 |
| 終末
10分 | ③自分が一番読みたい本を探させる。
「自分が読みたい本を見つけて、読んでみよう。」
④自分が借りた本を友だちに紹介させる。
「僕は図書館で、〇〇の本を借りました。
△△のところがおもしろそうだったからです。」
⑤次時の予告をする。
「次の時間は、『こんなことがあったよ。』の学習をします。」 | ・読みたい本を探す。
・自分が借りた本を友だちに紹介する。
・次時の見通しをもつ。
・挿絵をみて学習意欲が高まる。 |

指導のポイント

- 子どもたちが日本語に触れる機会は、補習校の本棚が最も多いと考えられる。子どもたちの日本語能力をさらに保持・発展させていくためにも、図書の有効活用をしていきたい。
- 図書館の利用の仕方や約束について、繰り返し指導していくようにする必要がある。
- 子どもたちには、発達段階に適した本の中から自由に選ばせるようにしたい。
- 本をなかなか選ぶことができない場合は、教師が個別に相談にのるようにしたい。
- 子どもたちが本を読んだ後には、感想を発表したり本の題名を発表したりするようにさせたい。
 しかし、感想発表に固執しないように心がけたい。

板書例

③自分が一番読みたい本を探させる。
「自分が読みたい本を見つけて、読んでみよう。」

①題材名「としょかんと なかよし」と
めあてを黒板に書く。
・本時のめあてを黒板に書く。
・本時のめあてを明確にするため、子どもたちにも読ませて理解させる。

としょかんと なかよし
めあて
「よみたい ほんをみつけよう」

やくそく

しずかにさがす
ほんをたいせつにあつかう

みつけたほんを
ともだちに しょうかいしよう

④自分が借りた本を友だちに紹介させる。
「僕は図書館で、〇〇の本を借りました。
△△のところがおもしろそうだったからです。」

⑤次時の予告をする。
「次の時間は、『こんなことが あったよ』の学習をします。」

②補習校の図書館へ行き、たくさん本があることに気づかせる。
・図書館での約束について知らせる。
「図書館の本は、みんなの本です。大切に扱いましょう。」
「図書館は、みんなが本を探したり本を読んだりする場所です。静かに本を探しましょう。」

としよかんと なかよし

w
32

いちねん

くみ

なまえ

めあて

よみたい ほんをみつけよう。

◎としよしつでのやくそく

○しずかにすごす。

○ほんをたいせつにあつかう。

○

◎みつけたほんを

ともだちに しょうかいしよう。

わたしは、としよしつで

()のほんをかりました。

()が

おもしろそうだったからです。

としよかんと なかよし

記入見本

w
32

いちねん

くみ

なまえ（

）

めあて

よみたい ほんをみつけよう。

◎としよしつでのやくそく

○しずかにすごす。

○ほんをたいせつにあつかう。

○よみおわったらもとあったところにもどす。

◎みつけたほんを

ともだちに しょうかいしよう。

わたしは、としよしつで

（てぶくろ）のほんをかりました。

（うさぎがてぶくろのなかにはいって
いて）おもしろそうだったからです。

よんだひ

だimei

おもしろかつたしるし

◎
○
△

| | | | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

いちねん (くみ なまえ)

板書例

③経験したことを知らせる文章を書かせる。

- ・伝えたい経験したことを、思い出させる。
 - ・経験したことを絵に描かせる。
 - ・文章の中に書く観点を知らせる。
- 『いつ どこで だれが なにを どうした』
がわかるように書くことを知らせる。
- ・絵日記を書かせる。

①題材名「こんなことが あったよ」とめあてを黒板に書く。

- ・本時のめあてを黒板に書く。
 - ・本時のめあてを明確にするため、子どもたちにも読ませて理解させる。
 - ・学習の見通しをもたせる。
- 「最近 どんな楽しいことがありましたか。」
「楽しかったことを 日記に書きましよう。」

こんなことがあったよ
めあて
「おもいで につきを かこう」

- ・いつ
- ・したこと
- ・みたこと
- ・みつけたもの
- ・きいたこと
- ・おもったこと

えにつきをかこう

ともだちにはなそう

④書いたものを読み合い、感想を交流させる。

「書いた絵日記を友だちに知らせましよう。」

⑤次時の予告をする。

「次の時間は、『こえにだして よもう』の学習をします。」

②P96の絵日記を参考に、書き方を知らせる。

- ・観点を知らせてから P96 の日記を読む。
- ・日記には、観点到添った内容（したこと、見たこと、聞いたこと、思ったこと等）が書かれているかを確認させる。

いつ—どようび だれと—おじいちゃんと
みたこと—はなびをみた おもったこと—（おおきなはながさいて）とてもきれい。

こんなことが あったよ

W
33

いちねん

くみ

なまえ

（

めあて

おもいで につきを かこう

◎はなびたいかいをよんでくわしくかくことをみつけましょう。

○くわしく かくこと

・ いつ

（

・ だれと

（

・ したこと、みたこと みつけたもの

（

）をみました。

・ きいた こと

・ おもった こと

さらに

（ がさい

たみたいでした。とても

（

でした。

こんなことが あつたよ

記入見本

W
33

いちねん

くみ

なまえ

めあて

おもいで につきを かこう

◎はなびたいかいをよんでくわしくかくことをみつけましょう。

○くわしく かくこと

・ いつ () どのような ()

・ だれと (おじいちゃん) ()

・ したこと、みたこと みつけたもの

() はなび () をみました。

・ きいた こと

・ おもった こと

さらに (おおきなはな) () がさい

たみたいでした。とても (きれい) ()
でした。

こんなことがあったよ

え

だいいい

なまえ

| | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|--|
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |

34

題材名 「こえに だして よもう」 (第1時/全1時間)

目標 ○声の速さを変えたり動作化したりして元気に音読することができる。
 ・内容を捉え、音読を楽しもうとすることができる。(主体的に学習に取り組む態度)

領域等 C 読むこと

学習の流れ

| | 教師の働きかけ | 児童の活動 |
|-----------|---|--|
| 導入
5分 | ①題材名とめあてを黒板に書く。
・本時のめあてを黒板に書く。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> いちねんせいの うた
 こえにだしてよんだり ともだちのはなしをきいたりしよう。 </div> | ・本時の目標を知る。
本時のめあてを明確にするために、子どもたちにもめあてを読ませる。

・範読を聞く。 |
| 展開
30分 | ②挿絵から登場人物の気持ちを想像しながら聞かせる。
・挿絵から気がついたことを想像させる。
「教科書の絵を見て、気がついたことはありますか。」
・教科書P98～P99の文を、範読(教師の読み)する。
「ぼく、わたしの気持ちになって、聞きましょう。」
「詩を聞いてどのようなことを感じましたか。」
③「いちねんせいの うた」を読ませる。(1回目)
・一斉読み ・ペア読み
○聞く人がわかりやすく、楽しめる読み方にするには、何に気をつければよいか考えさせる。
・リズム 声の大きさ 速さ
・一人読み ペア読み グループ読み
○声の大きさやリズムを工夫して、読ませる。(2回目)
・一人読み ・ペア読み ・グループ読み
・工夫して読んでいる児童を賞賛する。
・指名読み | ・詩の感想を発表し、音読への意欲を持つ。

・一斉読み、ペア読みをする。

・音読の留意点を確かめる。

・音読の留意点を意識し、音読する。 |
| 終末
10分 | ④文を視写しながら様子を想像して、気づいたことを発表する。
・文を視写させる。
・感想を発表させる。
⑤めあてを考えながら自分のペースで読ませる。(3回目)
・楽しく読む ・暗唱する
・一斉読み
⑥次時の予告をする。
「次の時間は、『ききたいな ともだちのはなし』の話を学習します。 | ・文を視写する。
・文の感想を発表する。

・音読の響きやリズムに気をつけながら、暗唱する。
・次時の見通しをもつ。 |

指導のポイント

- 音読
 - ・声に出してリズムを感じながら、元気に読むようにさせたい。
 - ・声の大きさ、速さ、読む人数などを変えて工夫して音読させたい。そして、友達の話聞いて感想を発表させる。また、文の楽しさを感じさせたい。
- 挿絵から想像できることを発表させたり視写をさせたりすることを通して、文の楽しさを感じさせたい。
- 一人読み、一斉読み、ペア読み、グループ読みを効果的に活用することにより主体的に音読に取り組みさせたい。

板書例

②挿絵から登場人物の気持ちを想像しながら詩を聞かせる。

- ・挿絵から気がついたことを想像させる・
「教科書の絵を見て、気がついたことはありますか。」
- ・教科書 P98～P99 を範読（教師の読み）する。
「ぼく、わたしの気持ちになって、聞きましょう。」
- 「文を聞いてどのようなことを感じましたか。」

- ①題材名とめあてを黒板に書く。
・本時のめあてを黒板に書く。

こえにだしてよもう

『いちねんせいの うた』

めあて
こえにだしてよんだり
ともだちのはなしをきいたりしよう。

挿絵

こくばん
ぼく
わたし
おひさま
かぜ

あおい そらの こくばんに
なに かこう
うでを のぼし
ちからを こめて
まつすぐ
いちねんせいの
ぼくも かく
わたしも かく
いちねんせいの
いちばん はじめの
おひさま みてる
かぜが ふく

④文を視写しながら様子を想像して、気づいたことを発表する。

- ・文を視写させる。
- ・感想を発表させる。

⑤めあてを考えながら自分のペースで読ませる。（3回目）

- ・楽しく読む ・暗唱する
- ・一斉読み

③「いちねんせいの うた」を読ませる。（1回目）

- ・一斉読み ・ペア読み
- ・聞く人がわかりやすく、楽しめる読み方にするには、何に気をつければよいかを考えさせる。
- ・リズム 声の大きさ 速さ
- ・一人読み ペア読み グループ読み
- ・声の大きさやリズムを工夫して、読ませる。（2回目）
- ・一人読み ・ペア読み ・グループ読み
- ・工夫して読んでいる児童を賞賛する。
- ・指名読み

⑥次時の予告をする。

「次の時間は、『ききたいな ともだちのはなし』の話を学習します。」

こえにだして よもう

いちねん

くみ

なまえ

めあて

こえにだして よんだり

ともだちのはなしを きいたりしよう。

○あおいそらの こくばんに、
なにをかくのですか。

| |
|--|
| |
| |
| |
| |
| |
| |

の
一

○どんな ようすで かくのですか。

うでを ()

ちからを () かく。

○きくときに きをつけること。

はなす ひとの () をみて きく。

しつもんは、

はなしが () からにする。

こえにだして よもう

記入見本

W
34

いちねん

くみ

なまえ

めあて

こえにだして よんだり

ともだちのはなしを きいたりしよう。

○あおいそらの こくばんに、
なにをかくのですか。

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| い | ち | ね | ん | せ | い |
|---|---|---|---|---|---|

の
一

○どんな ようすで かくのですか。
うでを (のばし)
ちからを (こめて) かく。

○きくときに きをつけること。
はなす ひとの (め) をみて きく。
しつもんは、
はなしが (おわって) からにする。

なまえ)

なつやすみのはなし めも

だいめい

したこと

なつやすみにしたことをおもいだしてかくことができましたか。

◎よくできた ○できた

)

)

35

題材名 「ききたいな、ともだちのはなし」（第1時／全1時間）

- 目標**
- 話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。
 - ・友達の話を聞き、質問や感想を述べようとするすることができる。（主体的に学習に取り組む態度）

領域等 A 話すこと・聞くこと

学習の流れ

| | 教師の働きかけ | 児童の活動 |
|-----------|---|---|
| 導入
5分 | <p>①題材名とめあてを黒板に書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時のめあてを黒板に書き、学習の見通しをもたせる。 ・P100の挿絵を見て夏休みの経験を話す際の具体的なイメージを持たせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">ともだちの なつやすみのようすについて ききましょう。</div> | <ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標を知る。 ・本時のめあてを明確にするために子どもたちにもめあてを読ませる。 |
| 展開
30分 | <p>②夏休みの出来事を思い出して題材を決めさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に、楽しかった思い出を簡単な絵や文に書かせておく。 「夏休みに したことや見たことを思い出して一番 友達につたえたいことを考えよう。」 <p>③知らせたいことの内容を考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P100を参考に、内容や話し方を考えて練習させる。 ・P100を読む。 ・知らせたいことのだいたいを絵や文で表現させる。 「知らせたいことを絵や文で表しましょう。」 <p>④夏休みの経験を発表し合い感想を持たせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝えたいことを工夫して発表させる。 ・みんなが聞きやすい話し方(声の大きさや速さ)を考えさせる。 ・質問をしたり感想を言ったりさせる。 「楽しかった思い出を発表しましょう。」 「友達がどんなことを話すのかをよく聞きましょう。」 「友達に聞いてみたいことはありますか。」 | <ul style="list-style-type: none"> ・伝えたいことを決める。 ・P100の範読を聞く。 ・知らせたいことを文章や絵に表す。 ・発表する。 ・友達の話を聞く。 ・質問をする。 |
| 終末
10分 | <p>⑤次時の予告をする。</p> <p>「次の時間は、『たのしいな、ことばあそび』の話を学習します。」</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・次時の見通しをもつ。 |

指導のポイント

- 学習の見通しを持たせる指導の工夫
小学校に入学して後半の学習に入る。日本語を主体的に学習していく一つの方法として、学習の見通し（1時間 学校と家庭の連携等）を持たせるようにさせる。家庭学習において、夏休みの思い出を簡単な絵や文に書かせるようにし、黒板に発表する題を書かせるようにするとよい。
- 夏休みに、日本への体験入学を経験してくる子どもたちや家族旅行を経験した子どももいると考えられる。それ以外の子どもたちにも身近な生活の中にたくさん楽しい思い出があることを知らせ、個別指導に生かす。
- 挿絵を使って、発表の仕方、話の聞き方、質問の仕方を知らせる。

板書例

- ①題材名とめあてを黒板に書く。
 - ・本時のめあてを黒板に書き、学習の見通しをもたせる。
 - ・P100の挿絵を見て夏休みの経験を話す際の具体的なイメージを持たせる。

- ②夏休みの出来事を思い出して題材を決めさせる。
 - ・事前に、楽しかった思い出を簡単な絵や文に描かせておく。「夏休みに したことや見たことを思い出して一番 友達につたえたいことを考えよう。」

ききたいな、ともだちのはなし
めあて
なつやすみのようすについて
ききましょう。

にほんでのおもいで
あさがおをそだてたよ えいさく
はなびたいかい あかり
かぞくりよこう そうじろう
おてつだい りょうま
はなしをするときちゅういすること
こえのおおきさ
みんなのほうをみて

はなしをきくときちゅういすること
へそをあいてのほうにむける
しつもんをかながえる

- ③知らせたいことの内容を考えさせる。
 - ・P100を参考に、内容や話し方を考えて練習させる。
 - ・P100を読む。
 - ・知らせたいことのだいたいを絵や文で表現させる。「知らせたいことを絵や文で表しましょう。」

- ④夏休みの経験を発表し合い感想を持たせる。
 - ・伝えたいことを工夫して発表させる。
 - ・みんなが聞きやすい話し方(声の大きさや速さ)を考えさせる。
 - ・聞く人は、質問をしたり感想を言ったりする。「楽しかった思い出を発表しましょう。」
「友達がどんなことを話したのかよく聞きましょう。」
「友達に聞いてみたいことはありますか。」

- ⑤次時の予告をする。
「次の時間は、『たのしいな、ことばあそび』の話を学習します。」

ききたいな、ともだちのはなし

いちねん

くみ

なまえ

めあて

なつやすみの ようすについて

ともだちのはなしを ききましよう。

○ともだちのなつやすみについてききましよう。

・ () さんのおもいで

だ い め い ()

・ () さんのおもいで

だ い め い ()

◎はなすとき、きくときにきをつけること (にかい読んだら ◎)

○はなしをするときに、きをつけること

はつきりおおきなこえではなそう ()

みんなのほうを みる ()

○はなしをきくときに きをつけること

へそを あいてのほうにむける ()

しつもんをかんがえる ()

ききたいな、ともだちのはなし 記入見本

W
35

いちねん くみ なまえ

めあて

なつやすみの ようすについて

ともだちのはなしを ききましよう。

○ともだちのなつやすみについてきましよう。

- ・ (えいさく) さんのおもいで
- だいめい (あさがおをそだてたよ)
- ・ (あかり) さんのおもいで
- だいめい (はなびたいかい)

◎はなすとき、きくときにきをつけること (にかい読んだら) ◎ ()

○はなしをするときに、きをつけること

はつきりおおきなこえではなそう (◎)
みんなのほうを みる (◎)

○はなしをきくときに きをつけること

へそを あいてのほうにむける (◎)
しつもんをかんがえる (○)

なまえ)

ともだちのはなし めも

ともだちのなまえ

したこと

ともだちのはなしをきいて しりたいことをきいたり かんそうを
いったりしましたか。 ◎よくできた ○できた ()

36

題材名 「たのしいな、ことばあそび」 (第1時/全1時間)

- 目標** ○語句の量を増やし語彙を豊かにすることができる。
 ・楽しく言葉遊びに取り組んでいる。(主体的に学習に取り組む態度)

領域等 言葉の特徴や使い方

学習の流れ

| | 教師の働きかけ | 児童の活動 |
|-----------|---|--|
| 導入
5分 | ①題材名とめあてを黒板に書く。
・本時のめあてを黒板に書き、学習の見通しをもたせる。
・言葉遊びは楽しいという気持ちを持たせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">かくれている ことばを みつけましょう。</div> | ・本時の目標を知る。
本時のめあてを明確にするために子どもたちにもめあてを読ませる。 |
| 展開
30分 | ②P102の表を見て、たて、よこ、ななめに隠れている言葉を見つけさせる。
・見つけた言葉をノートに書くようにさせる。
「『やかん』のように表の中に言葉が隠れています。探してみましよう。」
・見つけた言葉を○で囲ませる。
「見つけた言葉を、ていねいに ノートに書きましよう。」
・見つけた言葉を発表させる。
「見つけた言葉を発表してください。」
・意味がわからない言葉に対しては補足説明をする。 | ・隠れた言葉を探す。
・見つけた言葉を発表する。 |
| 終末
10分 | ③P103の表に自分で問題を作り、友達と出し合って楽しむ。
「自分でも、同じような表を作りましよう。」
「つくったら、友達と取り替えて楽しみましよう。」
④次時の予告をする。
「次の時間は、『やくそく』の話を学習します。 | ・言葉を入れた表を作る。
・友達と表を取り替えて楽しむ。
・次時の見通しをもつ。 |

指導のポイント

- 表から隠れた言葉を探していく中で、子どもたちが普段使わない言葉が出てくると思われるが、見つけた言葉を書きだしていくようにさせる。語彙の意味については教師の方でわかりやすく説明する。
 (だいく おんぶ こま たこ)
- 問題を作るときは、最初は、9マスでなれてから16マスの表を使うようにするとよい。
- 子どもたちが探した言葉は黒板に書き、クラスみんなで共有して語彙を増やすようにしていきたい。

板書例

②P102 の表を見て、たて、よこ、ななめに隠れている言葉を見つけさせる。


- 見つけた言葉をノートに書くようにさせる。
「『やかん』のように表の中に言葉が隠れています。探してみましょう。」
- 「見つけた言葉を、ていねいに ノートに書きましょう。」
- 見つけた言葉を発表させる。
「見つけた言葉を発表してください。」
- 意味がわからない言葉に対しては補足説明をする。

①題材名とめあてを黒板に書く。

- 本時のめあてを黒板に書き、学習の見通しをもたせる。
- 言葉遊びは楽しいという気持ちを持たせる。

1
0
3
P
の
表

やかん やさい しか はち
 そら すずめ さんぼ くま
 めだか いちねんせい もも
 こま あり ひつじ もぐら
 とけい えほん なつやすみ
 だいく おんぷ えき
 とり たこ えび
 すいか こくご

『みつけたことば』を  でかこむ。

たのしいな、ことばあそび
 めあて
 かくれていることばを
 みつけましょう。

③P103 の表に自分で問題を作り、友達と出し合って楽しむ。

- 「自分でも、同じような表を作りましょう。」
- 「つくったら、友達と取り替えて楽しみましょう。」

④次時の予告をする。

「次の時間は、『やくそく』の話を学習します。」

たのしいな、ことばあそび

いちねん

くみ

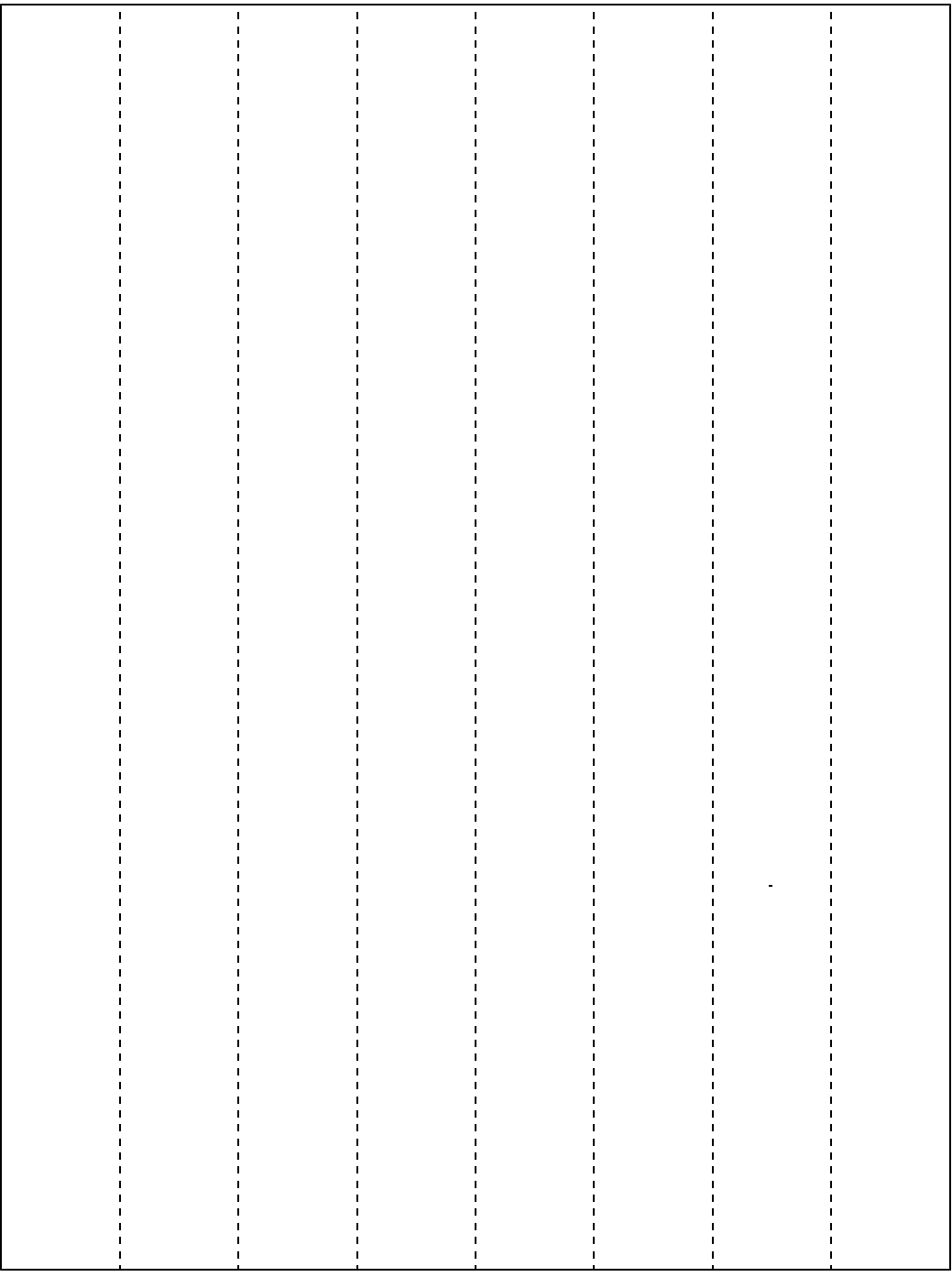
なまえ

（

めあて

かくれている ことばを みつけよう。

きょうかしよをみて たて、よこ、
ななめに、かくれていることばをみつ
けましょう。



たのしいな、ことばあそび

記入見本

W
36

いちねん

くみ

なまえ

めあて

かくれている ことばを みつけよう。

きょうかしよをみて たて、よこ、
ななめに、かくれていることばをみつ
けましょう。

やかん やさい しか はち

そら すずめ さんぽ くま

めだか いちねんせい もも

こま あり ひつじ もぐら いし

とけい えほん なつやすみ しりとり

だいく おんぷ えき いぬ

とり たこ えび すいか こくばい

| | | | |
|--|--|--|--|
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

| | | |
|--|--|--|
| | | |
| | | |
| | | |

たのしいなことばあそび

なまえ

(

)

37

題材名 「やくそく」（第1時／全1時間）

目 標 ○登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むことができる。

・話の内容を楽しみながら、楽しく言葉遊びに取り組んでいる。

（主体的に学習に取り組む態度）

領域等 C 読むこと

学習の流れ

| | 教師の働きかけ | 児童の活動 |
|-----------|---|--|
| 導入
5分 | ①題材名とめあてを黒板に書く。
・本時のめあてを黒板に書き、学習の見通しをもたせる。
・『やくそく』という題名から、連想することや自分の経験を出し合って、物語に関心をもたせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> あおむしや木になったつもりで『やくそく』をよもう </div> | ・本時の目標を知る。
本時のめあてを明確にするために子どもたちにもめあてを読ませる。
・挿絵から登場人物を捜す。 |
| 展開
30分 | ②教師の読み聞かせ（範読）を聞いて、お話しのだいたいをつかませる。
・誰が出てきて、どんなことをするお話しか考えながら聞くようにさせる。
「だれがでてきましたか。」
・あおむしと木がでてくることをおさえる。
・あおむしと木が言ったことをおさえる。 | ・教師の範読を聞く。
・木 あおむし |
| 終末
10分 | ③教師と共読みをさせる。
・「あおむし、木の立場になって、お話しを読みましょう。」
④役割読みをさせる。
・あおむし、木、ナレーターに分担してお話しを読ませる。
「あおむしの気持ちになってお話しを読みましょう。」
「木の気持ちになってお話しを読みましょう。」
○新しく習う漢字を指導する。ー木
⑤次時の予告をする。
「次の時間は、『かたかなを みつけよう』の話を学習します。 | ・あおむし、木になったつもりで本を読む。
・役割読みをする。
・次時の見通しをもつ。 |

指導のポイント

- 登場人物の気持ちを考えさせる上で挿絵に吹き出し風にかかせるとよい。
- 子どもたちに役割分担をさせるとき、長い文章は「、」「。」の所で区切って分担して読ませる方法もある。また、読める子には多めの分量を分担させたり、苦手な子には短い文を割り当てたりするような配慮も必要と考える。
- 子どもたちには、範読を聞かせた後、共読み、分担読み、〇読みなどをさせるようにすると効果的である。
- したことに着目した読みをさせる。
 ・話の大体をつかむ上で、登場人物のしたことを見つけることが大切になる。そのため、挿絵をもとに登場人物の気持ちを捉えるようにさせる。
- 教科書P111を参考に、題名、作者について指導する。
- 新しく習う漢字を本単元から学習していく。新出漢字は、カードに記入し、毎時間、繰り返し指導していくと良い。

板書例

①題材名とめあてを黒板に書く。
・本時のめあてを黒板に書き、学習の見通しをもたせる。
・『やくそく』という題名から、連想することや自分の経験を出し合って、物語に関心をもたせる。
・挿絵からあおむしや木が出てくることを探させ、めあてにつなげる。

②教師の読み聞かせ（範読）を聞いて、お話しのだいたいをつかませる。
・誰が出てきて、どんなことをするお話しか考えながら聞くようにさせる。
「だれがでてきましたか。」
・あおむしと木が言ったことをおさえる。

めあて やくそく
あおむしや木になったつもりで
おはなしをよもう

木 あおむし

あおむしの絵
みどりのあおむし
ピンクのあおむし
あおむし

かんじ

木き

③教師と共読みをさせる。
・「登場人物の立場になって、お話しを読みましょう。」

④役割読みをさせる。（担任・ナレーター）
・あおむし、木に分担してお話しを読ませる。
「あおむしの気持ちになってお話しを読みましょう。」
「木の気持ちになってお話しを読みましょう。」

⑤次時の予告をする。
「次の時間は、『かたかなを みつけよう』の話を学習します。」

やくそく

W
37

いちねん

くみ

なまえ

めあて

あおむしや木になったつもりで

ほんをよもう。

だれがでてきましたか。

の あおむし

の あおむし

の あおむし

さんびきのあおむしはどんな『やくそく』
をしましたか。

からだ

ちように

かわったら

まで とんでいく

やくそくを

しました。

○

や あおむしになったつもりで

おはなしを こえにだしてよみましょう。

いちねん

くみ

なまえ

めあて

あおむしや木になったつもりで
ほんをよもう。

だれがでてきましたか。

| | | | |
|------|---------|---|------|
| みどり | (いっぴきめ) | の | あおむし |
| ピンク | (にひきめ) | の | あおむし |
| みずいろ | (さんびきめ) | の | あおむし |

さんびきのあおむしはどんな『やくそく』をしましたか。

からだ

ちように

かわったら

うみ

(ひかっている

ところ)

まで とんでいく

やくそくを

しました。

○ 木

や あおむしになったつもりで

おはなしを こえにだしてよみましょう。

38

題材名 「かたかなをみつけよう」（第1時／全1時間）

目標 片仮名の語を正しく読んだり書いたりすることができる。

領域名 B 書くこと 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

学習の流れ

| | 教師の働きかけ | 児童の活動 |
|-----------|--|--|
| 導入
10分 | ① 単元名「かたかなをみつけよう」を黒板に書く。
② 本時のめあてを書く。
「かたかなをみつけて、かきましょう。」
③ 「あさのしたく」を読み聞かせる。 | ・ 本時のめあてを知る。 |
| 展開
33分 | ④ 「あさのしたく」をくり返し読ませ、慣れさせる。
⑤ 「片仮名を見つけて、○で囲みましょう。」
・ ○で囲むのが難しい場合は、サイドラインを引かせたり 発表させたりして確認する。 | ・ 全体、グループ、個人などで練習する。 |
| 終末
2分 | ⑥ ノートに片仮名をていねいに書かせる。
⑦ 教科書の写真や身の回りのものから、片仮名で書く言葉を見つけて発表させる。
⑧ 見つけた片仮名で書く言葉をノートに書く。
⑨ 次時の予告をする。
「次の時間は、『うみのかくれんぼ』を学習します。」 | ・ ノートに練習する。
・ 教師と一緒にカタカナで書くことばを見つける。
・ 丁寧にノートに書く。
・ 次時の学習を知る。 |

指導のポイント

○ 片仮名の練習について

- ・ ノートに丁寧に書く際に、1マスを4つに区切ったどの箇所（部屋）から書き始めるか、どこまで書き進めるかに気をつけるように助言するとよい。

| | |
|------|------|
| 1の部屋 | 2の部屋 |
| 3の部屋 | 4の部屋 |

- ・ 特に、小さく書く「ツ」については、2の部屋に入れるように注意させる。

・ 片仮名の場合も漢字指導と同様に次のことに気をつけて筆順指導するとよい。

- ① 黒板に色チョークで筆順ごとに色を変えて書く。
- ② 空書き（指で宙に書く）で筆順を指導する。
- ③ とめ・はね・はらいに注意させる。

板書例

① 単元名「かたかなを みつけよう」を黒板に書く。

② 学習のめあてを書く。

⑤ 片仮名を見つけて、○で囲みましょう。

かたかなを みつけよう

かたかなをみつけて かきましよう。

あさのしたく

ハンカチ、ちりがみ、わすれずに

ズボンの ポケットに いました。

ふでばこ、きょうかしよ、つめました。

ランドセルしょって、

いってきます

◇カタカナを れんしゅうしよう

ハンカチ

ズボン

ポケット

ランドセル

◇カタカナを みつけよう

・スプーン ・ジャム ・セロテープ など

⑥カタカナをノートに練習しましょう。

⑦教科書の中にある写真や身の回りのものから片仮名で書くものを見つけて、ノートにていねいに書きましよう。

⑨次時の予告をする。

「次の時間は、『うみの かくれんぼ』を学習します。

かたかなを みつけよう

いねん()くみ たいせいの()

あお

| |
|--|
| |
|--|

| | | | |
|--|--|--|--|
| | | | |
| | | | |

| | | | |
|--|--|--|--|
| | | | |
| | | | |

| | | |
|--|--|--|
| | | |
| | | |

| | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|
| | | | | | |
| | | | | | |

| | | | |
|--|--|--|--|
| | | | |
| | | | |

| | | | |
|--|--|--|--|
| | | | |
| | | | |

| | | |
|--|--|--|
| | | |
| | | |

| | | | | |
|--|--|--|--|--|
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|--|--|--|--|
| | | | |
| | | | |

| | | | |
|--|--|--|--|
| | | | |
| | | | |

| | | |
|--|--|--|
| | | |
| | | |

| | | | | |
|--|--|--|--|--|
| | | | | |
| | | | | |

| | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|--|
| | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|--|

39

題材名 「うみのかくれんぼ」(第1時/全1時間)

目標 ○文章の中の大事な言葉や文を押さえながら(問いかけとその答え)、内容の大体を読みとることができる。

・生き物などについて書かれた易しい読み物に興味をもつことができる。

(主体的に学習に取り組む態度)

領域等 C 読むこと

学習の流れ

| | 教師の働きかけ | 児童の活動 |
|-----------|---|---|
| 導入
5分 | ①題材名とめあてを黒板に書く。
・本時のめあてを黒板に書き、学習の見通しをもたせる。
・『うみのかくれんぼ』という題から話の内容を予想させる。
・最初の2行を読んで、本時のめあてを見つける。
・『くちばし』の学習で「問い」と「答え」があったことを思い出させる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> いきものが どんなかくれんぼをしているのかを
 しらべてよう。 </div> | ・本時の目標を知る。
本時のめあてを明確にするために子どもたちにもめあてを読ませる。
・挿絵から話の内容を想像する。
・本時のめあてを見つける。 |
| 展開
30分 | ②教師の範読を聞いて、最初の問いと3種類の海の生き物が出てくることを確かめる。
・最初の問いを板書する。
・どんな生き物が出てくるのかを考えながら話を聞かせる。
「どんな海の生き物が出てくるのか教科書に線を引きながら聞きましょう。」
③「問い」に対して「答え」の部分を見つけながら、『うみのかくれんぼ』を読み深める。
・「はまぐり」がどこに、どのように隠れているのかを教師と一緒に見つけさせる。
「『はまぐり』がどこに、どのように隠れているのかを見つけながらP116を読んでみましょう。」
・「たこ」がどこに、どのように隠れているのかを二人組でみつけさせる。
「『たこ』がどこに、どのように隠れているのかをP117を読んで友達と一緒に見つけましょう。」
・「かに」がどこに、どのように隠れているのかをP118を読んで見つけましょう」
「『かに』がどこに、どのように隠れているのかを見つけよう。」 | ・問いかけの文をノートに書く。
・教師の範読を聞く。
・『はまぐり、たこ、かに』に線を引く。
・「すなのなか」の部分に線を引きながら聞く。
・「うみのそこ」の部分に線を引く。
・「いわのちかく」の部分に線を引く。 |
| 終末
10分 | ④生き物の隠れ場所と隠れる方法を確認しながら話を読んでいく。
・問いに対する答えの部分をノートに書かせる。
○新しい漢字ー大きい 小さい
⑤次時の予告をする。
「次の時間は、『かずと かんじ』の話を学習します。 | ・本を読む。
・問いに対する答えの部分
・次時の見通しをもつ。 |

指導のポイント

- 「問い」と「答え」の部分については、教科書に線を引かせながら(アンダーライン)話を聞きながら範読などを聞かせるようにしていく。また、挿絵を使って『答え』の部分を確認させる。
- 「問い」と「答え」の部分を書きカードに書いて準備をしておくと言明の授業がおすすめやすい。
- 問いに対する答えは3つあるので、1つ目は、教師と一緒に見つける。2つ目は、ペアで見つける。3つ目は一人一人自分で見つける。の流れで学習をしていくとよい。
- バーコードを読みとり、内容を深めるようにする。

うみのかくれんぼ

いちねん

くみ

なまえ

めあて

いきものが どんな かくれんぼを

しているのか しらべよう。

○なにが、どこに くれていますか。

1, はまぐりが、() にかくれて
います。

2, () が、うみのそこに
かくれています。

3, () が、() に
かくれています。

○はまぐりは、どんなあしをもつて
いますか。

() あし。

○たこはなにをかえることができますか。

() をかえる

○もくずしよいは、はさみでどんなことができますか。

() ことができます。

いちねん

くみ

なまえ

（

めあて

いきものが どんな かくれんぼを

しているのか しらべよう。

○なにが、どこに くれていますか。

1, はまぐりが、(すなのなか)にか
くれています。

2, (たこ)が、うみのそこに
かれています。

3, (かに)が、(いわのそこ)に
かれています。

○はまぐりは、どんなあしをもつてま
すか。

(おおきくて つよい) あし。

○たこはなにをかえることができますか。
(からだのいろ)をかえる

○もくずしよいは、はさみでどんなことができますか。

(かいそうなどをきる) ことができます。

40

題材名 「かずと かんじ」 (第1時/全1時間)

- 目 標** ○第一学年の数を表す配当漢字を読み、書くことができる。
 ・同じ数を表す漢字でも、読み方に違いがあることに関心をもって書く練習をすることができる。
 (主体的に学習に取り組む態度)

領域等 B 書くこと

学習の流れ

| | 教師の働きかけ | 児童の活動 |
|-----------|--|---|
| 導入
5分 | ①題材名とめあてを黒板に書く。
・本時のめあてを黒板に書き、学習の見通しをもたせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> かんすうじの よみかたに なれよう。 </div> | ・本時の目標を知る。
本時のめあてを明確にするために子どもたちにもめあてを読ませる。 |
| 展開
30分 | ②漢数字を読む。
・教師がP120～P121を読む。(1回目)
・同じ漢字でも読み方が異なることを知らせる。

・教科書P120～121を教師の掛け合いで読み進める。(2回目)
「(パン)・手拍子1回、1つたたくと・・・」
「皆さんは、先生の手拍子に合わせて『こぶたが一匹』と教えてください。」
「(パンパン)・手拍子2回、二つたたくと・・・」
「そうですね、こぶたが2匹ですね。」
「続けていきます。先生の手拍子の数をしっかり数えてください。」 | ・教師の範読を聞く。
・「いち、ひとつ、いっぴき」といろいろな読み方があることを知る。
・教師と掛け合いをしながら楽しく読む。 |
| 終末
10分 | ③身の回りにあるものを数えての漢字の読みの練習をする。
「今度は、『こぶた』の代わりに『こねこ』を入れて読んでいきましょう。」

④P120～P121をノートに視写する。

○今日の漢字 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十
⑤次時の予告をする。
「次の時間は、『くじらぐも』の話を学習します。」 | ・『こぶた』の代わりに『ねこ』を入れて楽しく読む。

・読み方を入れて視写をする。

・次時の見通しをもつ。 |

指導のポイント

- 1から10までの漢字が、楽しい詩の中に表現されている。「一つたたくと、こぶたが一匹」と読み始めると、子どもたちの心の中にこぶたが楽しく踊り出してくるような文である。漢数字の学習だからといって漢字の練習から始めないように留意したい。
- 子どもたちに「こぶた」の代わりに入る言葉を考えさせ、楽しみながら学習を進めることができるように配慮したい。
- 漢字の読みの練習を「いち、ひとつ、いっぴき」と書くのではなく、『一つたたくと、こぶたが一匹』という文のなかで読み仮名を付ける形で視写させる。
- バーコードを読みとり、内容を深めるようにする。

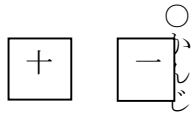
板書例

②漢数字を読む。

- ・教師が1度 P120～P121 を読む。(1回目)
 - ・同じ漢字でも読み方が異なることを知らせる。
 - ・教科書 P120～121 を教師の掛け合いで読み進める。(2回目)
- 「(パン)・手拍子1回、1つたたくと・・・」
「皆さんは、先生の手拍子に合わせて『こぶたが一匹』と教えてください。」
「(パンパン)・手拍子2回、二つたたくと・・・」
「そうですね、こぶたが2匹ですね。」
「続けていきます。先生の手拍子の数をしっかり数えてください。」

①題材名とめあてを黒板に書く。

- ・本時のめあてを黒板に書き、学習の見通しをもたせる。



ねこでよんでみよう
えんぴつでよんでみよう

一つたたくと、こぶたがいつびき

めあて
かんすうじの
よみかたになれよう

⑤次時の予告をする。

「次の時間は、『くじらぐも』の話を学習します。」

③身の回りにあるものを数えての漢字の読みの練習をする。

「今度は、『こぶた』の代わりに『こねこ』を入れて読んでいきましょう。」

④P120～P121 をノートに視写する。

- ・今日の漢字 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十

かずと かんじ

一ねん(

)くみ

なまえ)

めあて

| |
|--|
| |
|--|

あたらしい かんじ

| | | | | |
|--|--|--|--|--|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

)

かずと かんじ

記入見本例

W 40

一ねん() くみ なまえ()

めあて

かずのかぞえかたにきをつけて、かんじでかこう。

あたらしい かんじ

○あたらしいかんじをよみましょう。

| | | | | |
|-------|--------|-------|-------|-------|
| 五 | 四 | 三 | 二 | 一 |
| ご | よん し | さん | に | いち |
| いつ(つ) | よっ(つ) | みっ(つ) | ふた(つ) | ひと(つ) |
| 十 | 九 | 八 | 七 | 六 |
| じゅう | く きゅう | はち | しち | ろく |
| とお | (つ) この | やっ(つ) | なな(つ) | むっ(つ) |

○かきじゆんにきをつけてノートにかんじをかきましよう。

4 1

題材名 「くじらぐも」①（第1時／全3時間）

目 標 全文を読み、初発の感想を持つことができる。

領域名 C 読むこと B 書くこと

学習の流れ

| | | |
|-------------------|---|--|
| | | |
| 導
入
10
分 | ① 題材名「くじらぐも」を黒板に書く。 | |
| 展
開
33
分 | ② 本時の目標を黒板に書く。
「『くじらぐも』を よんで、すきな ところやおもしろいところを
みつけよう。」 | ・ 本時の目標を声に出して読む。 |
| 展
開
33
分 | ③ 題名や挿絵を手がかりにして、話のあらましを予想して、発表させる。
・ 「『くじらぐも』という題名から、どんなお話だと思いますか。」 | |
| 展
開
33
分 | ④ 挿絵をもとにして、話のあらましを読み取らせる。 | ・ 挿絵を見ながら範読を聞く。
・ 全文を5つの場面に分けて音読する。 |
| 展
開
33
分 | ⑤ 全文を読み、好きなところやおもしろいところを見つけさせる。
・ 「好きなところ、おもしろいところに線を引きましょう。」
・ 「線を引いたところをみんなに教えてあげましょう。」 | ・好きなところ、おもしろいところを探して線を引く。
・線を引いたところをそれぞれ発表する。 |
| 終
末
2
分 | ⑥ 友達の発表と自分の発表を比べ、気がついたことを話す。
・ 「友達の発表を聞いて、なるほどと思ったことやすごいなと思ったことを発表しましょう。」 | ・友達の発表を聞き、感じたことや分かったことを、確かめ合う。 |

指導のポイント

○ 題名読みについて

・ 子どもたちといっしょにグラウンドに出てみたり、窓ぎわに寄ってみたりして、意欲づけを図りたい。お話の入り口に、雲を見ることによって、子どもたちの印象はさらに深められるにちがいない。

ただし、補習校によっては、グラウンドに出るような活動について、特に留意する必要があることも考えられる。事前に確認してから活動することが大切である。

○ 話のあらましを読み取らせることについて

・ 「いつ・だれが・何をしたか」を予想の手がかりにして、読む意欲を高めるようにしたい。まず、登場人物を押さえさせることが大切である。

・ 5枚の挿絵をコピーしたものを配布し、話の順序に番号を付けさせる。また、五人の子どもに挿絵を持たせ、リレー形式で、どんな話だったかその大体を話させるとよい。

○ すきなところやおもしろいところを見つけさせる活動について

・ サイドラインを引けないでいる子ども、また、ほとんど全部に引いてしまったような子どもには、五枚の挿絵の中から、一、二ヶ所を選ぶように助言する。

○ 宿題について

・ 家庭学習として、おうちの人たちに読んでもらったり、読みを聞いてもらったりするなど、自主的に学習に取り組む態度を養う。また、家庭学習として、漢字練習を課す。

板書例

- ① 題材名「くじらぐも」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
 - ・ めあてを確認する。

③ 題名や挿絵を手がかりにして、話のあらましを予想して発表させる。

④ 挿絵をもとにして、話のあらましを読み取らせる。

くじらぐも

「くじらぐも」をよんで、すきなところやおもしろいところをみつけよう。

○どんなおはなしかな。
・ くじらがくもになった。
・ くじらにたくもがでてきた。

挿絵 ・ たいいくのじかんに、くじらのかたちをしたくもがあらわれた。

挿絵 ・ くじらぐもがこどもたちのまねをする。

挿絵 ・ くじらぐもをよぶ。

挿絵 ・ くじらぐもにのってそらをとぶ。

挿絵 ・ がっこうにかえっておわかれをする。

○すきなところ・おもしろいところ
・ くじらぐもがまねをするところ。
・ くじらぐもにのるところ。
・ そらをとんで、まちをうえからみるところ。

○きがついたこと
・ くじらぐもはやさしいこと。
・ くじらぐもにのってそらからまちをみてみたい。

⑤ 全文を読み、好きなおもしろいところを見つけさせる。

- ⑥ 友だちの発表と自分の発表を比べ、気がついたことを話す。
 - ・ 「友だちの発表を聞いて、なるほど思ったことやすごいなと思ったことを発表しましょう。」

しんぶん①

41

ねん () しんぶん ()

めあて

絵を掲載する。

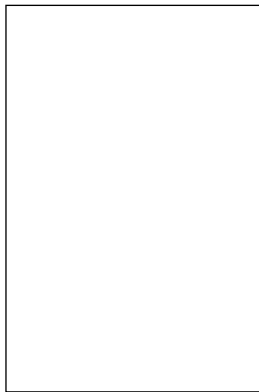
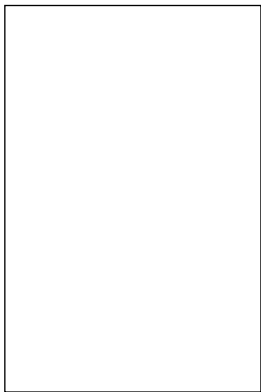
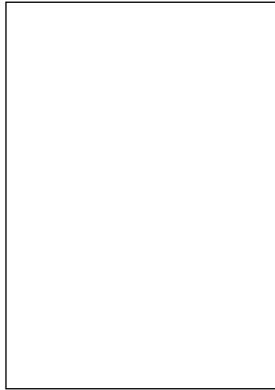
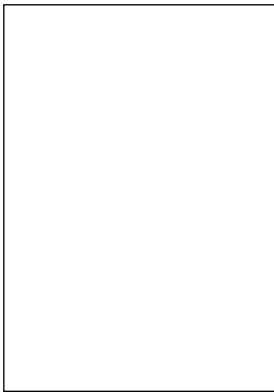
くじらぐも① (記入例)

「ねん () くみ なかえ ()

めあて

「くじらぐも」をよんで、おきなとくみのかたまりを
とらえをみつけよう。

絵を掲載する。



4 2

題材名 「くじらぐも」②（第2時／全3時間）

目 標 登場人物の気持ちを考えながら、話し言葉を表現できる。

領域名 C 読むこと A 話すこと

学習の流れ

| | | |
|--|--|--|
| | | |
| 導入
10分

展開
33分

終末
2分 | ① 題材名「くじらぐも」を黒板に書く。
② 本時の目標を黒板に書く。
「こどもやくじらになって、話してみよう。」
③ カッコでくくった部分が、話し言葉であることを知る。
「カッコでくくった部分を探してみよう。」
「どんな気持ちで話しているのか、考えてみよう。」
④ 登場人物の気持ちを考えながら、話し言葉を気持ちを込めて発表する。
「自分の好きな場面の話し言葉を、気持ちを込めて話そう。」
・音読の工夫
大きい声…呼びかけ
小さい声…内緒話
力強い声…元気さやはりきっている気持ち
⑤ 読後の感想を発表させる。
⑥ 次時の学習の予告をする。
「次の時間はみんなの会話を考えてみましょう。」 | ・本時の目標を声に出して読む

・話し言葉を書き出す。
・それぞれの気持ちについて、想像する。

・隣同士で役割を決めて、様子や気持ちが伝わるように読み合う。

・友達の発表を聞き、感じたことや分かったことを、確かめ合う。 |

指導のポイント

○ 読みを深めるために

- ・ 体操の時間という現実から、くじらぐもの背中に乗って旅をするという空想の世界を十分に楽しみ、またジャングルジムに降りて現実へ戻るといった物語の展開のおもしろさを、子どもたちに存分に味わわせることが大切である。そのために、動作化を取り入れて物語の世界に浸らせたり、くじらぐもや子どもたちの気持ちを想像させたりする。また、会話文の読み方を工夫させたり、役割読みをさせたりするなど、音読活動を十分に取入れていきたい。子どもたちといっしょにグラウンドに出てみたり、窓ぎわに寄ってみたりして、意欲づけを図りたい。お話の入り口で雲を見ることによって、子どもたちの印象はさらに深められるにちがいない。

板書例

- ① 題材名「くじらぐも」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
 - ・ めあてを確認する。

③ カッコでくくった部分が、話し言葉であることを知る。

④ 登場人物の気持ちを考えながら、話し言葉を気持ちを込めて発表する。

くじらぐも

「くじらぐもやくじらになって、話してみよう。」

○ 「でかこまれた ぶぶんを さがそう
どんな きもちなのかな
・ 「一 二 三 四。」
げんき よく はりきる きもち
・ 「おうい」
とおくに いる くじらに こえを
とどけたい

◇ じぶんが すきな ぶぶんの はなしことばの
れんしゅうを しよう。
・ げんきよく おおきな こえで
・ ちから つよく とどける きもちで

◇ ともだちの はっぴょうの かんそうを いおう

⑤ 読後の感想を発表させる。

- ① 次時の学習の予告をする。
「次の時間はみんなの会話を考えてみましょう。」

√じらぐも②

1ねん () √み なおん ()

めあて

Empty rectangular box for writing the objective.

○はなし リンゴを らがそん

| はめん | はなしリンゴ | はめん |
|-----------------|--------|-----|
| √じらぐも を
みつけた | | |
| みんなで
シヤンプ | | |
| √じらぐも
おわかれ | | |

くじらぐも② (記入例)

1ねん () くみ なかえ ()

めあて

○はなし りんぼを らがそら

| はめん | はなしりんぼ | かたし |
|-----------------|--------|-----|
| くじらぐも を
みつけた | | |
| みんなで
シヤンプ | | |
| くじらぐもを
おわかれ | | |

4 3

題材名 「くじらぐも」③（第3時／全3時間）

目 標 登場人物の役割等を認識して、気持ちを表す言葉を考えることができる。

領域名 C 読むこと A 話すこと

学習の流れ

| | 教師の働きかけ | 児童の活動 |
|-----------|---|--------------------------------------|
| 導入
10分 | ① 題材名「くじらぐも」を黒板に書く。 | |
| 展開
33分 | ② 本時の目標を黒板に書く。
「こどもやくじらは どんなことを 知っているのだろう。」 | ・ 本時の目標を声に出して読む |
| | ③ 登場人物の気持ちになって、話し言葉を考える。
「みんなはくもの上ではどんなことを話したでしょう。」
「くじらは空の上でどんなことをこどもたちと話したでしょう。」
・ その時の気持ちを一緒に考えさせる。 | ・ 話し言葉を書き出す。
・ それぞれの気持ちについて、想像する。 |
| 終末
2分 | ④ 登場人物の気持ちを考えながら、話し言葉を気持ちを込めて発表する。
「自分の好きな場面の話し言葉を、気持ちを込めて話そう。」
・ 音読の工夫
大きい声…呼びかけ
小さい声…内緒話
力強い声…元気さやはりきっている気持ち | ・ 隣同士で役割を決めて、様子や気持ちが伝わるように読み合う。 |
| | ⑤ 読後の感想を発表させる。 | ・ 友達の発表を聞き、感じたことや分かったことを、確かめ合う。 |
| | ⑥ 次時の学習の予告をする。
「次の時間は、『しらせたいな 見せたいな』の話を学習します。」 | |

指導のポイント

○ 音読の指導

- ・ 子どもたちが句読点に注意したり、一つ一つの語句を正確に発音したりするように指導して、音読の徹底を図ることが大切である。
- ・ 初めは単に声に出して読むだけだが、読んでその時の様子を思い浮かべると、自然に「おおきなくじら」と読むようになり、号令の声になり、やがて、物語の中の子どもたちに同化してしまう。「おうい。」とくじらぐもに呼びかけるときに、おなかの中からしっかりと力強い声が出てくるようになれば素晴らしい。

板書例

- ① 題材名「くじらぐも」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
 - ・ めあてを確認する。

- ③ 登場人物の気持ちになって、話し言葉を考える。

- ④ 登場人物の気持ちを考えながら、話し言葉を気持ちを込めて発表する。

くじらぐも
こどもやくじらは どんなことを
いつているのだろう。

○こども やくじら の はなしことばを
かんがえよう

きもち

こどもたち

・ いっぱい けしきが みえて きれいだ
・ みんなと いっしょで たのしいな

くじら

・ こどもたちと いっしょで たのしいな
・ なかよしになれて うれしいな

ことば

こどもたち

・ わー じぶんの おうちが あったよ
・ いつも いっしょだと いいのにな

くじら

・ みんな たのしいかい
・ もっと たくさん あそびたいね

- ⑤ 読後の感想を発表させる。

- ⑥ 次時の学習の予告をする
「次の時間は、『しらせたいな 見せたいな』の話を学習します。

くじらぐも③(記入例)

一ねん()くみ なねん()

めあて

くじらぐもくじらはじりなすをいへるのたふ

○くみなちちでくみなすをいへるかな

| だれが | くみなちち | くみなす |
|-------|--|--|
| くじらぐも | <ul style="list-style-type: none"> ・けしぎがみえて きれい ・みんなと いっしょで たのしい | <ul style="list-style-type: none"> ・わー じらぐの おうちが あたふ ・くじらぐも いっしょだと いのち |
| くじら | <ul style="list-style-type: none"> ・くじらぐもたちと いっしょで たのしい ・なかよしになれて うれしい | <ul style="list-style-type: none"> ・みんな たのしいから ・おとたくさん あそびたいね |
| せんせい | <ul style="list-style-type: none"> ・くじらぐもたちが うれしそうで ・じらぐも うれしい | <ul style="list-style-type: none"> ・くじらぐも くじらぐさんが くるといね |

44

題材名 「しらせたいな、見せたいな」(第1時/全2時間)

- 目標
- ・ 知らせたいこと、見せたいものを見つけ、進んで文で表そうとする。
 - ・ 簡単な組み立てを考えたり、文を読み返したりして、知らせたいことを丁寧に書くことができる。

領域等 B 書くこと

学習の流れ

| | 教師の働きかけ | 児童の活動 |
|-----------|---|--|
| 導入
5分 | ① 題材名「しらせたいな、見せたいな」を黒板に書く。
② 本時の目標を黒板に書く。
しらせたいことをきめて、「見つけたカード」をつくろう。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の目標を声に出して読む。 |
| 展開
30分 | ③ 全文を読んで、学習の見通しを持たせる。
・ だれに・何を・どのように知らせるのかを読み取る。
・ 教科書p18を見ながら、p19の文章を読み、ひょうげんを考えましょう。
④ カード例や例文をもとに、書き方を考えさせる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 全文を読み、学習の見通しをもつ。 |
| 終末
10分 | ⑤ 補習校で見つけたことを出し合い、書きたいことを決めさせる。
⑥ 色や様子等、見つけたことをカードに書き込ませる。
・ 『見つけたカード』は、形や色など、見た感じだけでなく、音やにおいのように、いろいろな感じ方を使って考えてみましょう。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分自身の身のまわりにあるものから、好きなものやみんなに知らせたいものを見つける。 ・ 「見つけたカード」を作る。 |

指導のポイント

- 題材選びについて
 - ・ 事前に知らせておいて、家にあるものや好きな動物などを選ばせておくようにする。
 - ・ 子どもたちの言葉で自由に書かせるが、あらかじめ例を提示すると、子どもたちはより書きやすくなる。
 - ・ 「知らせたい」という思いが高まるように、個々の考えを十分に引き出すようにしたい。
- 安全面について
 - ・ 校舎内外を歩く時の約束を決めておく必要がある。安全面への配慮はもとより、現地校の設備や備品等に手を触れないように指導しておくことは極めて重要である。

○ じっくりと考えさせるための支援

- * 実際に校舎内外を歩き、知らせたいものを確かめる時間を設定する。
- * 知らせたいものについて、一人ひとりが発表する場を設定する。
- * 友だちの発表を聞いて、気づかなかったこと、参考にしたいことなどを見つけさせる。
 - ・ 子どもたちそれぞれの力量差が出やすい活動だが、楽しく学習を始める意味でも、じっくりと時間をかけて進めたい。
 - ・ 一年生の子どもは、まわりの状況に影響されやすい。例えば、教科書にモルモットが載っていたら、「わたしもモルモットにしよう。」と、思いつきで安易に決めてしまうこともある。子どもたちには、知らせたいものを決めるまでに、じっくりと考える場を持たせることが大切である。

板書例

- ① 題材名「しらせたいな、見せたいな」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
めあてを確認する。

- ③ 全文を読んで、学習の見通しを持たせる。
 - ・だれに・何を・どのように知らせるのかを読み取る。※掲示物を準備
 - ・教科書P.20～P.21の内容との共通点に気づかせて、子どもたちの学習意欲を高めるようにする。

板書例

- ④ カード例や例文をもとに、書き方を考えさせる。

- ⑤ 補習校で見つけたことを出し合い、書きたいことを決める。

- ⑥ 色や様子等、見つけたことをカードに書き込ませる。
 - ・「『見つけたカード』は、形や色など、見た感じだけではなく、音やにおいのように、いろいろな感じ方を使って考えてみましょう。」

しらせたいな、見せたいな 1

一ねん（ ）くみ なまえ（

めあて

「見つけたカード」

しらせたいな、見せたいな 1

記入見本

W
44

一ねん（ ）くみ なまえ（

めあて

しらせたいことをきめて、「見つけたカード」を
つくろう。

「見つけたカード」

例 下の教科書18の挿絵を参考にさせる

45

題材名 「しらせたいな、見せたいな」(第2時/全2時間)

- 目標
- ・ 知らせたいこと、見せたいものを見つけ、進んで文で表そうとすることができる。
 - ・ 簡単な組み立てを考えたり、文を読み返したりして、知らせたいことを丁寧に書くことができる。

領域等 B 書くこと

学習の流れ

| | 教師の働きかけ | 児童の活動 |
|-----------|---|--|
| 導入
5分 | ① 題材名「しらせたいな、見せたいな」を黒板に書く。
② 本時の目標を黒板に書く。
「見つけたカード」をつかって、ぶんしょうをかこう。 | ・ 本時の目標を声に出して読む。 |
| 展開
30分 | ③ 書きたいことを選び、文章を書く順序を考えさせる。
「見つけたカード」づくりのめあて
・ えを ていねいに かく。
・ いろいろな かたちを よく みて かく。
・ かんじたり、おもったり した ことを たいせつに する。
④ 句読点や文字の間違いないかを確認して清書させる。
ぶんを かくときの めあて
・ ていねいな じで かく。
・ いろんなことを おもいうかべて かく。
・ 「,」(てん)や「。」(まる)を わすれないように する。 | ・ 「見つけたカード」を有効に活用して文章を書く。

・ 句読点や文字の間違いないかを確認して清書する。 |
| 終末
10分 | ⑤ 必要に応じてグループや班の友達同士でカードの交流をして、書くことを増やすなどの工夫をさせる。
・ お互いの作文を読み合うことを通して、工夫した点を見つけさせる。
⑥ 自分の作文を発表させ、相互評価させる。
・ 「友達の作文を聞いて、良かったこと、工夫したなあと思うところを発表しましょう。」 | ・ 友達の工夫した点を見つけ、自分の作文を再考する。

・ 作文を読み合い、学習を振り返る。 |

指導のポイント

- 文章を書かせるポイント
 - ・ 知らせたいものをじっくりと見ることを大切にする。(色・形・大きさ・動き等)
 - ・ 子どもたちには五感を意識させて、いろいろな視点から見つけたことを説明できるように導くことが大切である。
 - ・ 必要に応じて、あらかじめ家庭学習に委ねる部分をはっきりさせるなどして、補習校での学習活動を効率的に進めていく必要がある。
- 効率的に学習を進めるために
 - ・ 補習校での学習活動の成果をそれぞれに家に持ち帰り、おうちの人に読んでもらって感想を聞くことは大切なことである。
 - ・ なるべく補習校での授業時間内に書き終わることができるよう、活動時間を十分に確保したいが、どうしても終わることができなければ、家庭学習として取り組ませる。それにあたり、その方法や内容をあらかじめしっかりと確認しておく必要がある。

板書例

- ① 題材名「しらせたいな、見せたいな」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
 - ・ めあてを確認する。

- ③ 書きたいことを選び、文章を書く順序を考えさせる。

板書例

しらせたいな 見せたいな

「見つけたカード」をつかって、
ぶんしょうを かこう。

○ 「見つけたカード」づくりの めあて

- ・ えを ていねいに かく。
- ・ いろいろな かたちを よく みて かく。
- ・ かんじたり、おもったり した ことを たいせつに する。

○ ぶんを かくときの めあて

- ・ ていねいな じで かく。
- ・ いろんな ことを おもいうかべて かく。
- ・ 「、」(てん)や 「。」(まる)を わすれないように する。

○ ともだちの さくぶんの いい ところを みつけよう。

- ④ 句読点や文字の間違いがないかを確認して清書する。

- ⑤ 必要に応じて、グループや班の友達同士でカードの交流をして、書くことを増やすなどの工夫をする。
 - ・ お互いの作文を読み合うことを通して、工夫した点を見つけさせる。

- ⑥ 自分の作文を発表させ、相互評価させる。
 - ・ 「友達の作文を聞いて、良かったこと、工夫したところを発表しましょう。」

- ⑦ 次時の学習の予告をする
「次の時間は『まちがいを なおそう』の話を学習します。」

46

題材名 「まちがいをなおそう。ことばをたのしもう。」（第1時／全1時間）
目標 ○文の中で、助詞の「は」「へ」及び「を」の使い方を知ることができる。
 ・詩や早口言葉を声に出して楽しむことができる。（主体的に学習に取り組む態度）
領域等 言葉の特徴や使い方 我が国の言語文化

学習の流れ

| | 教師の働きかけ | 児童の活動 |
|-----------|---|--|
| 導入
5分 | ① 題材名「まちがいをなおそう。ことばをたのしもう」を書く。
・ゆっくりと声にだしながら板書する
・本時の目標を児童に知らせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 「は」「を」「へ」の つかいかたを しろう
 にほんごに なれよう。 </div> | ・本時の目標を知る。
めあてを明確にするため、教師と一緒に読む。 |
| 展開
30分 | ②教科書上のP.80（『わには あらう』『かおを あらう』）で学習したことを思い出させる。それを学習で使うことを知らせる
「前の教科書で『は を へ』の使い方の学習をしました。思い出してみよう。」
・わたしは あらう かおを あらう
・わたしは かえる いえへ かえる
・教科書P.21を読んで、間違いに気づかせる。
「P.21を先生が読みます。おかしいなと思った字に線を引きながら聞いて下さい。」
「どこが おかしいか発表して下さい、」
「字の間違いを訂正しながらP21を読んでみましょう。」
③濁音、半濁音の読み方を知って文を読ませる。
・谷川 俊太郎の詩『ぞうさんのぼうし』を読む。
「ぞうさんの ぼうしを読みます。口の形に気をつけながら聞いて下さい。」
「言葉をはっきり、ゆっくり意識して、先生と一緒に詩を読みましよう。」
④早口言葉を通して日本語のおもしろさを感じさせる。
・『なまむぎ、なまごめ なまたまご』を読む。
「先生が読んでみます。良く聞いて下さい。」
「みんなで読みましよう。」 | ・教科書上又は挿絵、カードを見て前期の学習を思い出す。
・字の間違いに気づく。
・線を引く。
・発表する。
・間違いを意識して読む。
・詩を聞く。
・詩をゆっくりはっきり読む。 |
| 終末
10分 | ○新しい漢字一字
⑤次時の予告をする。
「次の時間は、『かんじのはなし』の学習をします。 | ・早口言葉を聞く。
・早口言葉を読む。
・次時の見通しを持つ。 |

指導のポイント

- 教科書上や挿絵や使いながら助詞「は」「を」「へ」の使い方を思い出させる。日本語を学習する上で助詞を正しく使うことは難しいので、「はとわ」「をとお」「へとえ」を意識して声に出すこと短文作を通して慣れることを継続していきたい。
- 学校や家庭において、日本語を聞いたり話をしたりすることに慣れてきてはいるものの、「は」「へ」「を」を使った文を読んだり書いたりすることは経験が少ないので意識して視写させるようにする。
- 濁音、半濁音をふり返り、声に出したり早口言葉を発表したりして日本語のおもしろさに気づかせたい。
 ・家庭学習との連携を図り、補習校で学習した事柄を、各家庭でも反復練習する機会を増やすことにより定着が図られていく。

板書例

②教科書上の P.80 で学習したことを思い出させる。それを本時の学習で使うことを知らせる。
 「前の教科書で『は を へ』の使い方の学習をしました。思い出してみよう。」
 ・わたしは あらう かおを あらう
 ・わたしは かえる いえへ かえる
 ・教科書 P.21 を読んで、間違いに気づかせる。
 「P.21 を先生が読みます。おかしいなと思った字に線を引きながら聞いて下さい。」
 「どこが おかしいか発表して下さい。」
 「字の間違いを訂正しながら P21 を読んでみましょう。」

① 題材名「まちがいをなおそう。ことばをたのしもう」を書く。
 ・ゆっくりと声にだしながら板書する。
 ・本時の目標を児童に知らせる。
 ・めあてを意識させることにより主体的な学習につなげていく。

○かん字

あおまきがみ
あかまきがみ
きまきがみ

ことばをたのしもう
「ぞうさんの ぼうし」
「はやくち ことば」
なまむぎ なまごめ なまたまご

めあて
「は」「を」「へ」の つかいかたを
しろう。

教科書 p.21

ものお↓ものを
こうえんえ↓こうえんへ

教科書上 p.80

わには あらう
かおを あらう

「まちがいを なおそう」

④早口言葉を通して日本語のおもしろさを感じさせる。
 ・なまむぎ、なまごめ なまたまごを読む。
 「先生が詩を読んでみます。良く聞いて下さい。」
 「みんなで詩を読みましょう。」

③濁音、半濁音の読み方を知って文を読ませる。
 ・谷川 俊太郎の詩『ぞうさんのぼうし』を読む。
 「ぞうさんの ぼうしを読みます。口の形に気をつけながら聞いて下さい。」
 「言葉をはっきり、ゆっくり意識して、先生と一緒に詩を読みましょう。」

⑤次時の予告をする。
 「次の時間は、『かんじのはなし』の学習をします。」

まちがいをなおそう

いちねん

くみ

なまえ

めあて

| |
|--|
| |
|--|

○もじの まちがいがあります。
ただしく かきなおしましょう。

| |
|---|
| も |
| の |
| お |

| |
|--|
| |
| |
| |

| |
|---|
| わ |
| た |
| し |
| わ |

| |
|--|
| |
| |
| |
| |

| |
|--|
| |
| |
| |
| |

| |
|--|
| |
| |
| |
| |

| |
|--|
| |
| |
| |

| |
|--|
| |
| |
| |

まちがいをなおそう

記入見本

w
46

いちねん

くみ

なまえ（

めあて

「は」「を」「へ」のつかいかたを しろう。

・にほんごに なれよう

○もじの まちがいがあります。

ただしく かきなおしましょう。

ものお

ものを

わたしわ

わたしは

| |
|--|
| |
| |
| |
| |

| |
|--|
| |
| |
| |
| |

| |
|--|
| |
| |
| |

| |
|--|
| |
| |
| |

47

題材名 「かんじの はなし」 (第1時/全1時間)

- 目標** ○漢字の成り立ちに興味をもち、学習したことをいかして漢字を使った短い文を書くことができる。
 ・漢字の成り立ちに興味をもって学習し日本語のおもしろさを知り漢字を書くことができる。
 (主体的に学習に取り組む態度)

領域等 言葉の特徴や使い方 B 書くこと

学習の流れ

| | 教師の働きかけ | 児童の活動 |
|-----------|--|---|
| 導入
5分 | ①題材名とめあてを黒板に書く。
・本時のめあてを黒板に書き、学習の見通しをもたせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">えから うまれた かんじをかこう</div> | ・本時の目標を知る。
本時のめあてを明確にするために子どもたちにもめあてを読ませる。 |
| 展開
30分 | ②教科書 (P24～25) を読み、漢字の成り立ちを知らせる。
・「山」「水」「雨」「上」「下」
「挿絵を見て、何を表す漢字か考えてみましょう。」
「絵と漢字を比べて、どのように漢字ができたか考えましょう。」
・教科書を読んで確認させる。 | ・挿絵を見て、漢字を考える。
・教師の範読を聞きながら、漢字の成り立ちについて知る。 |
| 終末
10分 | ③P26の例文のように漢字を考えるゲームをさせる。
「『山の上に日がのぼる。』を 漢字を使って、書き直そう。」
「『ろうそくの火をけす。』を 漢字を使って、書き直そう。」
・教科書を読んで確認させる。

・例文のような漢字クイズを作って、友達と読み合い交流する。
④漢字の練習をさせる。
「書き順に注意して、漢字の練習をしよう。」 | ・絵を漢字に直して文を書く。 |
| | ○あたらしい漢字—山 水 雨 上 下 日 火 田 川 竹 月
④次時の予告をする。
「次の時間は、『じどうしゃくらべ』の話を学習します。 | ・筆順に注意して、漢字を書く。

・次時の見通しをもつ。 |

指導のポイント

- 「象形文字」について考えさせ、漢字に親しみを持たせたい。「象形文字」の文字の他に、成り立ちによって「指事文字」「会意文字」「形声文字」があることについて指導者側も理解しておくこと漢字学習について指導の幅が広がる。現在、漢字の80%以上が形声文字である。
- 漢字指導についての工夫例
 - ①黒板に色チョークで筆順ごとに色を変えて書く。(ホワイトボードにカラーペンで書く)
 - ②空書き(指で宙に書く)で筆順を指導する。
 - ③とめ、はね、はらいに注意させる。
 - ④マス(4つの部屋)に気をつけて書かせる。
 - ⑤漢字カードを事前に準備しておく。
- 家庭学習について、
 実態にあわせて、教科書の文の視写や絵からできた漢字調べなどを家庭学習として出し、学習の定着や発展学習を図る。
- バーコードを読みとり、内容を深めるようにする。

板書例

②教科書（P24～25）を読み、漢字の成り立ちを知らせる。

- ・「山」「水」「雨」「上」「下」
「挿絵を見て、何を表す漢字か考えてみましょう。」
「絵と漢字を比べて、どのように漢字ができたか考えましょう。」
- ・教科書を読んで確認させる。

①題材名とめあてを黒板に書く。

- ・本時のめあてを黒板に書き、学習の見通しをもたせる。

| | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------------|---------------------|----------|-------------|-------------|--------------|---------------------|---|---|--------|--------|--------|-----|-----|------|---------|---------|
| 火 <small>ひ</small> | 山 <small>やま</small> | ○きょうのかんじ | 田んぼになえをうえる。 | ろうそくの 火をけす。 | 山の 上に 日がのぼる。 | かん字をつかって、かきなおしましょう。 | 下 | 上 | 雨のイラスト | 水のイラスト | 山のイラスト | えから | めあて | うまれた | かんじをかこう | かんじのはなし |
| 田 <small>た</small> | 水 <small>みず</small> | | | | | | | | | | | | | | | |
| 川 <small>かわ</small> | 雨 <small>あめ</small> | | | | | | | | | | | | | | | |
| 竹 <small>たけ</small> | 上 <small>うへ</small> | | | | | | | | | | | | | | | |
| 月 <small>つき</small> | 下 <small>した</small> | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 日 <small>ひ</small> | | | | | | | | | | | | | | | |

④漢字の練習をさせる。
「書き順に注意して、漢字の練習をしよう。」

③P26 の例文のように漢字を考えるゲームをさせる。

- 「『山の上に日がのぼる。』を 漢字を使って、書き直そう。」
- 「『ろうそくの火をけす。』を 漢字を使って、書き直そう。」

- ・教科書を読んで確認させる。
- ・例文のような漢字クイズを作って、友達と読み合い交流をする。

⑤次時の予告をする。
「次の時間は、『じどうしゃくらべ』の話进行学习します。」

かんじのはなし

一ねん () くみ なまえ ()

めあて

| |
|--|
| |
|--|

えをみて、かんじをかこう。

| | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |

()

かんじのはなし

記入見本

一ねん（ ）くみ なまえ（ ）

えから うまれた かんじをかこう。

めあて

えをみて、かんじをかこう。

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 日 | 下 | 上 | 雨 | 水 | 山 |
| | | | | | |
| | | | | | |

| | | | | | |
|--|---|---|---|---|---|
| | 月 | 竹 | 川 | 田 | 火 |
| | | | | | |
| | | | | | |

（

48

題材名 「じどう車くらべ」①（第1時／全2時間）

目標 それぞれの自動車について、働きと作りの関係などを考えながら、内容の大体を読み取ることができる。

領域名 C読むこと

学習の流れ

| | 教師の働きかけ | 児童の活動 |
|-----------|---|-----------------------------------|
| 導入
10分 | ① 題材名「じどう車くらべ」を黒板に書く。 | |
| 展開
33分 | ② 本時の目標を黒板に書く。
「じどう車のつくりについて しらべよう。」 | ・ 本時の目標を声に出して読む |
| | ③ 車種によるつくりのちがいについて、用紙に整理する。
「車によってつくりがちがいますね。どんな車がどんなつくりになっているのかをまとめてみましょう。
・ ワークシートに整理する。
・ 色や格好のよさではなく、どのようにつくってあるかの違いが分かるようにまとめさせる。 | ・ ワークシートに、仕事とつくりについて整理する。 |
| | ④ お互いにみつけたつくりの違いについて交流する。
「自分がみつけたつくりの違いについて、交流しましょう。」 | ・ 友達同士で意見を交流する。 |
| 終末
2分 | ⑤ 教科書以外の車についても、気づいたことについて交流する。
「教科書に出てくる車以外にも、気が付いたことがあったら、お互いに交流しましょう。」 | ・ 自分が気づいたり、見つけたりしたことがある車について交流する。 |
| | ⑥ 次時の予告をする。
・ 「次の時間には、しごととつくりをくわしく見てみましょう。」 | |

指導のポイント

- 範読するときは
 - ・ 分ち書きで切らずに、言葉のまとまりごとに読む。
 - ・ 教師が自分の経験を織り交ぜながら範読する。
- 音読させるときは
 - ・ 教師との掛け合い、列やグループによる分担などのいろいろな読み方で、「いろいろなくちばし」で経験した「問い」と「答え」の関係に気づくことが望ましい。
- 片仮名を意識させる
 - ・ 児童から挙げた自動車の名前は、平仮名で書くべきものと片仮名で書くべきものをしっかり意識して板書していく。

板書例

- ① 題材名「じどう車くらべ」を黒板に書く
- ② 本時の目標を見童に知らせ、めあてを確認する。

③ 車種によるつくりのちがいについて、用紙に整理する。

④ お互いにみつけたつくりの違いについて交流する。

| | | | | |
|---------------------|--------|-----|--------|------|
| じどう車 | | | | |
| くらべ | | | | |
| じどう車のつくりについて しらべよう。 | | | | |
| ◇全文を読む | | | | |
| ◇しごととつくりについてまとめる | | | | |
| 車 | しごと | つくり | | |
| バス | 人をのせて | はこぶ | ざせきが | ひろい |
| | | 大きな | まど | |
| トラック | にもつを | はこぶ | にだいが | ひろい |
| | | | タイヤが | たくさん |
| クレーン | おもいものを | | じようぶな | うで |
| | つりあげる | | しっかりした | あし |
| セメント車 | セメントを | はこぶ | タンクが | ある |
| じようようしゃ | 人を | はこぶ | ざせきが | しっかり |

⑤ 教科書以外の車についても、気づいたことについて交流する。

① ⑥ 次時の予告をする。

- ・「次の時間には、しごととつくりをくわしく見てみましょう。」

じどう車くらぐ①

一本()くみ ねがひ()

ねがひ

Blank rectangular box for writing.

バス じやうやう車

| | |
|-----|-------|
| しごと | |
| | |
| り | そのために |
| | |
| く | |
| | |
| つ | |
| | |

トラック

| | |
|-----|-------|
| しごと | |
| | |
| り | そのために |
| | |
| く | |
| | |
| つ | |
| | |

クレーン車

| | |
|-----|-------|
| しごと | |
| | |
| り | そのために |
| | |
| く | |
| | |
| つ | |
| | |

じどう車くらぶ①(記入例)

一ねん()くみ なまえ()

めあて

じどう車の ちがいに ついて しょうかい

バス しょうよう車

| | |
|-----|---------------------------------|
| しごと | バスしょうよう車は、人をのせてはぶらぶらとをしてくる。 |
| し | |
| り | そのために |
| り | やせきのところが、ひろくついています。 |
| く | |
| つ | そのけしきがよくみえるように、大きなまどが たくさんあります。 |
| つ | |

トラック

| | |
|-----|-----------------------------------|
| しごと | トラックは、にもつをはぶらぶらとをしてくる。 |
| し | |
| り | そのために |
| り | うんてんせきのほが、ひろいになりになっています。 |
| く | |
| つ | おもいにもつをのせるトラックには、タイヤが たくさんついています。 |
| つ | |

クレーン車

| | |
|-----|---------------------------------|
| しごと | クレーン車は、おもいものをつりあげるじいしをしてくる。 |
| し | |
| り | そのために |
| り | しょうぶなうでが、のびたりうづたりするようにつくられています。 |
| く | |
| つ | 車たいがかたおかないように、しっかりしたあしが、ついています。 |
| つ | |

49

題材名 「じどう車くらべ」②（第2時／全2時間）

目標 それぞれの自動車について、働きと作りの関係などを考えながら、内容の大体を読み取ることができる。

領域名 C読むこと

学習の流れ

| | 教師の働きかけ | 児童の活動 |
|-----------|--|---------------------------|
| 導入
10分 | ① 題材名「じどう車くらべ」を黒板に書く。 | |
| 展開
33分 | ② 本時の目標を黒板に書く。
「しごとがちがうと どうしてつくりが ちがうのだろう」 | ・ 本時の目標を声に出して読む |
| | ③ 車の仕事ではどんなことが大切なのかを考える。
「車によって仕事がちがいますね。それぞれの仕事で大切なことは何なのかを考えてみましょう。」
・ ワークシートに整理する。
・ 車の絵や写真を拡大するなどして、視覚的に仕事の内容が分かるような工夫があるとよい。 | ・ ワークシートに、仕事とつくりについて整理する。 |
| | ④ 仕事とつくりのつながりについて、確認する。
「車の仕事や役割とつくりの違いについて、確認しましょう。」 | ・ 友達同士で意見を交流する。 |
| 終末
2分 | ⑤ お互いの意見を交流する。
「お互いに気付いたことを発表しましょう。」 | |
| 分 | ⑥ 次の予告をする。
・ 「次の時間には、じどう車ずかんをつくっていきます。」 | ・ 次の見通しを持つ。 |

指導のポイント

- 「しごと」と「つくり」を押さえる
 - ・ 「そのために」という言葉に着目させ、仕事と作りには関係があること、この言葉が仕事と作りそれぞれのまとまとりをつなぐ役割を果たしていることを理解させる。
- 片仮名の指導
 - ・ ここで出てくる 11 字と長音記号は、それぞれの視写の前に教師が板書して筆順を示し、平仮名や漢字同様、字形と筆順に気をつけて書くことを指導する。

板書例

- ① 題材名「じどう車くらべ」を黒板に書く
- ② 本時の目標を児童に知らせ、めあてを確認する。

- ③ 車の仕事ではどんなことが大切なのかを考える。
「車によって仕事がちがいますね。それぞれの仕事で大切なことは何なのかを考えてみましょう。」

- ④ 仕事とつくりのつながりについて、確認する。

じどう車 くらべ

。しごとがちがうと どうしてつくりが ちがうの
だろう

○車のやくわりやしごとを みてみよう

バス：大きいだけでなく、けしきが見えることがたい
せつ

トラック：たくさんのもつを あんぜんにはこ
ぶことが たいせつ

クレーン車：おもいにもつを あんぜんに いどう
させることが たいせつ

○しごとがちがうと どうして つくりも かわるのだ
ろう

・バスは、たのしく みんなで のることが だいじ
・トラックは、いちどに たくさん はこべる
・クレーンは、たかいところや とおいところに
はこばないといけない

- ⑤ お互いの意見を交流する。
「お互いに気付いたことを発表しましょう。」

- ⑥ 次時の予告をする。
・「次の時間には、じどう車ずかんをつくっていきます。」

じどう車くらぶ②

一本()しみ ねがひ()

ねがひ

Blank rectangular box for writing.

バス じやうやう車

| | |
|------|----|
| しごと | |
| たいせつ | バス |
| たいせつ | |
| たいせつ | |

トラック

| | |
|------|------|
| しごと | |
| たいせつ | トラック |
| たいせつ | |
| たいせつ | |

クレーン車

| | |
|------|------|
| しごと | |
| たいせつ | クレーン |
| たいせつ | |
| たいせつ | |

じどう車くら②(記入例)

「ねん()くみ なまえ()

めあて

「じどう車くらぐ」をぜんぶかたわりのじ
「じどう車ずかん」をつくる。

バス じようよう車

| | |
|-----|----------------------------------|
| しごと | |
| り | バス |
| く | おまきのえいぶんが、ひろくついであります。 |
| つ | そとのけしきがよくみえるように、大きなまどが たくさんあります。 |

トラック

| | |
|-----|-----------------------------------|
| しごと | トラックは、にもつをはばらうじいしをします。 |
| り | トラック |
| く | うんとせきのほかは、ひろにだうになつています。 |
| つ | おもりにもつをのせるトラックには、タイヤが たくさんついています。 |

クレーン車

| | |
|-----|----------------------------------|
| しごと | クレーン車は、おもいものをひりあげるじいしをします。 |
| り | クレーン車 |
| く | じようぶなうでが、のびたりうしろたりあるように ついてあります。 |
| つ | 車たいがかたむかないように、しかりしたあしが、ついています。 |

50

題材名 「じどう車ずかんをつくろう」①（第1時／全2時間）

目標 ○事柄の順序に沿ってわかりやすく自動車紹介カードを作ることができる。
 ・好きな自動車の説明文を進んで作ろうとすることができる。（主体的に学習に取り組む態度）

領域等 B 書くこと

学習の流れ

| | 教師の働きかけ | 児童の活動 |
|-----------|---|---|
| 導入
5分 | ①題材名とめあてを黒板に書く。
・本時のめあてを黒板に書き、学習の見通しをもたせる。
・教材「じどう車くらべ」の学習をふり返させる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">じどう車ずかんをつくろう</div> | ・本時の目標を知る。
本時のめあてを明確にするために子どもたちにもめあてを読ませる。 |
| 展開
30分 | ②「じどう車しょうかいカード」の作り方を考え、作らせる。
・自分が紹介したい自動車を決めさせる。
「みんなに紹介したい自動車を決めましょう。」
・紹介したい自動車の「しごと」と「つくり」を調べ、ノートに書かせる。
「教科書P.34を読んで、『救急車』の仕事とつくりについて考えましょう。」
・説明の観点に着目しながら、「しごと」と「つくり」をノートに書かせる。
「自分で選んだ自動車について、救急車と同じようにカードを作りましょう。」 | ・紹介したい自動車を決める。
・書き方の観点を知る。
・紹介カードを作る。 |
| 終末
10分 | 「ていねいに書き終わったら、挿絵用の絵を描いたり写真のコピーを貼ったりしましょう。」
③作成した紹介カードの見直しをさせる。
○新しい漢字一気をつける
④次時の予告をする。
「次の時間は、作成した自動車紹介カードを発表し合います。」 | ・紹介したい自動車の絵を描いたり写真のコピーを貼ったりする。
・次時の見通しをもつ。 |

指導のポイント

- 片仮名を意識させる。
 - ・児童が紹介したい自動車には、平仮名で書くべきものと片仮名で書くべきものがあるので、意識して板書していく。（例 パトカー トラック きゅうきゅう車）また、日本にはない自動車名や紹介したい車も出てくると考えられる。
- 前時までの「じどう車くらべ」に出てきた車についてふり返させ、自動車に興味を持たせるということと同時に、図鑑を作ってみたいという意欲を持たせることが大切である。
 - 「・・・図鑑」など、既製の本を参考として準備しておくといよい。
- 自動車の仕事と作りについて、子どもたちに確かめながら学習を進めていくようにしたい。
- 早く書き終わった子どもには、絵を描かせたり写真のコピーを貼らせたりさせる。そして、それらに説明を付け加えることなどによって、学習意欲を高め、意欲の持続に続けたい。
- 図書室や家庭にある図鑑なども使用させる。

板書例

③作成した紹介カードの見直しをさせる。

①題材名とめあてを黒板に書く。
・本時のめあてを黒板に書き、学習の見通しをもたせる。
・教材「じどう車くらべ」の学習をふり返させる。

めあて
じどう車ずかんをつくらう

○きゆうきゆう車
しごと
つくり
けがをした人や
うごかせるベッド
びよう気の人を
サイレン
はこぶ。

○はしご車

○いどうはんぱい車

○せいそう車

ずかんのつくりかた

「え・しゃしん」「ぶくろ」

○かんじ

気分

をつける

④次時の予告をする。
「次の時間は、作成した自動車紹介カードを発表し合います。』

②「じどう車しょうかいカード」の作り方を考え、作らせる。
・自分が紹介したい自動車を決めさせる。
「みんなに紹介したい自動車を決めましょう。」
・紹介したい自動車の「しごと」と「つくり」を調べ、ノートに書かせる。
「教科書 P34 を読んで、『救急車』の仕事とつくりについて考えましょう。」
・説明の観点に着目しながら、「しごと」と「つくり」をノートに書かせる。
「自分で選んだ自動車について、救急車と同じようにカードを作りましょう。」
「ていねいに書き終わったら、挿絵用の絵を描いたり写真のコピーを貼ったりしましょう。」

せつめいする 文しょうを かこう①

W
50

いちねん

くみ

なまえ

(

めあて

| | |
|--|--|
| <p style="text-align: center;">し
ら
い
し</p> | <p style="text-align: center;">じ
く
り</p> |
| | |

せつめいする 文しようを かこう

記入例

w
50

いちねん

くみ

なまえ（

）

めあて

じどう車ずかんを つくろう。

| | |
|--|---|
| きゆうきゆう車 | |
| しごと | つくり |
| けがをした人や
びょうきの人を
はこぶ。
いそいではしる。 | うごかせるべつど
がある。
うんてんせきの
うしろがひろい。
サイレン |

5 1

題材名 「じどう車ずかんをつくろう」②（第2時／全2時間）

- 目 標** ○事柄の順序に沿ってわかりやすく自動車紹介カードを作ることができる。
 ・好きな自動車の説明文を進んで発表することができる。（主体的に学習に取り組む態度）

領域等 B 書くこと

学習の流れ

| | 教師の働きかけ | 児童の活動 |
|-------------------|---|---|
| 導
入
5
分 | ①題材名とめあてを黒板に書く。
・本時のめあてを黒板に書き、学習の見通しをもたせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> じどう車ずかんをつくりあげ、みんなにしょうかいしよう。 </div> | ・本時の目標を知る。
本時のめあてを明確にするために子どもたちにもめあてを読ませる。 |
| 展
開
30
分 | ②カードを完成させ、発表する自動車の紹介をする。
・「じどう車しょうかいカード」の見直しをさせる。
・発表の練習をさせる。
・作成したカードの発表会をさせる。
「自分が作った紹介したい自動車をみんなに発表しましょう。」 | ・自分のカードの見直しをする。
・発表会の練習をする。
・発表をする。
・友達の紹介したい自動車を観点を考えて聞く。 |
| 終
末
10
分 | ③みんなのカードを集めて、図鑑にさせる。
「みんなのカードをあつめて、図鑑にしましょう。」
④次時の予告をする。
「次の時間は、『かたかなをかこう』の学習をします。」 | ・カードを集めて図鑑にする。
・完成した図鑑を見る。
・次時の見通しをもつ。 |

指導のポイント

- 自分が作ったカードを推敲させる。その際、観点がわかりやすくなっているか、絵や写真の説明はどうかなど再指導をする。
- 友だちの作ったカードを聞くときには、観点がわかりやすく述べられているか、絵や写真の説明はどうかなどの感想を持って聞くようにさせる。
- クラスの数によって、班毎やクラス全体で図鑑としてまとめるようにさせる。
- 作った図鑑をもとに、子どもたち同士が楽しめる活動を積極的に取り入れるようにしたい。
- 出来上がった図鑑は、友だちやお家の人たちにも、しっかり見てもらうように促す。
- P35の「・・・は、・・・のしごとをしています。そのためには、・・・になっています。」の形式を活用できるようにさせる。
- バーコードを読みとり、内容を深めるようにする。

板書例

③みんなのカードを集めて、図鑑にさせる。
「みんなのカードをあつめて、図鑑にしましょう。」

①題材名とめあてを黒板に書く。
・本時のめあてを黒板に書き、学習の見通しをもたせる。

めあて
じどう車ずかんをつくりあげ、
みんなにしようかいしよう。
はっぴようかいのじゅんじよ
○トラック
○はしご車
○いどうはんばい車
○クレーン車
○せいそう車
はっぴようかいのちゅうい
こえのおおきさ しごとつくり
えやイラスト
みんなのカードをあつめて、ずかんにしよう

④次時の予告をする。
「次の時間は、『かたかなをかこう』
の学習をします。」

②カードを完成させ、発表する自動車の紹介をする。
・「じどう車しようかいカード」の見直しをさせる。
・発表の練習をさせる。
・作成したカードの発表会をさせる。
「自分が作った紹介したい自動車をみんなに紹介しましょう。」

せつめいする 文しやうを かこう②

いちねん

くみ

なまえ (

めあて

Blank rectangular box for writing the objective (めあて).

Large rectangular box divided into two horizontal sections for writing the main text.

)

せつめいする 文しょうを かこう

記入例

W
51

いちねん

くみ

なまえ（

）

めあて

じどう車ずかんを つくりあげ、

みんなにしょうかいしよう。

きゆうきゆう車のえ

きゆうきゆう車は、け

がをした人を、びょうんへはこ

ぶしごとをしています。

そのために、うんてん

せきのうしろは、ベツ

ドがいられるように

なっています。

52

題材名 「かたかなをかこう」（第1時／全1時間）

目標 のばす おんや、小さく かく かたかなに 気をつけて かきます。

領域名 B 書くこと 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

学習の流れ

| | 教師の働きかけ | 児童の活動 |
|-----------|---|--|
| 導入
10分 | ① 題材名「かたかな を かこう」を黒板に書く。 | |
| 展開
33分 | ② 本時の目標を黒板に書く。
「かたかなで のばすおとやちいさいじは どうかくのだろう」 | ・ 本時の目標を声に出して読む |
| | ③ かたかなで書かれる言葉にはどんなものがあるか挙げさせる。
「けーきってどのように書くのかな。けーきのようにカタカナでかく
といい言葉にはどんなものがあるかな。」
・ ワークシートに整理する。
・ 各自で発表し、ことばのリストを黒板に作る。 | ・ ワークシートに、かたかなと
思うことばを、ひらがなで書
きこむ。 |
| 終末
2分 | ④ 長音や、促音の書き方について知る。
「伸ばす音や、小さくかく字について書き方を知ろう。」
・ ソオスではなくソース、ケエキではなくケーキ
・ ロケットではなくロケット | ・ 約束をワークシートに書き込
む。 |
| | ⑤ 教科書に示されたカタカナについて、練習する。
「ワークシートに練習しましょう。」 | ・ ワークシートで練習する。 |
| | ⑥ ほかの言葉についても、練習する。
「知っている言葉をカタカナで書き表そう」
・ ジャケット ・ ジャンプ ・ ダンス ・ スキップ | ・ 次の見通しを持つ。 |
| | ⑦ 次時の予告をする。
・ 「次はともだちのことしらせようの学習をします。」 | |

指導のポイント

○書き間違いの多いカタカナ

「ツ」と「シ」、「ン」と「ソ」、「ヌ」と「ス」などについては、丁寧に指導する。

○長音（シャワー）、促音（サッカー）、拗音（ジャンプ）、濁音（ダンス）、半濁音（スキップ）などについても、時間に余裕があれば、触れておきたい。

板書例

- ① 題材名「かたかな を かこう」を黒板に書く
- ② 本時の目標を児童に知らせ、めあてを確認する。
「かたかなで のぼすおとやちいさいじは どうかくのだろう」

- ③ かたかなで書かれる言葉にはどんなものがあるか挙げさせる。
「けーきってどのように書くのかな。けーきのようにカタカナでかくといい言葉にはどんなものがあるかな。」

- ④ 長音や、促音の書き方について知る。

かたかな を かこう
かたかなで のぼすおとやちいさいじは
どうかくのだろう

○かたかなで かかれる ことば
・ ちやいむ ・ へるめつと
・ とらつく ・ ぼす
・ けえき ・ ようろつば

○のぼすときの やくそく
・ 「ー」でつなげる
しやわあ ↓ シャワー

○ちいさい おと を かく やくそく
・ ちいさい じ で かく
さつかー ↓ サツカー

◇きようかしよの じ を れんしゅう しよう
ソース、カヌー、シートベルト
ヘルメット、ロケット、キャンプ
ニュース、ショベルカー

○まちがえやすい じ に ちゅうい
「ツ」と「シ」、 「ン」と「ソ」
「ヌ」と「ス」

- ⑤ 教科書に示されたカタカナについて、練習する。
- ⑥ 他の言葉についても、練習する。

- ⑦ 次時の予告をする。
「次はともだちのことしらせようの学習をします。」

かたかなをかこう

一ねん()くみ ねん()

めあて

Blank rectangular box for writing the objective.

○かたかなでかかれることばをあげよう

Blank rectangular box for writing words written in katakana.

○あいうかしのことばをれんじゅうしよう

| | | | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

○ほかのことばもれんじゅうしよう

Blank rectangular box for writing other words in renjū.

○まがえやすいもじをしらべよう

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| ッ | シ | ン | ン | 又 | 又 |
| | | | | | |

かたかなをかこう(記入例)

「ねん()くみ なま()」

めあて

かたかなで のぼすねんくみ なま()

○かたかなでかかれることばをあげよう

ちやいば、くるめく、とらいく、ばす、けえき、よつろば

○きまつかじりのことばをれんじゅうしよう

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ソ | ー | ヌ | | カ | ヌ | ー | | | |
| シ | ー | ト | べ | ル | ト | | | | |
| へ | ル | メ | ッ | ト | | ロ | ケ | ッ | ト |
| キ | ヤ | ン | プ | | ニ | ユ | ー | ヌ | |
| シ | ヨ | べ | ル | カ | ー | | | | |

○ほかのことばをれんじゅうしよう

シヤケット・シヤンク・タシヌ・ヌシヤ

○まちがえやすうもじをしよう

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| ッ | シ | ン | ソ | ヌ | ヌ |
| ッ | シ | ン | ソ | ヌ | ヌ |

5 3

題材名 「ともだちの こと、しらせよう」（第1時／全2時間）

目標 ○自分が聞きたいことを集中して聞き、話の内容に感想をもつことができる。
 ・進んで友達に質問しようとするができる。（主体的に学習に取り組む態度）

領域等 A 話すこと 聞くこと

学習の流れ

| | 教師の働きかけ | 児童の活動 |
|-----------|--|--|
| 導入
5分 | ①題材名とめあてを黒板に書く。
・本時のめあてを黒板に書き、学習の見通しをもたせる。
・友達のことをもっと理解するために、いろいろなことを聞いてわかったことをクラスみんなに知らせる学習であるということを理解させる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">ともだちの ことを して、みんなにしらせよう</div> | ・本時の目標を知る。
本時のめあてを明確にするために子どもたちにもめあてを読ませる。 |
| 展開
30分 | ②P38～39を読み（CDがある場合は、聞かせる）友達への質問の内容や尋ね方を考えさせる。
「どのようなことを聞いているのか考えながら聞きましょう。」
・質問の仕方やそれに対する答え方を確認させる。
「友達のことを知るために、どんなことを言っていますか。」
「その時、なんと返事をしていますか。」
・友達の話を書くときの観点を知らせ、もう一度（CD）を聞かせる。
「次のことを考えながら 聞きましょう。」
・おもしろいところ ・おどろいたこと
・もっと しりたいこと | ・
・範読（CD）を聞く。
・質問の仕方を学ぶ。
・返事の仕方を学ぶ。 |
| 終末
10分 | ③友達に質問をさせる。
・教えてくれたことに対する感想や、友達に知らせるために、もっと聞きたいことを相手に聞くという話し合いをさせる。
「友達の話を書いて、思ったことやもっと聞きたいことを質問してみましょう。」
「友達に聞いたことをノートにメモしておこう。」
・話し手と聞き手を交代して同じことをさせる。
④友達から聞いたことを文章に書くことを知らせる。
・P40（りかさとなわとび）を読み、これからの学習内容の見通しを持たせる。
「今 友達に聞いてわかったことや感想を文章に書きます。これからP40を読みますので、参考にしてください。」 | ・友達の話を書き、質問をしたり感想を言ったりする。
・メモをする。
・今後の学習の見通しをもつ。
・P40を聞く。 |
| | ⑤次時の予告をする。
「次の時間は、『友達から聞いたことを文章に書いて、知らせる。』学習をします。」 | ・次時の見通しをもつ。 |

指導のポイント

- ペア学習をさせるにあたって、机の隣同士、これまでの友人関係や日本語力などを考慮する。
- 質問をするときの視点を明確にしておく。「おもしろいところ、おどろいたところ、もっとしりたいところ」など聞きたいことをわかりやすく書いたカードを持たせるのも一つの方法。
- 話す時、聞く時、質問をする時の注意点を知らせる。（声の大きさ、姿勢、表情）
- メモは視点に沿った内容にさせる。

板書例

③友達に質問をさせる。

- ・教えてくれたことに対する感想や、友達に知らせるために、もっと聞きたいことを相手に聞くという話し合いをさせる。「友達の話を聞いて、思ったことやもっと聞きたいことを質問してみましょう。」「友達に聞いたことをノートにメモしておこう。」
- ・話し手と聞き手を交代して同じことをさせる。

①題材名とめあてを黒板に書く。

- ・本時のめあてを黒板に書き、学習の見通しをもたせる。
- ・友達のことをもっと理解するために、いろいろなことを聞いてわかったことをクラスみんなに知らせる学習であるということを理解させる。

めあて

ともだちの ことを しって
みんなにしらせよう

○どのようなことをきいたのか。

・おもしろいところ

・おどろいたこと

・もっとしりたいこと

○ともだちに きいてみよう

○はなしのしかた ききかた
こえのおおきさ

④友達から聞いたことを文章に書くことを知らせる。

- ・P40(りかさんとなわとび)を読み、これからの学習内容の見通しを持たせる。「今 友達に聞いてわかったことや感想を文章に書きます。これから P40 を読みますので、参考にしてください。」

⑤次時の予告をする。

「次の時間は、『友達から聞いたことを文章に書いて、知らせる。』学習をします。」

②P38～39 を読み (CD を聞かせ) 友達への質問の内容や尋ね方を考えさせる。

- 「どのようなことを聞いているのか考えながら聞きましょう。」
- ・質問の仕方やそれに対する答え方を確認させる。「友達のことを知るために、どんなことを言っていますか。」
 - 「その時、なんと返事をしていますか。」
 - ・友達の話を書くときの観点を知らせ、もう一度 CD を聞かせる。「次のことを考えながら聞きましょう。」
 - ・おもしろいところ ・おどろいたこと
 - ・もっと しりたいこと

きいて しらせよう①

w
53

いちねん

くみ

なまえ

(

)

めあて

ともだちの ことを、しらせよう。

○どのようなことをきいたのか。

(

)

(

)

(

)

○はなしの しかた

(

)

(

)

きいて しらせよう①

記入見本

W
53

いちねん

くみ

なまえ（

）

めあて

ともだちの ことを、しらせよう。

○どのようなことをきいたのか。

・ おもしろいところ

・ おどろいたこと

・ もっと、しりたいところ

○はなしの しかた

ききかた

こえの大きさ

ともだちのことをしろう

めも

なまえ

(

| | | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| | | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|--|--|

54

題材名 「ともだちの こと、しらせよう」（第2時／全2時間）

目標 ○友達のことを相手にわかるように文に書いたり、話を聞いて感想を持ったりすることができる。
 ・友達について、文に書こうとすることができる。（主体的に学習に取り組む態度）

領域等 A 話すこと 聞くこと B 書くこと

学習の流れ

| | 教師の働きかけ | 児童の活動 |
|-----------|--|---|
| 導入
5分 | ①題材名とめあてを黒板に書く。
・本時のめあてを黒板に書き、学習の見通しをもたせる。
・友達のことをもっと理解するために、文に書いてみんなに知らせることや話を聞いて感想をもつことが今日の学習であるということを知らせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">ともだちの ことを して、みんなにしらせよう</div> | ・本時の目標を知る。
本時のめあてを明確にするために子どもたちにもめあてを読ませる。 |
| 展開
30分 | ②友達のことを書くにあたって気を付けることを確認し、友達のことを文に書かせる。
・P40を参考に、文の書き方例を確認する。
「・・・さんが、今、一番楽しいことは、・・・です。
・・・さんは、・・・。ぼくも、・・・です。」
・教材文を参考に、友達の「たのしいこと」が伝わるように言葉を選んで文にさせる。
「メモを見ながら、友達のことを文に書きましょう。」 | ・書き方を確認する。
・友達のことを文に書く。 |
| 終末
10分 | ③書いた文を読みあい、感想を交流させる。
・ペアで活動させる。
「書いた文章を読みあいましょう。」
「友達の文章を読んで思ったことやわかったことを伝えましょう。」
・友達の文を読んで感じたことをクラス全員の前で発表させる。
「クラスみんなに、感想を伝えましょう。」 | ・書いた文章を読みあう。
・感想を伝える。
・感想を伝える。 |
| | ④次時の予告をする。
「次の時間は、『むかしばなしを よもう』を学習します。 | ・次時の見通しをもつ。 |

指導のポイント

- 前時に書いた、「おもしろいところ、おどろいたところ、もっとしりたいところ」などを書いたメモの活用を図るようにする。
- P40の文章を参考にすることが、児童の実態（ひらがなが書ける。一定の時間内にかかる。）を考慮し、家庭学習との連携を図るようにする。
- ペア学習が固定化しないように工夫する。
- 子どもたちが書いている時、伝え合っている時、教師が巡回して助言したり称賛したりする。
- 友だちから聞いたことを自分の言葉で伝えることは、補習校の一部の児童にとってかなり高度な内容になる。児童の実態に応じて自分のことを伝えるというかたちにしてもよい。その際、聞いたことを、○ ○さんは△△が好きです。（□□で、すごいなあと、思いました）。などと、ノートに簡潔に書くなどもよいこととしたい。

板書例

③書いた文を読みあい、感想を交流させる。

・ペアで活動させる。

「書いた文章を読みあいましょう。」

「友達の文章を読んで思ったことやわかったことを伝えましよう。」

・友達の文を読んで感じたことをクラス全員の前で発表させる。

「クラスみんなに、感想を伝えましよう。」

①題材名とめあてを黒板に書く。

・本時のめあてを黒板に書き、学習の見通しをもたせる。

・友達のことをもっと理解するために、文に書いてみんなに知らせることや話を聞いて感想をもつことが今日の学習であるということを理解させる。

めあて
ともだちの ことを しって
みんなにしらせよう

○ともだちの たのしいこと

・ なわとび
・ てつぼう

○ちゅういすること

・ おもしろいところ
・ おどろいたこと
・ もっとしりたいこと

○かいた文をよみあいましよう。

○はなしのしかた ききかた
こえのおおきさ

⑤次時の予告をする。

「次の時間は、『むかしばなしを よもう。』の学習をします。」

②友達のことを書くにあたって気を付けることを確認し、友達のことを文に書かせる。

・P40を参考に、文の書き方例を確認する。

「・・・さんが、今、一番楽しいことは、・・・です。」

「・・・さんは、・・・。ぼくも、・・・。」

・教材文を参考に、友達の「たのしいこと」が伝わるように言葉を選んで文にさせる。

「メモをとり、それを見ながら、友達のことを文に書きましよう。」

きいて しらせよう ②

w
54

いちねん

くみ

なまえ

(

めあて

ともだちの ことを、しって みんなにしらせよう。

○どのようなことをきいたのか。

・おもしろいところ

・おどろいたこと

・もっと、しりたいところ

○はなしの しかた

ききかた

こえの大きさ

○ともだちにきいたことを、きょうかしょ40ページの文ししょうをさんこうに
してかきましよう

ともだちにきいたこと

なまえ

ともだちのなまえ

| | | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| | | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|--|--|

きいて しらせよう ②

記入見本

W 54

いちねん

くみ

なまえ

めあて

ともだちの ことを、しって みんなにしらせよう。

○どのようなことをきいたのか。

・おもしろいところ

まいあさ ランニングをしているところ

・おどろいたこと

ごはんを だれよりも たくさん たべるところ

・もっと、しりたいところ

どうしたら そんなに はやく はしれるのか

○はなしの しかた

ききかた なかまに体を向けてきく

こえの大きさ

いちばんとおい人にきこえる こえの 大きさ

○ともだちにきいたことを、 きょうかしよ40ページの文しよをさんこうに
してかきましよう

ともだちにきいたこと

なまえ

ともだちのなまえ

あずま きょうたろう さん

あずまさんは、まいあきランニングをしているそうです。ぼくはまい日とても

ねむいのに、ねむくないのかなとおもいました。

おどろいたのは、いえではだれよりもたくさんごはんを食べるからです。

いつもきょうたろうさんがげんきなのは、よくたべるからだとおもいました。

そして、きょうたろうさんのあしがやいひみつも、よくたべるからだ

思いました。

板書例

③「おかゆの おなべ」を読む。

・「おかゆの おなべ」を聞いた後、読書カードに書くことを知らせる。

「これから『おかゆのおなべ』を読みます。お話に出てくる人や動物面白かった所をカードに書けるように、考えながらお話を聞きましょう。」

・P44～P47 2行目

まずしい やさしい 女の子 お母さん
森に食べ物探し おばあさん おなべ

・P47の3行目～P49の1行目

うちにかえる おなべ いる おかゆ

・P49の2行目～P54

町一面 おかゆ

①題材名とめあてを黒板に書く。

・本時のめあてを黒板に書き、学習の見通しをもたせる。

「知っている昔話や読みたい昔話がありますか。」

| | | | | | |
|--------------|-------------|---|----------------|--|---|
| 森
もり | かん
字 | ○どくしょカード
おかゆのおなべ
女の子とおかあさん
と、おばあさんが出てきます。
町の中がおかゆだらけになる
ところがおもしろいです。
(感想) | (題名)
(登場人物) | ○おはなしのなかで
ちゅういすること
・おもしろいところ
・おどろいたこと
・もっとしりたいこと | めあて
むかしばなしを よんで、
ともだちにしらせよう。
ジャックとまめの木
しらくきひめ
「おかゆの おなべ」 |
| 本
ほん | | | | | |
| 出
で
る | | | | | |
| 中
なか | | | | | |
| 町
まち | | | | | |
| 入
はい
る | なかはら
ともや | | | | |

④話を聞いておもしろかった所をカードに書かせる。

「話を聞いてどんなところが面白かったですか。」

「カードに書きましょう。」

②読書カードの書き方と使い方を知らせる。

・P55のカードの使い方を知らせる。

・本の題名、お話に出てくる人、動物、面白かった所、自分の名前

⑤次時の予告をする。

「次の時間は、『おかゆのおなべ』を聞いておもしろかった所を発表します。みなさんも、家や図書室で読みたい本を探して読んでみましょう。」

本はともだち

W
55

いちねん

くみ

なまえ

（

めあて

○どくしよカード

あたらしいかん字のれんしゆうをしよう。

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 森 | 本 | 出 | 中 | 町 | 入 |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |

本はともだち

記入見本

W
55

いちねん

くみ

なまえ（

めあて

むかしばなしを よんで、

ともだちにしらせよう。

○どくしよカード

「おかゆの おなべ」

本のだいめい じぶんのなまえ

おはなしに 出てくる人やどうぶつ

おもしろかったところ

あたらしいかん字のれんしゅうをしよう。

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 森 | 本 | 出 | 中 | 町 | 入 |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |

おはなしカード例

ほんのたいめい

おはなしにでてくる人 やどろぶつ

すきなところや おもしろかったところ

なまえ

56

題材名 「むかしばなしをよもう おかゆのおなべ」②（第2時／全2時間）

目標 ○読書に親しみ、本の楽しさを知ることができる。

・本を読み、カードに書いて友達に知らせようとするすることができる。

（主体的に学習に取り組む態度）

領域等 C 読むこと B 書くこと

学習の流れ

| | 教師の働きかけ | 児童の活動 |
|-----------|---|---|
| 導入
5分 | ①題材名とめあてを黒板に書く。
・本時のめあてを黒板に書き、学習の見通しをもたせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> むかしばなしを よんで、ともだちに知らせよう。
 「おかゆの おなべ」
 「じぶんがえらんだ本」 </div> | ・本時の目標を知る。
本時のめあてを明確にするために子どもたちにもめあてを読ませる。 |
| 展開
30分 | ②友達の読書カードを読んで感想を伝え合わせる。
「友達のカードを交換し合って読みあいましょう。」 | ・友達の読書カードを読む。 |
| | ③図書室で読みたい本を探し、本を読むようにさせる。
・図書室で読みたい本を探させる。
「読みたい、本を選びましょう。」
・読書カードに本の題名を書かせる。 | ・読みたい本を探す。
・読書カードに本の題名を書く。 |
| 終末
10分 | ④子どもたちが選んだ本を読むようにさせる。
「自分で選んだ本を読みましょう。」
・話を聞いておもしろかった所をカードに書かせる。
「お話を読んで面白かった所をカードに書きましょう。」 | ・本を読む。
・カードに書く。 |
| | ④次時の予告をする。
「次の時間は、『ものの名前』を学習します。 | ・次時の見通しをもつ。 |

指導のポイント

○事前に読みたい本を選んでおくようにする。

○お話カードに書く内容を全員で再確認させる。（本の題名、話に出てくる人、面白かった所、自分の名前）

○クラスみんなのカードを貼ったお話の木を作り読んだ本が視覚的わかるようにすると読書意欲が起こる。（自分で読んだ本の読書カードもお話の木に貼っていくとおもしろい。）

○感想については、書けない子どもも出てくるので、まず、題名を優先して書かせるようにする。ここでは、お話を読みたいという意欲を大切に扱う。

板書例

③図書室で読みたい本を探し、本を読むようにさせる。

- ・図書室で読みたい本を探させる。
「読みたい本を選びましょう。」

④子どもたちが選んだ本を読むようにさせる。

- 「自分で選んだ本を読みましょう。」
- ・話を聞いておもしろかった所をカードに書かせる。
「お話を読んで面白かった所をカードに書きましょう。」

①題材名とめあてを黒板に書く。

- ・本時のめあてを黒板に書き、学習の見通しをもたせる。

めあて
むかしばなしを よんで、
ともだちに知らせよう。

「おかゆの おなべ」

○ともだちのカードをよんでみよう
ちゅういすること

- ・だいめい
- ・おもしろかったところ
- ・なまえ

「じぶんがえらんだ本」

- ・ジャックとまめの木
- ・きたかぜとたいよう

○じぶんがえらんだ本をよもう
かん字

| | | |
|--------------|-------------|---------|
| 町
まち | 出
で
る | 本
ほん |
| 入
はい
る | 中
なか | 森
もり |

④次時の予告をする。

「次の時間は、『ものの名前』を学習します。」

②友達の読書カードを読んで感想を伝え合う。

「友達のカードを交換し合って読みあいましょう。」

おはなしカード例

ほんのたいめい

おはなしにでてくる人 やどうぶつ

すきなところや おもしろかったところ

なまえ

57

題材名 「ものの名まえ」（第1時／全2時間）

目標 文章を読んで、ものの名まえについて理解すること。
 (二) お店やそこで売っている品物の名前に興味を持つこと。

領域名 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

学習の流れ

| | 教師の働きかけ | 児童の活動 |
|-----------|--|--|
| 導入
10分 | ① 題材名「もののなまえ」を黒板に書く。
② 本時のめあてを知る。
「ものの名まえについて かんがえてみよう。」
・ワークシートに記入させる | ・本時のめあてをワークシートに記入する。 |
| 展開
33分 | ③ 教科書を音読させる。
④ 教科書のお店はどんなお店のどのようなかを考える。
「最初のお店は、何のお店かな。」「そういうお店を何というかな」
「次のお店は、何のお店かな。」「そういうお店を、何とよんでいるだろう。」 | ・大きな声で、一斉読みをする |
| 終末
2分 | ⑤ 下位語と上位語の関係について整理する。
「ものの名まえと、それらをまとめた名まえ について まとめてみよう。」
・ワークシートに整理させる。
⑥ 次時の予告をする。
「次の時間は『お店ごっこ』をしようです。」 | ・ワークシートを使って、下位語をまとめた上位語について整理する。

・次時の内容を知る。 |

指導のポイント

- ・家に帰って、家族に上位語、下位語を使った会話を試みさせるように指導する。
 (お母さんに、下位語の単語を使って、上位語を言わせるように仕向けると得意がってやる子も出てくる。)
- ・身の回りの上位語・下位語について考えようとしている。

| | | |
|----------|------|-----|
| 下位語 | ⇔⇔⇔⇔ | 上位語 |
| りんご、みかん | 果物 | 食べ物 |
| にんじん、トマト | 野菜 | 食べ物 |
| さば、まぐろ、 | 魚 | 食べ物 |

板書例

- ① 題材名「ものの名まえ」を黒板に書く
- ② 本時の目標を児童に知らせ、めあてを確認する。
「ものの名まえについて かんがえてみよう。」

③ 教科書を音読させる

④ 教科書のお店はどんなお店のことなのかを考える。

⑤ 下位語と上位語の関係について整理する。

| | | | | | |
|--------------|-------------------------|---------------------------|---------------------------|------------------------------|--|
| のりもの | おかし | スポーツ | さかな | くだもの | ○まとまった名まえはなんだろう。
ものの名まえについて かんがえてみよう。 |
| ・でんしゃ
・ふね | ・せんべい
・チョコレート
・あめ | ・バレーボール
・やきゅう
・サッカー | ・あじ
・たい
・さば
・さんま | ・みかん
・メロン
・バナナ
・レモン | |

ものの名まえ

- ⑥ 次時の予告をする。
「次の時間は『お店ごっこ』をしようです。」

もの名まえ①(記入例)

一ねん くみ 名まえ()

その中からさがしてみよう

| | | | |
|----------------|---------------|---|--|
| <p>58 頁の挿絵</p> | <p>何があるかな</p> | <p>バナナ
りんご
パイナップル
スイカ
みかん
サクランボ</p> | |
| <p>59 頁の挿絵</p> | <p>何があるかな</p> | <p>イカ
たい
かに
ヒラメ
さんま
あじ</p> | |

58

題材名 「ものの名まえ」②（第2時／全2時間）

目標 お店やそこで売っている品物の名前に興味を持つこと。

領域名 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

学習の流れ

| | 教師の働きかけ | 児童の活動 |
|-----------|--|---|
| 導入
10分 | ① 題材名「ものの名まえ」を黒板に書く。
② 本時のめあてを知る。
「ものの名まえを つかって おかいものを しよう」
・ワークシートに記入させる | ・本時のめあてをワークシートに記入する。 |
| 展開
33分 | ③ ものの名まえとまとまりの名まえについて確認する。
「ものの名まえとまとまりの名まえについて、どんなまとまりだったかをふりかえりましょう。」
・ものが示された絵カードがあると整理しやすい。
・おみせやさんごっこのために、まとまりの名まえのカードもあるとよい。 | ・果物や魚を中心に、ものの名まえとまとまりを確認していく。
※お菓子やスポーツなどに広げてもよい。 |
| 終末
2分 | ④ おみせやさんごっこに取り組ませる。
「おみせやさんの てんいんさんと おかいものをする人に わかれて、おみせやさんごっこをしましょう。」
・ものの名まえをしっかりとって買い物をするように指示を出す。

⑤ 活動の振り返りをさせる。
「ものの名まえと、それらをまとめた名まえ について お互いにしっかりとすることができましたか。」

⑥ 次時の予告をする。
「次の時間は『わらしべちょうじゃ』の学習をします。」 | ・役に分かれ、ものの名前を伝え、確認する活動に取り組む

・どちらの役も、ものの名前とまとまりの名前を確認しながら進められたかを振り返る。

・次時の内容を知る。 |

指導のポイント

- ・家に帰って、家族に上位語、下位語を使った会話を試みさせるように指導する。
 （お母さんに、下位語の単語を使って、上位語を言わせるように仕向けると得意がってやる子も出てくる。）
- ・身の回りの上位語・下位語について考えようとしている。

板書例

- ① 題材名「ものの名まえ」を黒板に書く
- ② 本時の目標を児童に知らせ、めあてを確認する。
「ものの名まえについて かんがえてみよう。」

- ③ ものの名まえとまとまりの名まえについて確認する。
「ものの名まえとまとまりの名まえについて、どんなまとまりだったかをふりかえりましょう。」

ものの名まえ

ものの名まえを つかって おかいものを しよう

○まとまった名まえはなんだろう。

| | | |
|------|------------------|----------------|
| くだもの | ・みかん
・メロン | ・レモン
・バナナ |
| さかな | ・あじ
・たい | ・さば
・さんま |
| スポーツ | ・バレーボール
・やきゅう | ・ラグビー
・サッカー |
| おかし | ・せんべい
・チョコレート | ・キャラメル
・あめ |
| のりもの | ・ふね
・でんしゃ | ・ひこうき
・バイク |

※絵カード等を使って、復習がてら、再度整理し、そのままおかいものごっこにカードを利用する。

- ④ おみせやさんごっこに取り組ませる。

- ⑤ 活動の振り返りをさせる。

- ⑥ 次時の予告をする。
「次の時間は『わらしべちょうじゃ』の学習をします。」

もの名まえ①

一ねん くみ名まえ)

)

えの中からさがしてみよう

| | |
|----------------|----------------|
| 59
頁の挿絵 | 58
頁の挿絵 |
| 何があるかな | 何があるかな |
| .
. | .
. |
| | |

もの名まえ①(記入例)

一ねん くみ 名まえ(

)

えの 中から さがして みよう

| | |
|--|---|
| 59
頁の挿絵 | 58
頁の挿絵 |
| 何があるかな | 何があるかな |
| ・あじ
・さんま
・ヒラメ
・かに
・たい
・イカ | ・バナナ
・りんご
・パイナップル
・スイカ
・みかん
・サクランボ |
| | |

59

題材名 「わらしべちょうじゃ」（第1時／全1時間）

目標 ○昔話の読み聞かせを聞いて、日本の伝統的な言語文化に親しむことができる。

・昔話を楽しみ、内容や感想を友だちと交流しようとするすることができる。

（主体的に学習に取り組む態度）

領域等 日本の伝統文化

学習の流れ

| | 教師の働きかけ | 児童の活動 |
|-----------|---|--|
| 導入
5分 | <p>①題材名とめあてを黒板に書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の昔話について知っている話を発表させる。 「知っている日本の昔話がありますか、」 本時のめあてを黒板に書き、学習の見通しをもたせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> わらしべちょうじゃのはなしを たのしもう </div> | <ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を知る。 本時のめあてを明確にするために子どもたちにもめあてを読ませる。 |
| 展開
30分 | <p>②教科書の挿絵を見せながら「わらしべちょうじゃ」を読み聞かせをする。</p> <p>「教科書P62～P63の挿絵を見て、どんな話か想像してみよう。」
「これから、『わらしべちょうじゃ』を読みます。挿絵を見ながら聞いて下さい。」</p> | <ul style="list-style-type: none"> 教師の話聞く。 |
| 終末
10分 | <p>③おもしろかったところや、気に入ったところについて、友だちと感想を交流させる。</p> <p>「話を聞いて、おもしろかったところや心に残ったところを友だちに伝えよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> 近くの友だちに感想を伝えさせる。 全員の前で感想を伝えさせる。 <p>④本の楽しみ方を知らせる。</p> <p>「お話しを聞きました。それ以外にどんな楽しみ方がありますか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分で読んでみたい。 だれかに読んであげたい。 もう一度、別の方に読んでもらいたい。 <p>「読む人、聞く人の役割を決めて、『わらしべちょうじゃ』を読み合いましょう。」</p> <p>⑤次時の予告をする。</p> <p>「次の時間は、『日づけとよう日』を学習します。」</p> | <ul style="list-style-type: none"> 感想を発表する。 本を読む。 次時の見通しをもつ。 |

指導のポイント

- 物語を楽しむために、教科書の拡大した挿絵を活用する。教科書126を指で確認し、面白い部分に線を引きながら聞くなど工夫をする。
- 日本だけでなく海外の昔話についても知っている話を発表させ、物語を読んでみたいという意欲を高めるようにする。
- 補習校の図書館にある昔話の本を紹介することにより本を読み前に学習した読書カードの活用を図る。
- 子どもたちが自ら主体的に読み進めていけるようにするためには、挿絵を順に追っていくことにより、物語の筋の展開を考えたり挿絵に描かれた人物の様子や表情から、その場面の人物の心情を想像したりした上で、それを叙述によって確かめていくとよい。

板書例

①題材名とめあてを黒板に書く。

・日本の昔話について知っている話を発表させる。

「知っている日本の昔話がありますか、」

・本時のめあてを黒板に書き、学習の見通しをもたせる。

めあて
わらしべちようじゃの

はなしをたのしもう

○知っているむかしばなし

ももたろう

かさこじぞう

こぶとりじいさん

きんたろう

あかずきん

ブレーメンのおんがくたい

○さしえをみて おはなしをきこう

○おもしろかったところ

ころろのこったところ

③おもしろかったところや、気に入ったところについて、友だちと感想を交流させる。

「話を聞いて、おもしろかったところや心に残ったところを友だちに伝えよう。」

- ・近くの友だちに感想を伝えさせる。
- ・全員の前で感想を伝えさせる。

④本の楽しみ方を知らせる。

「お話しを聞きました。それ以外にどんな楽しみ方がありますか。」

- ・自分で読んでみたい。
- ・だれかに読んであげたい。
- ・もう一度、別の方に読んでもらいたい。

「読む人、聞く人の役割を決めて、『わらしべちようじゃ』を読み合いましょう。」

②教科書の挿絵を見せながら「わらしべちようじゃ」を読み聞かせをする。

「教科書 P62～P63 の挿絵を見て、どんな話か想像してみよう。」

「これから、『わらしべちようじゃ』を読みます。挿絵を見ながら聞いて下さい。」

④次時の予告をする。

「次の時間は、『日づけとよう日』を学習します。」

きいて たのしもう

w
59

いちねん

くみ

なまえ

めあて

○しっている むかしばなし

○どんな おはなしか、

（ ） にでてくるひとはだれか

（ ） ところはどこか

かんがえながら、おはなしをききましょう。

（

きいて たのしもう

記入見本 w 59

いちねん

くみ

なまえ（

）

めあて

わらしべちょうじゃの はなしを たのしもう

○しっている むかしばなし

ももたろう

かさこじぞう

こぶとりじいさん

いっすんぼうし

○どんな おはなしか、

おはなしにでてくるひとはだれか

おもしろかったところはどこか

かんがえながら、おはなしをききましょう。

60

題材名 「日づけとよう日」（第1時／全1時間）

目標 日付と曜日の言い方を理解し、漢字で読んだり書いたりすることができる。

領域名 B 書くこと 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

学習の流れ

| | 教師の働きかけ | 児童の活動 |
|-----------|---|--|
| 導入
10分 | ① 題材名「日づけと よう日」を黒板に書く。
② 本時の目標を黒板に書く。
③ 「日づけと よう日について かんがえよう。」
④ 日づけの呼び方・書き方を教え、日づけ歌を唱えさせる。
・ 教師が日づけ歌を板書し、唱える。
・ 日づけ歌を読ませる。
「リズムにのって、読んでみましょう。」
・ 漢数字と違う読み方の日づけを取り出して、ノートに書かせる。
「一日（ついたち）・二日（ふつか）・三日（みっか） 六日（むいか）・十日（とおか）・二十日（はつか）」 | ・ 本時の目標を読む。
・ 日づけの呼び方や書き方を知る。
・ 日づけ歌を唱える。 |
| 展開
33分 | ⑤ 日づけ歌を視写させる。
・ 月日や句読点などに注意して視写させる。
・ 書き誤りはないか、自分で見直しさせる。
「、や。の付け忘れがないか確かめましょう。」 | ・ 日づけ歌を視写する。
・ 書いた文を見直す。 |
| 終末
2分 | ⑥ 曜日の呼び方・書き方を教え、曜日歌を作る。
・ 曜日歌を音読させる。
「リズムにのって、読んでみましょう。」
・ 漢字と曜日の読み方を比べて気がついたことを発表する。
・ 曜日歌を正しく視写させる。
⑦ 新出漢字と片仮名の読み書きの練習をさせる。（発展） | ・ 曜日歌を唱える。
・ 気づいたことを発表する。
・ 曜日歌を視写する。
・ ノートに漢字やカタカナを書く。 |

指導のポイント

○ 唱え方の工夫

・ 調子よく、リズムカルに唱えることができるよう、何度も繰り返し音読する。

① 教師と児童の掛け合いをして。

② 児童同士で分担して。


③ 声の大きさや表情を変えて。

④ 手拍子を打ちながら。

など。


一ねん くみ なまえ()

○ よう日うたを ていねいに かきうつしませう。




| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| お | 日 | さ | ま | |
| 日 | よ | う | 日 | 。 |

| | | | |
|---|---|---|--|
| 大 | す | き | |
|---|---|---|--|




| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 月 | が | | 出 | た |
| 月 | よ | う | 日 | 。 |

| | | |
|---|---|--|
| 出 | た | |
|---|---|--|




| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 火 | の | | よ | う | じ | ん | だ | 。 |
| 火 | よ | う | 日 | は | 。 | | | |




| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ホ | ー | ス | で | |
| 水 | よ | う | 日 | 。 |

| | | | |
|---|---|---|--|
| 水 | ま | き | |
|---|---|---|--|




| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| く | り | の | | 木 |
| 木 | よ | う | 日 | 。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 見 | つ | け | た | 。 |
|---|---|---|---|---|



| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|--|
| お | 金 | を | | も | ら | っ | た | |
| 金 | よ | う | 日 | 。 | | | | |



| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 土 | あ | そ | び | | |
| 土 | よ | う | 日 | だ | 。 |

| | | |
|---|---|--|
| す | る | |
|---|---|--|

6 1

題材名 「てがみで しらせよう」①（第1時／全2時間）

目 標 ○丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて手紙を書くことができる。
 ・学習を生かして身近な人に手紙を書こうとすることができる。（主体的に学習に取り組む態度）

領域等 B 書くこと

学習の流れ

| | 教師の働きかけ | 児童の活動 |
|-----------|--|--|
| 導入
5分 | ①題材名とめあてを黒板に書く。
・手紙を書いたりもらったりした経験を発表させる。
「今まで、手紙を書いたりもらったりしたことがありますか。」
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> ・・・・にてがみをかいて しらせよう </div> | ・本時の目標を知る。
本時のめあてを明確にするために、子どもたちにもめあてを読ませる。
・手紙を書いたりもらったりした経験を発表する。
・P.66を読む。 |
| 展開
30分 | ②誰に、どんなことを知らせたいかを考えさせる。
・教材文を読み、「うれしかったことや楽しかったことを、手紙に書いて知らせよう」という学習意欲を高めさせる。
・相手と書く題材を考えさせる。

「日本にいるおじいちゃんやおばあちゃん、そして友達に、知らせたいことを手紙に書きましょう。」
「どんなことを知らせたいですか。」 | ・書く相手を決める。
・知らせたいことを考える。 |
| 終末
10分 | ③手紙の書き方を知らせる。
「教科書P.67を参考にして、手紙にはどんなことを書いたらよいでしょうか。」
「相手の名前と自分の名前を書きましょう。」
・相手の名前 ・相手のことを考えたひと言
・自分が伝えたいこと ・自分の名前

④手紙を書かせる。
「伝えたいことをわかりやすく、ていねいな文字で書くようにしましょう。」

⑤次時の予告をする。
「次の時間は、書いた手紙を完成させます。」 | ・手紙に書く内容を決める。

・手紙を書く。

・次時の見通しをもつ。 |

指導のポイント

- 海外で生活をする子どもたちにとって、手紙を日本語で書いてやりとりするという経験は、日本語学習を進展させていく意味からも極めて意義深いことである。本教材は、学習の生活化といった視点からも大切に扱いたい。実際は、インターネットを使用して、直接会話をしたりパソコンで文字を打ち込んだりすることが多いが手書きの手紙をもらったり書いたりすることの意味についても考えさせたい。
- 手紙を受け取る人の気持ちを思い浮かべさせながら手紙を書きたいという意欲を高めさせるようにしたい。（親戚や友達からの手紙や年賀状が実際に準備できるとなるとよい、）
- 楽しかったこと、見つけたこと、知らせたことなど手紙に書きたい内容を自由に考えさせ手紙を書く目的をしっかりとらせる。
- ここでの活動は、切手を貼って送るということを前提とした手紙としているが、学級の実態や補習校の状況によっては、PC機器を活用してEメールを使用することも考えられる。
- 手紙の発送については、各家庭にお願いして任せてもよい。

板書例

①題材名とめあてを黒板に書く。
・手紙を書いたりもらったりした経験を発表させる。
「今まで、手紙を書いたりもらったりしたことがありますか。」

③手紙の書き方を知らせる。
「教科書 P.67 を参考にして、手紙にはどんなことを書いたらよいでしょうか。」
「相手の名前と自分の名前を書きましょう。」
・相手の名前 ・相手のことを考えたひと言
・自分が伝えたいこと ・自分の名前

てがみをかこう
めあて
・ ・ ・
・ ・ ・ にてがみをかいて しらせよう

○かくあいて
・ おじいちゃん
・ おばあちゃん
・ ともだち

・ あいてのなまえ
・ あいてのことをかんがえたひと言
・ つたえたいこと
・ じぶんのなまえ

○てがみをかこう

④手紙を書かせる。
「伝えたいことをわかりやすく、ていねいな文字で書くようにしましょう。」

⑤次時の予告をする。
「次の時間は、書いた手紙を完成させます。」

②誰に、どんなことを知らせたいかを考えさせる。
・教材文を読み、「うれしかったことや楽しかったことを、手紙に書いて知らせよう」ということを知らせ、学習意欲を高めさせる。
・相手と書く題材を考えさせる。
「日本にいるおじいちゃんやおばあちゃん、そして友達に、知らせたいことを手紙に書きましょう。」
「どんなことを知らせたいですか。」

てがみを かこう

w
61

いちねん

くみ

なまえ（

）

めあて

○てがみを かく あいて

・
・
・
・

○てがみに かく こと

- ・ あいてのことをかんがえて
- ・ つたえたいこと
- ・ じぶんのなまえ

てがみを かこう

記入見本 w 61

いちねん

くみ

なまえ（

）

めあて

（おばあちゃん）にてがみをかいて しらせよう

○てがみを かく あいて

・おじいちゃん

・おばあちゃん

・ともだち

・たいけんにゆうがくしたがっこう

○てがみに かく こと

・あいてのことをかんがえて

・つたえたいこと

・じぶんのなまえ

6 2

題材名 「てがみで しらせよう」②（第2時／全2時間）

- 目 標 ○手紙を読み返し、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりして手紙を完成させることができる。
- ・学習を生かして身近な方に手紙を書こうとすることができる。（主体的に学習に取り組む態度）

領域等 B 書くこと

学習の流れ

| | 教師の働きかけ | 児童の活動 |
|-----------|---|--|
| 導入
5分 | ①題材名とめあてを黒板に書く。
・手紙を仕上げさせる。
「手紙の続きを書いて、手紙を仕上げよう。」
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> ・ ・ ・にてがみをかいて しらせよう </div> | ・本時の目標を知る。
本時のめあてを明確にするために、子どもたちにもめあてを読ませる。 |
| 展開
30分 | ②誰に、どんなことを知らせたいかをもう一度確認させる。
「手紙を書いている相手や知らせたいことを確認しましょう。」
・書く相手
・手紙に書きたい内容

③手紙を完成させる。
「手紙を最後まで完成させましょう。」 | ・書く相手と知らせたい内容を確認する。

・手紙を完成させる。 |
| 終末
10分 | ④書いた手紙の見直しをさせる。
・見直しの視点
『相手の名前 書きたいこと 自分の名前』が書かれているか。
文字の間違いがないか。
言葉と言葉のつながりでおかしいところはないか。
「自分の手紙を 読み返しましょう。」
・手紙を書いた感想について交流させる。

⑤次時の予告をする。
「次の時間は、『詩を 声に出して読もう』を学習します。」 | ・手紙を見直しする。

・次時の見通しをもつ。 |

指導のポイント

- 書いた手紙を読み返し訂正した方がよい場合は、訂正していくことを大事にする。その際の視点として
- ・相手の名前が書いてあるか。
 - ・書きたいことがわかるように書いてあるか。
 - ・自分の名前が書いてあるか。
 - ・文字が正しく書かれているか。
 - ・言葉と言葉のつながりでおかしいところはないか。
- 書いた手紙は、実際に送付して相手から返事が返ってくる交流を通すことで手紙を書く活動の意欲を継続させていきたい。そのためにも保護者の協力を得るようにする。（手紙また、メールでも相手にだす。）
- 早く書き終わった子どもには、絵やイラストを入れても良いこととする。

板書例

③手紙を完成させる。
「手紙を最後まで完成させましょう。」

①題材名とめあてを黒板に書く。
・手紙を仕上げさせる。
「手紙の続きを書いて、手紙を仕上げよう。」

めあて
てがみをかんせいさせよう

○かくあいて
・おじいちゃん
・おばあちゃん
・ともだち

○てがみをかんせいさせよう

○てがみをみなおそう
・あいてのなまえ
・あいてのことをかながえたひとこと
・つたえたいこと
・じぶんのなまえ

④書いた手紙の見直しをさせる。
・見直しの視点
『相手の名前 書きたいこと 自分の名前』が書かれているか。
文字の間違いないか。
言葉と言葉のつながりでおかしいところはないか。
「自分の手紙を 読み返しましょう。」
・手紙を書いた感想について交流させる。

②誰に、どんなことを知らせたいかをもう一度確認させる。
「手紙を書いている相手や知らせたいことを確認しましょう。」
・書く相手
・手紙に書きたい内容

⑤次時の予告をする。
「次の時間は、『声に出して読もう』を学習します。」

てがみを かこう

W 62

いちねん

くみ

なまえ (

)

めあて

○てがみを かく あいて

・ おじいちゃん

・
・
・

○てがみに かく こと

・
・
・

てがみを かこう

記入見本

w
62

いちねん

くみ

なまえ（

）

めあて

（ ）にてがみをかいて しらせよう。

○てがみを かく あいて

・おじいちゃん

・おばあちゃん

・ともだち

・たいけんにゆうがくしたがっこう

○てがみに かく こと

・あいてのことをかんがえて

・つたえたいこと

・じぶんのなまえ

おてがみ びんせん

6 3

題材名 「こえにだして よもう」 (第1時/全1時間)

目 標 ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。
 ・音読を楽しもうとすることができる。(主体的に学習に取り組む態度)

領域等 C 読むこと

学習の流れ

| | 教師の働きかけ | 児童の活動 |
|-----------|--|--|
| 導入
5分 | ①題材名とめあてを書く。
・本文を張り出し、全員が集中して読めるようにさせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">かたつむりの ゆめ はちみつの ゆめ</div> | ・本時の目標を知る。
本時のめあてを明確にするために、子どもたちにもめあてを読ませる。 |
| 展開
30分 | ②教科書P68をゆっくり、ていねいに読んで聞かせる。
・かたつむりを知っているか、確かめさせる。
「かたつむりを知っていますか。」
「『かたつむりのゆめ』を 読みます。どんな、ゆめか考えながら聞いて下さい。」
・全員に読ませてみる。
「みんなで 読んでみましょう。」
・詩の感想を発表させる。
「かたつむりは、どんな夢をみているのでしょうか。」
・字と字を空けている意味をどう表現したらよいか考えさせる。 | ・カタツムリについて確認する。
・詩を聞く。

・読む。
・感想を発表する。 |
| 終末
10分 | ③教科書P69をゆっくり、ていねいに読んで聞かせる。
・はちみつを知っているか、確かめさせる。
「はちみつを知っていますか。」
「『はちみつの ゆめ』を読みます、どんなゆめか考えながら聞いて下さい。」
・全員に読ませる。
「みんなで 読んでみましょう。」
・詩の感想を発表させる。
「はちみつは、どんな夢をみているのでしょうか。」
・字と字を空けている意味をどう表現したらよいか考えさせる。 | ・詩を読む。
・感想を発表する。 |
| | ④次時の予告をする。
「次の時間は、『ききたいな、ともだちの はなし』を学習します。」 | ・次時の見通しをもつ。 |

指導のポイント

- 作者の気持ちを想像しながら詩を音読するために、読む速度を変えたり、動作化したりして、いろいろな読み方を楽しむようにする。
- かたつむりやはちみつについて絵や写真を通して確認させる。
- 先生のほめ言葉が大事であり、みんなの前で自信をもって読めるように励まし、賞賛する。
 - ・具体的にほめるようにしたい。
 - ・ジェスチャーを交えたり、はっきり話したり、ゆっくり話したり、静かに話したり・・・一人一人工夫した表現方法を具体的に賞賛するようにする。
- 字と字を空けている意味をどう表現したらよいか考えさせる。

板書例

③教科書 P69 をゆっくり、ていねいに読んで聞かせる。

- はちみつを知っているか、確かめさせる。
「はちみつを知っていますか。」
「『はちみつの ゆめ』を読みます、どんなゆめか考えながら聞いて下さい。」
- 全員に読ませる。
「みんなで 読んでみましょう。」
- 詩の感想を発表させる。
「はちみつは、どんな夢をみているのでしょうか。」
- 字と字を空けている意味をどう表現したらよいか考えさせる。

①題材名とめあてを書く。

- 本文を張り出し、全員が集中して読めるようにさせる。

かたつむりの ゆめ
かたつむり でんきち

あのね ぼく
ゆめの なかでは ね
ひかりのように はやく
はしるんだよ

かたつむりの 絵

はちみつの ゆめ
こぐま きょうこ

とうみんしてる とき
わたしは しんしん ゆめを みる
はちみついりの つぼ だいて

あまい おかしを
つくる ゆめ

はちみつの 絵

④次時の予告をする。

「次の時間は、『ききたいな、ともだちのはなし』を学習します。」

②教科書 P68 をゆっくり、ていねいに読んで聞かせる。

- かたつむりを知っているか、確かめさせる。
「かたつむりを知っていますか。」
「『かたつむりのゆめ』を 読みます。どんな、ゆめか考えながら聞いて下さい。」
- 全員に読ませてみる。
「みんなで 読んでみましょう。」
- 詩の感想を発表させる。
「かたつむりは、どんな夢をみているのでしょうか。」
- 字と字を空けている意味をどう表現したらよいか考えさせる。

つづけよう

w
63

いちねん

くみ

なまえ（

）

めあて

かたつむりの ゆめ

かたつむり でんきち

かたつむり

あのね ぼく

のえ

ゆめの なかでは ね

ひかりのように はやく

はしるんだよ

はちみつの ゆめ

こぐま きょうこ

はちみつ

とうみんしてる とき

のえ

わたしは しんしん ゆめを みる

はちみついりの つぼ だいて

あまい おかしを

つくる ゆめ

げんきなこえでよめた

きもちをこめてよめた

◎

○

△

つづけよう

記入見本

w
63

いちねん

くみ

なまえ（

）

めあて

こえにだして よもう

かたつむりの ゆめ

かたつむり でんきち

あのね ぼく

ゆめの なかでは ね

ひかりのように はやく

はしるんだよ

かたつむりの

え

はちみつの ゆめ

こぐま きょうこ

とうみんしてる とき

わたしは しんしん ゆめを みる

はちみついりの つぼ だいて

あまい おかしを

つくる ゆめ

はちみつの

え

げんきなこえでよめた

きもちをこめてよめた ◎ ○ △ (○でかこむ)

64

題材名 「ききたいな、ともだちのはなし」（第1時／全1時間）

目標 ○話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを集中して聞き、話の内容を捉えて感想を持つことができる。
 ・積極的に友達の話を読み、質問や感想を述べようとするすることができる。（主体的に学習に取り組む態度）

領域等 C 読むこと

学習の流れ

| | 教師の働きかけ | 児童の活動 |
|-----------|--|---|
| 導入
5分 | ①題材名とめあてを黒板に書く。
・ききたいな、ともだちのはなし
本時のめあてを黒板に書き、学習の見通しをもたせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">ともだちのはなしをきいて しつもんしよう。</div> | <ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標を知る。 ・本時のめあてを明確にするために子どもたちにもめあてを読ませる。 |
| 展開
30分 | ②教科書P70～P71を使って、学習の進め方を知らせる。
・範読をする。
・めあてにそって、大切な会話部分を知らせる。
『私が好きなお話しは、○○です。△△のところが面白いです。』
『どうして、 どろんこ になったのですか。』
・教師が好きな本の紹介の仕方をする。
「これから先生が好きな本の紹介をします。それは、○○です。先生の好きな所は、△△です。」 「何か質問はありませんか。」 | <ul style="list-style-type: none"> ・範読を聞く。 ・話の仕方や聞き方を知る。 ・先生の話聞く。 |
| 終末
10分 | ③子どもたちが好きな本を友達に紹介させたり質問や感想を述べさせたりする。
「自分の好きな本を友達に紹介しよう。」
「友達は、どんな話が好きなのか考えながら聞きましょう。」
「友達の話聞いて、もっと知りたいことや感想を述べましょう。」
・4人から6人程度のグループになり上記の活動を行わせる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・好きな本の紹介をする。 ・友達の話聞く。 ・感想や質問をする。 ・グループで上記の活動を行う。 |
| | ④次時の予告をする。
「次の時間は、『たのしいな、ことばあそび』を学習します。」 | <ul style="list-style-type: none"> ・次時の見通しをもつ。 |

指導のポイント

- どの本を友達に紹介するか。事前に決めさせておく。
- 話をするときや聞くときの約束をする。
 - ・話す人は、自分が伝えたいことを絞って伝える。
 - ・聞く人は、話す人の方を見て聞く。
 - ・特に伝えたいことをメモしておく。
 - ・話す側と聞く側の子どもは、全員が経験できるように4人～6人程度の小グループで活動させる。
- 子どもたちは、思いついたことをいろいろと質問をすると思うができるだけ許容する。

板書例

③子どもたちが好きな本を友達に紹介させたり質問や感想を述べさせたりする。

「自分の好きな本を友達に紹介しよう。」

「友達は、どんな話が好きなのか考えながら聞きましょう。」

「友達の話を聞いて、もっと知りたいことや感想を述べましょう。」

・4人から6人程度のグループになり上記の活動を行わせる。

①題材名とめあてを黒板に書く。

・本時のめあてを黒板に書き、学習の見通しをもたせる。

めあて

ともだちのはなしをきいて
しつもんしよう。

○じぶんのすきな ほんの しょうかい

ほんのなまえ
すきになったところ

○しつもん

○かんそう

○グループになる。

④次時の予告をする。

「次の時間は、『たのしいな、ことばあそび』を学習します。」

②教科書 P70～P71 を使って、学習の進め方を知らせる。

・範読をする。

・めあてにそって、大切な会話部分を知らせる。

『私が好きなお話しは、○○です。△△のところが面白いです。』

『どうして、**どろんこ**になったのですか。』

・教師が好きな本の紹介の仕方をする。

「これから先生が好きな本の紹介をします。それは、○○です。先生の好きな所は、△△です。」

「何か質問はありませんか。」

ききたいな　ともだちのはなし

w
64

いちねん

くみ

なまえ（

）

めあて

○じぶんの　すきな　ほんの　しょうかい

ほんのなまえ

すきな　ところ

○しつもんやかんそう

ききたいな　ともだちのはなし

記入見本

w
64

いちねん

くみ

なまえ（

）

めあて

ともだちの　はなしを　きいて　しつもんしよう。

○じぶんの　すきな　ほんの　しょうかい

ほんのなまえ　「どろんこ　ハリー」

すきな　ところ　ハリーがどろんこになっていくところ

○しつもんやかんそう

ハリーは、どうしてどろんこになったのですか。

65

題材名 「たのしいな、ことばあそび」 (第1時/全1時間)

目標 ○身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。
 ・身近なことを表す言葉に関心をもって、言葉遊びを楽しもうとすることができる。
 (主体的に学習に取り組む態度)

領域等 言葉の特徴や使い方

学習の流れ

| | 教師の働きかけ | 児童の活動 |
|-----------|--|---|
| 導入
5分 | ①題材名とめあてを黒板に書く。
・本時のめあてを黒板に書き、学習の見通しをもたせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">ことばをへんしんさせよう</div> | ・本時の目標を知る。
本時のめあてを明確にするために子どもたちにもめあてを読ませる。 |
| 展開
30分 | ②教科書P.72を使って、言葉を増やす遊びをすることを知らせる。
・教科書の答えの部分は隠しておくようにさせる。
・一字 増やして、言葉を変身させる遊びをすることを理解させる。
「『まと』の上に『と』を入れると、どんな言葉に変身するでしょうか。」
「『さら』の字の間に、『く』を入れると、どんな言葉に変身するでしょうか。」
③教科書P73の上を使って、言葉を増やす遊びをすることを知らせる。
・一字入れるとどんな言葉に変身するかの遊びであることを理解させる。
「『たい』にどんな言葉をいれたら絵のような言葉になりますか。」
「『いか』にどんな言葉をいれたら絵のような言葉になりますか。」
「『たき』にどんな言葉をいれたら絵のような言葉になりますか。」
④教科書P73の下を見て、言葉遊びをさせる。
・二文字増やしたり文字に点々をつけたりして言葉を変身させる遊びをさせる。 | ・言葉遊びの内容を知る。
・トマト
・さくら
・さいふ
・言葉遊びを楽しむ。 |
| 終末
10分 | ⑤P.72～P.73を参考に問題を作ったり楽しんだりすることができるようさせる。
「きょう学習したことを参考に問題を作って、友達と遊びましょう。」
⑥次時の予告をする。
「次の時間は、『たぬきの糸車』を学習します。」 | ・言葉遊びができる問題をつくる。
・自分たちが作った問題で楽しむ。
・次時の見通しをもつ。 |

指導のポイント

- 教科書の答えの部分を見えないように隠して、問いかけをする。
- 教科書を参考にじぶんで言葉遊びのルールを決め、問題を作る。
- 子どもたちの中には、言葉が出てきても意味の知らないものが出てくる可能性がある。その際は、補足説明を加える。(たきび、いかだなど)

板書例

③教科書 P73 の上を使って、言葉を増やす遊びをすることを知らせる。

- ・一字言葉を入れるとどんな言葉に変身するかの遊びであることを理解させる。

「『たい』にどんな言葉をいれたら絵のような言葉になりますか。」

「『いか』にどんな言葉をいれたら絵のような言葉になりますか。」

「『たき』にどんな言葉をいれたら絵のような言葉になりますか。」

①題材名とめあてを黒板に書く。

- ・本時のめあてを黒板に書き、学習の見通しをもたせる。

ことばをへんしんさせよう

めあて

○一字ふやして、ことばをへんしんさせよう

まとうえにとをふやすととまと

○へんしんさせよう

たい↓こ

たい↓や

○じぶんで、もんだいを
つくってみよう

④教科書 P.73 の下を使って、言葉遊びをさせる。

- ・二文字増やしたり文字に点々をつけたりして言葉を変身させる遊びをさせる。

⑤P.72～P.73を参考に問題を作ったり楽しんだりすることができるようさせる。

「きょう学習したことを参考に問題を作って、友達と遊びましょう。」

②教科書 P72 を使って、言葉を増やす遊びをすることを知らせる。

- ・教科書の答えの部分は隠しておくようにさせる。
- ・一字 増やして、言葉を変身させる遊びをすることを理解させる。

「『まと』の上に『と』を入れると、どんな言葉に変身するでしょうか。」

「『さら』の字の間に、『く』を入れると、どんな言葉に変身するでしょうか。」

⑥次時の予告をする。

「次の時間は、『たぬきの糸車』を学習します。」

たのしいな、ことばあそび

いちねん

くみ

なまえ

めあて

まどの上に とをふやすと

マト

さらのあいだに くをふやして

さら

さいの下に ふをふやして

さい

つぎのもじをへんしんさせよう。

たい↓

たい↓

いか↓

いか↓

たき↓

たき↓

たのしいな、ことばあそび

いちねん くみ なまえ)

めあて

一字ふやして、ことばをへんしんさせよう。

まとの上にとをふやすと

トマト

さらのあいだにくをふやして

さくら

さいの下にふをふやして

さいふ

つぎのもじをへんしんさせよう。

たい↓たいこ

たい↓タイヤ

いか↓すいか

いか↓いかだ

たき↓たぬき

たき↓たきび

66

題材名 「たぬきの糸車」①（第1時／全4時間）

目標 大まかな内容をとらえ、学習のめあてを知ることができる。

領域名 C 読むこと

学習の流れ

| | 教師の働きかけ | 児童の活動 |
|-----------|---|------------------------------------|
| 導入
10分 | ① 題材名 「たぬきの糸車」を黒板に書く
② 本時の目標を黒板に書く。
「あらすじを つかんで がくしゅうの めあてを しろう」 | |
| 展開
33分 | ③ 全文を読んで、あらすじをつかむ
「挿絵を見ながらお話を聞きましょう。」
④ 登場人物の様子や心情を想像しながら、感想を発表しあう。 | ・ 範読に続いて、共読みをする
・ 挿絵と対応させながら、場面 |
| 終末
2分 | ⑤ 次時の予告をする。
「たぬきの糸車」の紙芝居を作ります。次の時間は準備をしていき
ましょう。」 | を正しく押さえる。 |

指導のポイント

- いつ頃、どこで、誰が、誰に、何をした、ことをしっかり読み取れるようにゆっくり読み聞かせる工夫も必要である。
- 糸ぐるまを知らない児童もいるので、何をする道具かを説明しても良い。
- おもしろかったところや好きな場面に、線や四角く囲ませる工夫も必要。

- ① 題材名 「たぬきの糸車」を黒板に書く
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
 - ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

③たぬきの糸車をまず教師が全文を読む。
その後、共読みをさせる。

たぬきの糸車

あらすじをつかんで、がくしゅうのめあてをしよう

○このおはなしは、どんなお話でしょう。

- ・たぬきがでてくるお話。
- ・糸車がでてくるお話。
- ・つるのおんがえしにたお話。

○おはなしにはどんな人やいきものがでてきたか。

- ・きこりのふうふ
- ・たぬき

○おもしろかったところ、こころにのこっているところ

- ・たぬきが糸車をまわしているところ
- ・おかみさんがたぬきをにがしているところ
- ・「キークルクル」や「くるりくるり」「ぴよんこぴよんこ」などの言葉がおもしろい。

④ 登場人物を確認する。

⑤この話で、おもしろかったところを、心に残っているところをワークシートに書かせる。

⑥この物語を読んだ後、みんなで紙芝居作りをすることを伝える。

たぬきの糸車①

一ねん くみ 名共え()

ゆあて

| |
|--|
| |
|--|

このおはなしには、どんな人や、おもものがでてきましたか。

| |
|--|
| |
| |
| |

このおはなしで、おもしろかったところ、不思議なところ、
をほびました。

| |
|--|
| |
| |
| |
| |
| |

たとえば たぬきが糸車をまわしているところ

67

題材名 「たぬきの糸車」②（第2時／全4時間）

目標 紙芝居を作ることができる。

領域名 C 読むこと

学習の流れ

| | 教師の働きかけ | 児童の活動 |
|-------------------|--|--|
| 導
入
10
分 | ① 本時のめあてを知る。
「ともだちと力をあわせてかみしばいをつくろう」
② 一の場面をかいたり、色を塗ったりする。
「一の場面に取り掛かりましょう。」
・わなの絵など想像したものを、前に書きこんだり、色合いを考えたりしておく。 | ・めあてをワークシートに書き込む。

・グループや周囲の友達どうしで役割を決めておくとよい。 |
| 展
開
33
分 | ③ 場面ごとに色を塗ったり、言葉を増やしたりする。
・二の場面、三の場面と進めていく。 | |
| 終
末
2
分 | ④ 家庭学習としてできる作業を確かめ合う。
「持ち帰って、おうちでできる作業について、友達ともしっかり話し合って確かめておきましょう。」 | ・家庭学習として、漢字練習も渡す。 |

指導のポイント

- 1～3場面で、自分の好きな言葉や、好きな場面を赤鉛筆で印を付けてもよい
- 好きな言葉や場面からどんなイメージをもったかを聞いてあげることが必要。
- 一場面の風景（情景）が分かるようなところに、色鉛筆で線を引かせるとよい。

板書例

- ① 題材名 「たぬきの糸車」を黒板に書く
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
 - ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

③山奥の一軒家であることを押さえ、周りには家がないことを確認させてから一の場面の紙芝居作りに取り組む。

たぬきの糸車

力をあわせて かみしばいを つくろう

一のばめん

・やまおくのいっけんやなのでまわりにはいえがない。

二のばめん

・やぶれしょうじ
・くりくりした目玉
・月の明るいしょうじ

三のばめん

・キヤーというさけびごえ
・こわごわいってみる

⑤さけびごえ、こわごわいってみるなどの言葉を確認してから三の場面の紙芝居作りに取り組む。

④二の場面に出てくる、「やぶれしょうじ」「くりくりした目玉」「月の明るいしょうじ」などの言葉を大事にして二の場面の紙芝居作りに取り組ませたい。

⑥ 家庭学習としてできる作業を確かめる。

たぬきの糸車②

一ねん くみ 名世之()

ゆあて

| |
|--|
| |
|--|

一のばぬん。

| |
|--|
| |
| |
| |

二のばぬん。

| |
|--|
| |
| |
| |

三のばぬん。

| |
|--|
| |
| |
| |

たぬきの糸車②(記入例)

「ねん くみ 名まえ()

ゆあて

ともだちと力をあわせてかみしばいをつくろう。

一のばゆん。

山おくにかしらのおうたがすんでおした。

山おくのけんやなのおぼろのようじたぬきかたしんかんらたぬい

せしおした。

二のばゆん。

やぶれしおつし

くりくりとした目玉

月の明るしおつし

三のばゆん。

ちけびん

りまひん

68

題材名 「たぬきの糸車」③（第3時／全4時間）

目標 紙芝居を作ることができる。

領域名 C 読むこと

学習の流れ

| | 教師の働きかけ | 児童の活動 |
|-----------|--|--|
| 導入
10分 | ① 本時のめあてを知る。
「ともだちと力をあわせてかみしばいをつくろう」
② 四の場面をかいたり、色を塗ったりする。
「一の場面に取り掛かりましょう。」
・わなの絵など想像したものを、前に書きこんだり、色合いを考えたりしておく。 | ・めあてをワークシートに書き込む。

・グループや周囲の友達どうしで役割を決めておくとよい。 |
| 展開
33分 | ③ 場面ごとに色を塗ったり、言葉を増やしたりする。
・五の場面、六の場面と進めていく。 | |
| 終末
2分 | ④ 家庭学習としてできる作業を確かめ合う。
「持ち帰って、おうちでできる作業について、友達ともしっかりと話し合って確かめておきましょう。」
※完成しない場合、家庭学習とする。 | ・子ども同士が助け合って活動できる雰囲気づくりに努める |

指導のポイント

- 4～6場面で、自分の好きな言葉や、好きな場面を赤鉛筆で印を付けてもよい
- 好きな言葉や場面からどんなイメージをもったかを聞いてあげることが必要。
- 教科書に載っていない、たぬきの気持ちやおかみさんの気持ちを言葉で表現してみることをアドバイスすると良い。
- 絵を並べて、言葉の紙をどこに貼ればよいかを考えさせると良い。

板書例

- ① 題材名 「たぬきの糸車」を黒板に書く
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
 - ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

③吹き出しをつけたり、文を書き足したりしながら四の場面を完成していくようにする。

たぬきの糸車

力をあわせて かみしばいを つくろう

○四のばめん

・はるになつて

・はあてふしぎなどうしたこつちや

○五のばめん

・たぬきがじょうずな手つきで糸をつむいでいる

○六のばめん

・びよんびよこおどりながらかえつていきましたとき。

⑤帰って行くたぬきの様子からたぬきの気持ちを考えさせたい。

④糸を紡いでいるたぬきの気持ち、たぬきを見たおかみさんの気持ちを考えさせながら紙芝居作りに取り組ませたい。

⑥紙芝居の作り方をしっかりと確認させ、場面と読む文章は同じ紙ではなく、ずれているということを理解させる。

たぬきの糸車③

一ねん くみ 名世之()

ゆあて

| |
|--|
| |
|--|

四のばゆん。

| |
|--|
| |
| |
| |

五のばゆん。

| |
|--|
| |
| |
| |

六のばゆん。

| |
|--|
| |
| |
| |

69

題材名 「たぬきの糸車」④（第4時／全4時間）

目標 話の内容がよく伝わるように工夫して声に出して読むことができる。

領域名 C 読むこと

学習の流れ

| | 教師の働きかけ | 児童の活動 |
|-----------|--|---------------------------------|
| 導入
10分 | ① 本時のめあてを知る。
「かみしばいを ほかにの人に見てもらって たのしんで もらおう」 | ・めあてをワークシートに書き込む。
・元気よく発表する。 |
| 展開
33分 | ② 自分たちで作った紙芝居を、いろいろな人に見てもらおう。
・大きな声で発表する。
・情景や気持ちが分かるように、言い方を工夫する。 | ・見てもらった人から、意見や感想をもらう。 |
| 終末
2分 | ④ 学習を振り返って、自己評価する。
⑤ いろいろな人たちにもらった感想などを、保護者にも伝えるようにする。 | ・子ども同士が助け合って活動できる雰囲気づくりに努める |

指導のポイント

- 大きな声で、感情豊かに発表できるようにアドバイスする。
- 発表役の児童は机を使い、聞き手側は床に座って聞いた方がよい。
床に座ることができない場合は、発表側の位置を少し高めにとすると発表しやすい。
- 発表後に、おもしろかったところなどを伝えてあげる工夫をする。

- ① 題材名 「たぬきの糸車」を黒板に書く
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
 - ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

③紙芝居を楽しんでもらうためのポイントについて前時の学習を想起させて確認する。

たぬきの糸車

かみしばいを ほかの人に 見てもらったのしんでもらおう

○かみしばいをいろいろな人たちにたのしんでもらうためには…

・おおきなこえで読む。

・きもちがよかったるように読む。

・まわりのようすが分かるように読む。

○はっぴょうかいのかんそう

・おおきなこえではっぴょうできたのがすごかった。

・たぬきのうれしいきもちがよくつたわった。

・おかみさんのきもちがよくわかった。

○がくしゅうをふりかえって

・かみしばいづくりがとめたのしかった。

・きょうりよくしてかみしばいをつくることできました。

・かみしばいのれんしゅうをいえでもがんばった。

- ④ 紙芝居を見てもらった人たちから、意見や感想を発表してもらおう。
 - ※ 子どもたちの良さについて話してもらおうようにする。

- ⑤ ワークシートで学習を振り返って自己評価をする。

たぬきの糸車④

「ねん くみ 名世之()

ねん

| |
|--|
| |
|--|

「かみしほつてい」をよめし

かみしほつてい

| |
|--|
| |
| |
| |

はかのひとからふのメシヤー

| |
|--|
| |
| |
| |

かみしほつてい

| |
|--|
| |
| |
| |

たぬきの糸車④(記入例)

「ねん くみ 名まえ()

めあて

かみしばいをほかの人に見てもらって、たのしんでもらおう。

「かみしばいづくり」をとおして

がんばらなう

えをかくことをがんばった。

きょうかしの文をまちがえないようにつづいた。

〇〇さんといっしょに、かみしばいづくりをがんばった。

ほかのひとからのメッセージ

おかみさんやたぬきのきもちが分かるようなよみかたでした。

大きなこで読んでいたので、まじがあと思いました。

はゆんどのえがとてもしょうすにかかれていて、びっくりしました。

かんそう

かみしばいづくりはとてまたのしかたです。

いそでもよむれんしゅうをたくさんしました。

また、じぶんがかみしばいをひくってみたいです。

70

題材名 「かたかなのかたち」（第1時／全1時間）

目標 話の内容がよく伝わるように工夫して声に出して読むことができる。

領域名 B 書くこと

学習の流れ

| | 教師の働きかけ | 児童の活動 |
|-----------|---|---|
| 導入
10分 | ① 題材名「かたかなのかたち」を黒板に書く。
② 本時の目標を黒板に書く。
「かたちにきをつけて ていねいに かこう」 | ・めあてをワークシートに書き込む。 |
| 展開
33分 | ③ 似ている形の字を整理する。
「まず、かたかなとひらがなでにている 字を しりましょう。」
「次に、かたかなとかたかなでにている 字を しりましょう。」
④ 間違いやすいかたかなを整理する。
「間違いやすいかたかなについて練習しましょう。」 | ・ワークシートに記入する。

・一文字ずつ形を確認しながらワークシートに記入する。 |
| 終末
2分 | ⑤ 他のカタカナについても、確認する。
「巻末のかたかな表を見て、自信をもって書けるか、一文字ずつ確認しましょう。」 | ・カタカナをすべて確認して、自信がないカタカナについては、ノートに書きだしておく。 |

指導のポイント

○カタカナについては、ひらがなの混同、カタカナ同士の混同が予想される。

○何度も書き直すなどの家庭学習も望ましい。

板書例

- ① 題材名「かたかなのかたち」を黒板に書く
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

③似ている形の字を整理する。

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----------------------------------|--|---|---|---|---|---|---|---|---|---|--|---|---|---|--|---|---|---|--|---|--|---|--|--|--|
| ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆
☆ かたち
☆ に
☆ ける
☆ き
☆ を
☆ つ
☆ けて
☆ か
☆ いて
☆ み
☆ よ
☆ う | <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>ン</td><td>ソ</td></tr> <tr><td>マ</td><td>ア</td></tr> <tr><td>シ</td><td>ツ</td></tr> <tr><td>ン</td><td>ツ</td></tr> </table> | ン | ソ | マ | ア | シ | ツ | ン | ツ | ☆ に
☆ ける
☆ か
☆ た
☆ な
☆ と
☆ ひ
☆ ら
☆ が
☆ な | か - カ
き - キ
せ - セ
も - モ | ☆ に
☆ ける
☆ か
☆ た
☆ かな
☆ と
☆ ひ
☆ ら
☆ が
☆ な | かたかなのかたち
かたち
に
き
を
つ
けて
て
い
ね
い
に
か
こ
う | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ン | ソ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| マ | ア | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| シ | ツ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ン | ツ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>オ</td><td>マ</td><td>シ</td><td>ネ</td></tr> <tr><td>ル</td><td>フ</td><td>ヤ</td><td>ク</td></tr> <tr><td>ガ</td><td>ラ</td><td>ワ</td><td>タ</td></tr> <tr><td>ン</td><td>ー</td><td>ー</td><td>イ</td></tr> </table> | オ | マ | シ | ネ | ル | フ | ヤ | ク | ガ | ラ | ワ | タ | ン | ー | ー | イ | <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>ヲ</td><td>コ</td><td>ミ</td><td>テ</td></tr> <tr><td></td><td>ー</td><td>シ</td><td>ー</td></tr> <tr><td></td><td>ヒ</td><td>ン</td><td>ブ</td></tr> <tr><td></td><td>ー</td><td></td><td>ル</td></tr> </table> | ヲ | コ | ミ | テ | | ー | シ | ー | | ヒ | ン | ブ | | ー | | ル | | | |
| オ | マ | シ | ネ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ル | フ | ヤ | ク | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ガ | ラ | ワ | タ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ン | ー | ー | イ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ヲ | コ | ミ | テ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ー | シ | ー | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ヒ | ン | ブ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ー | | ル | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

④ 間違えやすいかたかなを整理する。

⑤ 他のカタカナについても、確認する。

かたかなの かたち

一ねん くみ 名まえ)

)

☆ にている かたかなとひらがな

—

—

—

—

か

き

せ

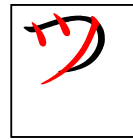
へ

☆ にている かたかなと かたかな

そ

す

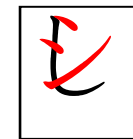
っ



ん

ぬ

し



☆ かたちを きをつけて かいてみよう

| | | | |
|--|--|--|--|
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

| | | | |
|--|--|--|--|
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

7 1

題 材 名 「ことばを 見つけよう」 (第1時/全1時間)

目 標 ○身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。
 ・身近なことを表す言葉に関心をもって、『言葉みつけ』遊びを楽しもうとすることができる。
 (主体的に学習に取り組む態度)

領 域 等 言葉の特徴や使い方

学習の流れ

| | 教師の働きかけ | 児童の活動 |
|-------------------|--|--|
| 導
入
5
分 | ①題材名とめあてを黒板に書く。
・本時のめあてを黒板に書き、学習の見通しをもたせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">ことばをみつけよう</div> | ・本時の目標を知る。
本時のめあてを明確にするために、子どもたちにもめあてを読ませる。 |
| 展
開
30
分 | ②教科書P88を使って、文の中にあうような言葉を入れる遊びであることを知らせる。
・かばんの中には、かばがいる。の文から、問題の意味を考えさせる
「はちまきの中には、□がいる。□の中に入る言葉を見つかけよう。」
「ぶたいの中には、□がいる。□の中に入る言葉を見つかけよう。」
「いわしの中には、□がいる。□の中に入る言葉を見つかけよう。」
・みかんの中には、かんがある。の文から、問題の意味を考えさせる。
「すいとうの中には、□がある。□の中に入る言葉を見つかけよう。」
「パンダの中には、□がある。□の中に入る言葉を見つかけよう。」
「はたけの中には、□がある。□の中に入る言葉を見つかけよう。」
・『いる』と『ある』の使い方を考えさせる。 | ・言葉遊びの内容を知る。
・はち
・ぶた、たい
・わし
・いと
・パン
・はた、たけ
・『いる』と『ある』の違いを考える。
・クイズを作る。 |
| 終
末
10
分 | ③教科書を参考に、「言葉クイズ」を考えさせる。
・「言葉クイズ」を作り、自分たちでそれを使って、クイズ遊びをするという気持ちを高めさせる。
・クイズ作りをさせる。
「教科書を参考にクイズを作ろう。」
・クイズ大会をさせる。
「自分たちの作った問題でクイズ大会をしよう。」
④次時の予告をする。
「次の時間は、『どうぶつのあかちゃん』を学習します。 | ・自分たちが作った問題で楽しむ。
・次時の見通しをもつ。 |

指導のポイント

- 教材文を見て、「言葉クイズを作ってみんなであそぼう」という学習課題であり楽しい時間だという気持ちをもたせる。
- 『いる』『ある』の使い方は、普段使用していないと混同してしまう子どもがでてくるので、ここではできあがった文を声にださせ、具体的な場面を考えさせ理解を深めさせる。
 例 ぶたいのなかには、ぶたがいる。パンダのなかには、パンがある。
- 一つの問題の中で、答えが二つ隠れている場合もあることをおさえる。
 例 はたけの中には、旗(はた)がある。はたけの中には、竹(たけ)がある。
- 言葉の中には、意味がよくわからないものもあるので、補足説明を加える。

板書例

③教科書を参考に、「言葉クイズ」を考えさせる。

- ・「言葉クイズ」を作り、自分たちでそれを使って、クイズ遊びをするという気持ちを高めさせる。
- ・クイズ作りをさせる。
「教科書を参考にクイズを作ろう。」
- ・クイズ大会をさせる。
「自分たちの作った問題でクイズ大会をしよう。」

①題材名とめあてを黒板に書く。

- ・本時のめあてを黒板に書き、学習の見通しをもたせる。

ことばをみつけよう

・かばんの中には、かばがいる。

はちまきの中には、□がいる。

ぶたいの中には、□がいる。

いわしの中には、□がいる。

・みかんの中には、かんがある。

すいとうの中には、□がある。

パンダの中には、□がある。

はたけの中には、□がある。

②教科書 P88 を使って、文の中にあうような言葉を入れる遊びであることを知らせる。

- ・かばんの中には、かばがいる。の文から、問題の意味を考えさせる
「はちまきの中には、□がいる。□の中に入る言葉を見つけよう。」
「ぶたいの中には、□がいる。□の中に入る言葉を見つけよう。」
「いわしの中には、□がいる。□の中に入る言葉を見つけよう。」
- ・みかんの中には、かんがある。の文から、問題の意味を考えさせる。
「すいとうの中には、□がある。□の中に入る言葉を見つけよう。」
「パンダの中には、□がある。□の中に入る言葉を見つけよう。」
「はたけの中には、□がある。□の中に入る言葉を見つけよう。」
- ・『いる』と『ある』の使い方を考えさせる。

④次時の予告をする。

「次の時間は、『どうぶつのあかちゃん』を学習します。」

72

題材名 「どうぶつの赤ちゃん」①（第1時／全3時間）

- 目標**
- (1) ライオンとしまうまの赤ちゃんの特徴やその違いなどを考えながら、大体の内容を読み取ることができる。
 - (2) 事柄の関係を考えながら、語と語や文と文の続き方に注意して書くことができる。

領域名 B 書くこと C 読むこと

学習の流れ

| | 教師の働きかけ | 児童の活動 |
|-----|---|-----------------------------------|
| 導入 | ① 題材名「どうぶつの赤ちゃん」を黒板に書く。 | |
| 10分 | ② 読みのめあてと本時の目標を黒板に書く。
「ちがいをかんがえてよもう
「どうぶつの赤ちゃん」をよんで はなしあおう。」 | ・ 本時の目標を知る。 |
| 展開 | ③ どうぶつの赤ちゃんについて知っていることを発表させる。
「動物の赤ちゃんのことで、知っていることを聞かせてください」 | ・ 知っていることを発表する。 |
| 33分 | ④ 教科書92～97ページを読む。
・ さし絵を提示しながら、教師が読む。
「読んでいるところの絵を見ながら、聞きましょう。」 | ・ 教師の読み聞かせを聞いて、物語の大体を知る。 |
| 終末 | ⑤ 初発の感想を発表させる。
・ 児童の発言を板書する。
「初めて読んで感じたことや驚いたことを聞かせてください。」 | ・ 感想を発表しあう。 |
| 2分 | ⑥ 新出漢字を学習する。
「赤」「生」「耳」「王」「口」「年」「立」「草」 | ・ 新出漢字を学習する。
・ 新出漢字用ワークシートに書く。 |
| 分 | ⑦ 次時の予告をする。 | |
| | ⑧ 「次の時間は、ライオンの赤ちゃんについて読み取ります。」 | ・ 次時の見通しを持つ。 |

指導のポイント

- 関心や意欲を高めるために
 - ・ 導入で、自分の家で飼っている動物のことや、動物園で見た動物など、動物の赤ちゃんについて知っていることを自由に発表させる。
 - ・ 既習教材「わたしは、なんでしょう」方式で、教師が動物の赤ちゃんについて3ヒントクイズを出し、答えさせる。
- 初発の感想を大切にしたい
 - ・ どんな小さな発見にも耳を傾け、板書に位置付けていくことで、これから学習する教材文への関心を高めていくようにする。
 - ・ 児童の実態に応じて、初発の感想は、ノートに書かせてもよい。

板書例

- ① 題材名「どうぶつの赤ちゃん」を黒板に書く
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
 - ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

- ③ 動物の赤ちゃんについて知っていることを発表させる。
- ④ 教科書の92～97ページを読み聞かせ、話の大体をつかませる。(さし絵を提示する。)

どうぶつの赤ちゃん

どうぶつの赤ちゃんをよんで はなしあおう

○どうぶつの赤ちゃんは

ちいさい かわいい

おちちをのむ おかあさんのそばにいる

ライオン

しまうま

○はじめてよんで

・ライオンの赤ちゃんがこねこみみたいだった。

・しまうまの赤ちゃんがすぐに立てるのがすごい。
い。

・しまうまのほうが大きいのでびっくりした。

あたらしいかん字

赤(あか)

生(う)まれる

耳(みみ)

王(おう)

口(くち)

年(ねん)

立(た)つ

草(くさ)

- ⑥ 新出漢字「赤」「生」「耳」「王」「口」「年」「立」「草」の学習をさせる。
 - ・新出漢字用ワークシートに書く。

- ⑦ 次時の予告をする。
「次の時間は、ライオンの赤ちゃんのことを詳しく読み取ります。」

どうぶつの 赤ちゃん①

一年

くみ

なまえ(

)

てきだ どうぶつ

| | なまえ | うしなま |
|---------|-----|------|
| 93 頁の絵 | | |
| 95 頁の絵 | | |
| 101 頁の絵 | | |

うしなまの どうぶつ なまえ

| | | | | | | | | | | | | |
|-----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| なまえ | | | | | | | | | | | | |
| | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ | ⑨ | ⑩ | ⑪ | ⑫ |

73

題材名 「どうぶつの赤ちゃん」②（第2時／全3時間）

- 目 標**
- (1) ライオンとしまうまの赤ちゃんの特徴やその違いなどを考えながら、大体的内容を読み取ることができる。
 - (2) 事柄の関係を考えながら、語と語や文と文の続き方に注意して書くことができる。

領域名 B 書くこと C 読むこと

学習の流れ

| | 教師の働きかけ | 児童の活動 |
|-------------------|--|---|
| 導
入
10
分 | ① 題材名「どうぶつの 赤ちゃん」を黒板に書く。
② 読みのめあてと本時の目標を黒板に書く。
「ライオンの 赤ちゃんについて しろう。」
③ 教科書92ページを読み、何を読み取るのか明らかにする。
・ 教師が範読後、2つの文を模造紙や短冊などに書いて黒板に貼り、意識して読み進められるようにする。 | ・ 本時の目標を知る。
・ 読みの視点を知る。 |
| 展
開
33
分 | 「今日は、ライオンの赤ちゃんについて読み進めていきましょう」
④ 教科書93ページを読み、ライオンの赤ちゃんの生まれたばかりの様子を読み取らせる。
・ 教師が範読後、児童に音読させる。
・ ノートにまとめさせる。 | ・ 音読する。
・ ノートにライオンの赤ちゃんの生まれたばかりの様子をまとめる。 |
| 終
末
2
分 | ⑤ 教科書94ページを読み、ライオンの赤ちゃんの大きくなる様子を読み取らせる。
・ 教師が範読後、児童に音読させる。
・ ノートにまとめさせる。 | ・ 音読する。
・ ノートにライオンの赤ちゃんの大きくなる様子をまとめる |
| | ⑥ ライオンの赤ちゃんについてまとめる。
・ ライオンの赤ちゃんについて感想を言わせる。
「ライオンの赤ちゃんについて、どう思いましたか。」 | ・ 感想を話し合う。 |
| | ⑦ 次時の予告をする。
「次の時間は、しまうまの赤ちゃんについて読み取ります。」 | ・ 次時の見通しをもつ |

指導のポイント

○ 読み取りの視点を示す

・ まとめさせたい視点を板書で示し、該当する項目を本文から見つけさせ発表させたい。また、ノートやワークシートを使って、まとめさせていくようにする。

・ 文に合う絵をノートの余白に描かせることで、イメージを広げさせても効果的である。

○ 感想を大切にす

・ 読み取った後の感想を話し合わせたり、ノートに書かせたりする活動を終末に入れ、学びを深めようとしたい。

- ① 題材名「どうぶつの赤ちゃん」を黒板に書く
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
 - ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

③教科書の92ページを読み、この教材を通して、何を読み取るのか示す。範読後、短冊や模造紙などに書いた問題を黒板に掲示する。

どうぶつの赤ちゃん

ライオンの赤ちゃんについて しろう

① 生まれたばかりのときは、どんなようすをしているのでしょうか。

- からだの大きさ…子ねこぐらい。
- 目や耳のようす…とじたまま。

○ おかあさんになているか…よわよわしくて、にている。

② どのようにして、大きくなっていくのでしょうか。

- 生まれたばかり…じぶんでは、あるくことができない。
- 二か月ぐらい…おちだけのんでいる。やがて、おかあさんのとったえものをたべはじめ。

○ 一年ぐらい…えものとりかたをおぼえる。じぶんでつかまえてたべるようになる。

【かんそう】

・ どうぶつの王さまなのに、赤ちゃんはかわいこのでぶしぎ。

・ 口にくわえてはこんでもらうのでいたくないのかな。

④ 始めの問題に該当する教科書の93ページを読ませ、「生まれたばかりのようす」についてまとめさせる。音読させたあと、発表させる。教師が板書した後に、ノートに書かせる。

⑤ 次の問題に該当する教科書の94ページを読ませ、「大きくなるようす」についてまとめさせる。音読させたあと、発表させる。

- ・ 教師が板書した後に、ノートに書かせる。

⑥ 本時のまとめをする。

「ライオンの赤ちゃんについて、どう思いましたか。」

⑦ 次時の予告をする。

「次の時間は、しまうまの赤ちゃんのことを詳しく読み取ります」

どうぶつの 赤ちゃん

一年 くみ 名まえ()

☆ 生まれたばかりのようす

ライオン

| お
あ
さ
ん
と
と
に
い
る
か | 耳のようす | 目のようす | からだの大きさ |
|--|-------|-------|---------|
| | | | |

☆ 大きくなるようす(○○はうなのに、□□はうなので、おどろいた。など)

どうぶつの赤ちゃん 記入見本

一年 くみ 名まえ()

☆ 生まれたばかりのようす

ライオン

| おかあさん
と
にているか | 耳のようす | 目のようす | からだの大きさ |
|---------------------|-------|-------|------------|
| よわよわしく
にている | とじたまま | とじたまま | 子ねいぐららの大きさ |

☆ 大きくなるようす(○○はうなみに、□□はうなみに、おえらした。など)

74

題材名 「どうぶつの赤ちゃん」③（第3時／全3時間）

- 目標**
- (1) ライオンとしまうまの赤ちゃんの特徴やその違いなどを考えながら、大体の内容を読み取ることができる。
 - (2) 事柄の関係を考えながら、語と語や文と文の続き方に注意して書くことができる。

領域名 B 書くこと C 読むこと

学習の流れ

| | 教師の働きかけ | 児童の活動 |
|-----------|---|---|
| 導入
10分 | ① 題材名「どうぶつの赤ちゃん」を黒板に書く。
② 読みのめあてと本時の目標を黒板に書く。
「しまうまの赤ちゃんについて しろろ。」
③ 教科書92ページを読み、何を読み取るのか明らかにする。
・ 教師が範読後、2つの文を模造紙や短冊などに書いて黒板に貼り意識して読み進められるようにする。 | ・ 本時の目標を知る。
・ 読みの視点を知る。 |
| 展開
33分 | 「今日は、しまうまの赤ちゃんについて読み進めていきましょう」
④ 教科書95ページを読み、しまうまの赤ちゃんの生まれたばかりの様子を読み取らせる。
・ 教師が範読後、児童に音読させる。
・ ノートにまとめさせる。 | ・ 音読する。
・ ノートにしまうまの赤ちゃんの、生まれた様子をまとめる |
| 終末
2分 | ⑤ 教科書96～97ページを読み、しまうまの赤ちゃんの大きくなる様子を読み取らせる。
・ 教師が範読後、児童に音読させる。
・ ノートにまとめさせる。 | ・ 音読する。
・ ノートにしまうまの赤ちゃんの、大きくなる様子をまとめる。 |
| | ⑥ しまうまの赤ちゃんについてまとめる。
・ しまうまの赤ちゃんについて感想を言わせる。
「しまうまの赤ちゃんについて、どう思いましたか。」 | ・ 感想を話し合う。 |
| | ⑦ 次は『これはなんでしょう』の学習をします。 | ・ 次時の見通しを持つ。 |

指導のポイント

- 読み取りの視点を示す
 - ・ まとめさせたい視点を板書で示し、該当する項目を本文から見つけさせ発表させたい。また、ノートやワークシートを使って、まとめさせていくようにする。
 - ・ 文に合う絵をノートの余白に描かせることで、イメージを広げさせても効果的である。
- 感想を大切にす
 - ・ 読み取った後の感想を話し合わせたり、ノートに書かせたりする活動を終末に入れ、学びを深めようとしたい。

- ① 題材名「どうぶつの赤ちゃん」を黒板に書く
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
 - ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

③教科書の92ページを読み、この教材を通して、何を読み取るのか示す。範読後、短冊や模造紙などに書いた問題を黒板に掲示する。

どうぶつの赤ちゃん

しまうまの赤ちゃんについて しろう

- ① 生まれたばかりのときは、どんなようすをしているのでしょうか。
 - からだの大きさ：やぎぐらい。
 - 目や耳のようす：目はあいている。
 - 耳もぴんと立っている。
 - おかあさんになているか：しまのもようがありそっくり。
 - ② どのようにして、大きくなっていくのでしょうか。
 - 生まれたばかり：三十分もたたないうちに、じぶんで立ち上がる。つぎの日には、はしるようになる。
 - 七月ぐらい：おちちだけのんでいる。○そのあと：おちちものむ。じぶんで草もたべるようになる。
- 【かんそう】
- ・すぐに、はしれるようになるのがすごいとおもった。
 - ・じぶんで草もたべるのでえらいなおもった。

④95ページを読ませ、「生まれたばかりのようす」についてまとめさせる。音読させたあと、発表させる。教師が板書した後に、ノートに書かせる。

⑤96～97ページを読ませ、「大きくなるようす」についてまとめさせる。音読させたあと、発表させる。

- ・教師が板書した後に、ノートに書かせる。

- ⑥本時のまとめをする。

「しまうまの赤ちゃんについて、どう思いましたか。」
- ⑦次時の予告をする。

どうぶつの赤ちゃん③

一年 くみ 名まえ()

☆ 生まれたばかりのようす

しほうま

| おかあさん
と
にているか | 耳のようす | 目のようす | からだの大きさ |
|---------------------|-------|-------|---------|
| | | | |

☆ 大きくなるようす(○○はうなり、□□はうなり、おえんらた。など)

どうぶつの赤ちゃん③(記入例)

一年 くみ 名まえ()

☆ 生まれたばかりのようす

しまうま

| おかあさん
と
にているか | 耳のようす | 目のようす | からだの大きさ |
|---------------------|----------|--------|-----------|
| おかあさんに
そっくり | びんと だててる | 目はあいてる | やぎぐらゐの大きさ |

☆ 大きくなるようす(○○はうなるに、□□はうなるで、おえんらた。など)

75

題材名 「これは なんでしょう」 (第1時/全1時間)

- 目標** ○互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつなぐことができる。
 ・二人で話し合い、クイズを考え発表しようとするすることができる。

(主体的に学習に取り組む態度)

領域等 A 話すこと・聞くこと

学習の流れ

| | 教師の働きかけ | 児童の活動 |
|-----------|--|--|
| 導入
5分 | ①題材名とめあてを黒板に書く。
・本時のめあてを黒板に書き、学習の見通しをもたせる。
「『これは、なんでしょう』という、クイズをします。」
・教師から問題を聞いたり、教材文を読んだりして、クイズの大まかなルールを知らせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 二人で問題を考えて、クイズ大会をしよう </div> | ・本時の目標を知る。
本時のめあてを明確にするために子どもたちにもめあてを読ませる。 |
| 展開
30分 | ②二人組を作り、クイズの問題を考えさせる。
・二人組を作らせる。
・教科書P103を参考に、問題を作らせる。
「学校にあるものの中から、問題の答えにするものを決めましょう。」
「問題にするものの形や、働きなどをノートに書きましょう。」
「書いたことをどの順番で言うかを、話し合ひましょう。」
「問題を発表する練習をしましょう。」 | ・クイズの答えを考える。
・問題を考える。
・話す順番を考える。
・発表の練習をする。 |
| 終末
10分 | ③「これは、なんでしょう」クイズ大会をさせる。
「自分たちが考えたクイズをみんなの前で、発表しましょう。」
「質問があれば、手をあげてください。」
「クイズ大会をしての感想を発表しましょう。」
○新しい漢字ー先
④次時の予告をする。
「次の時間は、『ずうっと、ずっと、大すきだよ』を学習します。 | ・クイズ大会をする。
・自分たちが作った問題を楽しむ。
・感想を発表する。
・次時の見通しをもつ。 |

指導のポイント

- 「クイズを作ってみんなであそぼう」という学習課題であり、二人で協力して問題を考えていこうとする気持ちをもたせる。
- 答えを決めたら、その特徴（色や形、働き、様子）を児童の日本語力の実態を考慮して、ノートに文字を書いたり絵で表現させたりする。また、問題や答えは、口答だけでなく、画用紙等を使ったりジェスチャーを交えたり、実物を見せたりして行うようにするとよい。
- 音声CDがある場合は、CDを聞いて、問題の出し方を確かめ、話し合いの仕方を学ばせ、練習に生かすようにさせる。
- 友達の話の確かめたり、わからないことを聞いたりするなど二人で話し合いをする時間を大切にする。
- クイズ大会の際の発表の仕方や聞く姿勢、声の大きさなどを教科書 P.102～105 ページの挿絵を参考に知らせる。
- クイズ大会の際が終わった後は、机の配置を必ず元に戻すことを約束させる。教師が最後に机の配置を確かめる。(補習校の机等を移動する際には、机の中の物に触れないこと、落としたりすぐに机の中に戻すことを伝える。)

板書例

③「これは、なんでしょう」クイズ大会をさせる。
「自分たちが考えたクイズをみんなの前で、発表しましょう。」
「質問があれば、手をあげてください。」
「クイズ大会をしての感想を発表しましょう。」

①題材名とめあてを黒板に書く。
・本時のめあてを黒板に書き、学習の見通しをもたせる。
「『これは、なんでしょう』という、クイズをします。」
・教師から問題を聞いたり、教材文を読んだりして、クイズの大まかなルールを知らせる。

めあて

二人でもんだいをかながえて、クイズたいかいをしよう

クイズのれい

○くいずのこたえ
とけい

○もんだい

まるいもの
すうじがかいてある
いつもうごいている

○クイズたいかい

・こえの大きさ

・はなしをきくしせい

・しつもんをするときは、

○かん字

先さき

②二人組を作り、クイズの問題を考えさせる。

・二人組を作らせる。

・教科書 P103 を参考に、問題を作らせる。

「学校にあるものの中から、問題の答えにするものを決めましょう。」

「問題にするものの形や、働きなどをノートに書きましょう。」

「書いたことをどの順番でいうかを、話し合ひましょう。」

「問題を発表する練習をしましょう。」

・答えを決めたら、その特徴（色や形、働き、様子）を児童の日本語力の実態を考慮して、ノートに文字を書いたり絵で表現させたりする。

④次時の予告をする。

「次の時間は、『ずうっと、ずっと、大すきだよ』を学習します。」

ふたりで かんがえよう

75

いちねん

くみ

なまえ

めあて

もんだいは、どのような じゅんじで
つくりですか。

□の中からえらんで かきましよう。

じゅんばん かたち もんだい

- ① () にするものをきめる。
- ② ノートに、() () やはたら
など、ヒントになることをかく。
- ③ かいたことを どの () () で
いうか はなしあう。
- ④ もんだいを 出す。

かん字のれんしゅう

| |
|---|
| 先 |
| |
| |
| |
| |

ふたりで かんがえよう

記入見本 w 75

いちねん

くみ

なまえ

)

めあて

クイズたいかいをしよう。

もんだいは、どのような じゅんじよ
でつくりですか。

□の中からえらんで かきましよう。

じゅんばん かたち もんだい

① (もんだい) にするものをきめる。

② ノートに、(かたち)やはたらきなど、
ヒントになることをかく。

③ かいたことを どの (じゅんばん)
でいうか はなしあう。

④ もんだいを 出す。

かん字のれんしゅう

先

| |
|--|
| |
| |
| |
| |
| |

76

題材名 「ずうっと、ずっと、大すきだよ」①（第1時／全2時間）

目標 場面の様子や人物の行動などについて、想像を広げながら読むことができる。

領域名 C 読むこと

学習の流れ

| | 教師の働きかけ | 児童の活動 |
|-----|---|--|
| 導 | ① 題材名「ずうっと、ずっと、大すきだよ」を黒板に書く。 | |
| 入 | ② 本時の目標を黒板に書く。 | |
| 10分 | 「さしえを見たりぶんをぜんぶよんだりして、はなしのだいたいをつかもう。」
・ワークシートを配布し、目標を書き込ませる。 | ・本時の目標を知る。
・目標をワークシートに書き込む。 |
| 展 | ③ 教科書を読む。
・さし絵を提示しながら、教師が読む。 | ・物語の大体を知る。 |
| 開 | 「読んでいるところの絵を見ながら聞きましょう。」 | |
| 33分 | ④ さし絵に出てくる人物とその行動を読み取り、文にまとめさせる。（第一のさし絵については、みんなで考え、あとは個別に書き進めさせる）
⑤ さし絵を見ながら、話のあらましを話させる。
・さし絵と文章を対応させながら、板書する。
・ワークシートに、会話文とその様子を書き込ませる。 | ・挿絵を見て、だれが何をしているところか書く。
・話をはじめから順に読んでいき、④で書いたことを確認する。 |
| 終 | ⑥ 新出漢字を学習する。
・新出漢字用ワークシートに書かせる。 | ・新出漢字を学習する。 |
| 未 | 「犬」「早い」 | |
| 2分 | ⑦ 次時の予告をする。 | ・次時の見通しを持つ。 |
| 分 | ⑧ 「次の時間は、エルフとぼくの様子や気持ちを読み取ります。」 | |

指導のポイント

- 読み聞かせをするときは
 - ・ 会話体の文章を生かして、優しく児童に語りかけるように読む。
 - ・ 児童には、文とさし絵を対応させながら、時々さし絵の説明を挟みながら読む。
- さし絵をたいせつにして
 - ・ 児童自らが主体的に作品を読み進めていくために、さし絵を活用する。さし絵を順に追っていくことより、物語の筋の展開を考えたり、さし絵に描かれた人物の様子や表情から、その場面の人物の心情を想像したりしたうえで、それを叙述によって確かめていく。
- 物語のあらましを読み取るときは
 - ・ 「ぼく」と「エルフ」の行動を確認しながら、次の二点についておさえさせる。
 - (1) 「ぼく」と「エルフ」がどんなことをいっしょにしたのかを押さえ、仲がよかったことを読み取らせる。
 - (2) 「ぼく」が毎日「エルフ、ずうっと、大すきだよ。」と言っていたことを押さえ、エルフをどれだけ大切にしていたか読み取らせる。

板書例

- ① 題材名「ずうっとずっと大すきだよ」を黒板に書く
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
 - ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

- ③ 本文全文を読み聞かせ、話の大体をつかませる。（さし絵を提示する）
- ④ さし絵に出てくる人物とその行動を読み取り、一文にまとめさせる。

「ずうっと、ずっと、大すきだよ」①

はなしの だいたいを しろう

エルフ ぼく

ぼくたちは、いっしょに大きくなった。
エルフのお腹をまくらに
エルフのおなかをまくらする
のがすきだった。
いっしょにゆめをみた。
まいにちいっしょにあそん
だ。

ママのかだんをほりかえすのがすきだった。
さんぽをいやがるようになった。
とてもしんぱいした。・・・

まいばん、きつと・いってやるんだ。
「ずうっと、ずっと、大すきだよ。」

○あたらしいかんじ
犬(いぬ)
早い(はやい)

- ⑥ 新出漢字「犬」「早い」の学習をさせる。
 - ・新出漢字用ワークシートに書く。

- ⑦ 次時の予告をする。
「次の時間は、エルフとぼくの様子や気持ちを読取ります。」

まへつと、まへつ、大すきだよ①

一ねん くみ 名まえ()

おまへの がくしゅうの めあへ

[Empty rectangular box]

106 頁の絵

エルフ けん
[Empty rectangular box]

107 頁の絵

[Empty rectangular box]

108 頁の絵

[Empty rectangular box]

109 頁の絵

[Empty rectangular box]

110 頁の絵

[Empty rectangular box]

111 頁の絵

[Empty rectangular box]

112 頁の絵

[Empty rectangular box]

一ねん くみ 名まえ()

ちまの がくしゅうの めあて

としえを見たり ふんをせんら よんだりして はなしの だいたいを つかあつ。

106 頁の 絵

エルフ

ぼく

エルフと、ぼくは、いつしよに おおきくなった。

107 頁の 絵

いつしよに ゆめをみた

エルフの おなかを まくらに
するのが すきだった。

108 頁の 絵

ママの、かだんを
ほりかえすのが すきだった。

109 頁の 絵

ふとつて さんぽを
いやがるようになった。

110 頁の 絵

エルフを しゅらいさんに
つれていった。

111 頁の 絵

112 頁の 絵

77

題材名 「ずうっとずっと大すきだよ」②（第2時／全2時間）

目 標 場面の様子や人物の行動などについて、想像を広げながら読むことができる。

領域名 C 読むこと

学習の流れ

| | 教師の働きかけ | 児童の活動 |
|-------------------|---|---|
| 導
入
10
分 | ① 題材名「ずうっと、ずっと、大すきだよ」を黒板に書く。
② 本時の目標を黒板に書く。
「エルフがとしをとって、やがてしんでしまったときの ぼくやかぞくのようなすきもちをおもいうかべてみよう。」
・ 目標をワークシートに書かせる。 | ・ 本時の目標を知る。
・ 目標をワークシートに書き込む。 |
| 展
開
33
分 | ③ 「年を取ったエルフは、どのように変わっていききましたか。また、そのエルフに対して、ぼくや家族はどんなことをしてやったか、書き出してみましよう。」
④ エルフに対するぼくの気持ちについて話し合わせる。
「エルフに対する、ぼくの気持ちのわかるところに、線を引きましょう。」 | ・ 読み取ったことを、まとめる |
| 終
末
2
分 | ⑤ エルフが死んだときの様子と、ぼくや家族のエルフに対する気持ちを話し合わせる。
「年取ったエルフは死んでしまいました。ぼくや家族は、どうしたでしょう。」
「エルフが死んだときの、ぼくと家族の悲しみの違いはどう だったでしょう。」
⑥ 次時の予告をする。
⑦ 「次の時間は、『にているかん字』について学習します。」 | ・ エルフに対するぼくの気持ちについてわかるところに線を引いて、発表する。

・ 次時の見通しを持つ。 |

指導のポイント

○ さし絵の活用

- ・ さし絵から、何年もの年月が流れてエルフが年取ったことや、ぼくがエルフにいろいろなことをしてあげていたことなどをつかませることができる。

○ 児童の主体的な読みを大切に

- ・ 細かな読解指導は、読書の喜びを奪うことになりかねない。登場人物の気持ちや作者が言いたかったことなどについて、理屈で説明することを要求するような問いかけはできるだけ少なくし、物語の展開や感想を伝え合うことができるようにしたい。

板書例

- ① 題材名「ずうっとずっと大すきだよ」を黒板に書く
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
 - ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

- ③ 「年を取ったエルフは、どのように変わっていききましたか。また、そのエルフに対して、ぼくや家族はどんなことをしてやったか、書き出してみましょう。」
- ④ エルフに対するぼくの気持ちについて話し合わせる。「エルフに対するぼくの気持ちのわかるところに線を引きましょう。」

「ずうっとずっと大すきだよ」

ぼくや かぞくの ようすやきもちを
おもいうかべよう

としをとったエルフ
ねていることがおおくなり、さんぽをいやがるよう
になった。

ぼくたち
じゅういさんへつれていった。

かいだんものぼれなくなった。

ぼく
二かいへだっこしてつれて行ってあげた
いっしょにねた。

やわらかいまくら
「ずうっと、大すきだよ。」

死んだエルフ
ぼくたちにわにうめた。

なくて、かたをだきあつた。

にいさんやいもうと
すきっていつてやらなかった。

ぼく
いくらかきもちがらくだった。

「ずうっと、大すきだよ。」

- ⑤ エルフが死んだときの様子と、ぼくや家族のエルフに対する気持ちを話し合わせる。「年取ったエルフは死んでしまいました。ぼくや家族は、どうしたでしょう。」「エルフが死んだときの、ぼくと家族の悲しみの違いはどうだったでしょう。」

- ⑦ 次時の予告をする。

「ねん くみ 名まえ()」

おまの がくしゆの めあて



109 頁の 絵

<としをとつたエルフ>
() が おおくなり、
() を いやがる ようになつた。

110 頁の 絵

<ぼくたち>
() に つれて いった。

111 頁の上の 絵

<エルフ>
() も のぼれ なくなつた。

112 頁の 絵

<ぼく>
「 かく () して
() あげた。
() ねた。
() を やつて、
ねる まえには、 かならず
「

113 頁の 絵

<しんだエルフ>

<ぼくたち>
() に ()
なつて、 ()

<にらちんやいもらと>
() つて つて やらなかつた。

<ぼく>
「 くらが ()
だつて、 ねん 「
つて つて やつて つて ねん 。

ずうと、ずうと、大すぎだよ②(記入例)

一ねん くみ 名まえ()

おまの がくしゆの めあて



109 頁の 絵

<としをとつたエルフ>
(ねていること) がおおくなり、
(さんぽ) をいやがるようになった。

110 頁の 絵

<ぼくたち>
(じゅういきん) につれていった。

111 頁の上の 絵

<エルフ>
(かいだん) も のぼれなくなった。

112 頁の 絵

<ぼく>
「かい (だつこ) して
(はこんで) あげた。
(やいつしよに) ね た。
(やわらかいまくら) をやって、
ねるまえには、かならず
「エルフずうとずつと大すぎだよ 」
といつてやつた。

<しんだエルフ>

113 頁の 絵

<ぼくたち>
(にわ) に (うめた)
なくて、(かたをだきあつた)

<にいさんやいもうと>
(すき) っていつて やらなかつた。

<ぼく>
いづらか (気もちがらくだつた)
だつて、まいぼん「ずうと大すぎだよ 」
つていつてやつていたから。

78

題材名 「にている かん字」 (第1時/全1時間)

目標 ○第1学年で学習した漢字をふりかえり定着をはかることができる。
 ・似ている漢字に気をつけて漢字を書いたり筆順を考えて書いたりすることを通して漢字のおもしろさを感じて練習をすることができる。(主体的に学習に取り組む態度)

領域等 B 書くこと

学習の流れ

| | 教師の働きかけ | 児童の活動 |
|-----------|--|--|
| 導入
5分 | ①題材名とめあてを黒板に書く。
・本時のめあてを黒板に書き、学習の見通しをもたせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> にている かん字のれんしゅう </div> | ・本時の目標を知る。
本時のめあてを明確にするために、子どもたちにもめあてを読ませる。 |
| 展開
30分 | ②似ているところに気をつけて漢字を書かせる。
・教科書P.118を参考に、似ているところを確かめながら、漢字の練習をさせる。
「似ている部分はどこでしょう。」
「似ているところに気をつけて漢字の練習をしましょう。」 | ・漢字の練習をする。 |
| 展開
30分 | ③書き順に気をつけて漢字を書かせる。
・教科書P.119を参考に、似ている漢字の筆順を考えながら、漢字の練習をさせる。
「書き順に気をつけて漢字を練習しましょう。」 | ・漢字の練習をする。 |
| 終末
10分 | ④学習した漢字を使って短い文を作らせる。
「似ている漢字を使った文を作りましょう。」
○新しい漢字ー貝 林 右 足 石 左
⑤次時の予告をする。
「次の時間は、『いいこと いっぱい、一年生』を学習します。」 | ・文作りをする。

・次時の見通しをもつ。 |

指導のポイント

- 「貝」を見つける」と教科書の例文を参考に、形は似ているが、読み方や意味が全く異なることを意識させる。他の例文も同じように読み、全く違う漢字であることを理解させる。
- 一年生にとって、どこが似ていて、どこが違うかを言葉だけで理解することは難しい。実際に書いて練習するだけでなく、教科書 p.118 のイラストを使って理解させる。また、家庭学習との連携を十分に図りたい。
- 筆順について、基本のきまりがあることを画用紙に書いておき随時活用していく。

板書例

①題材名とめあてを黒板に書く。
・本時のめあてを黒板に書き、学習の見通しをもたせる。

③書き順に気をつけて漢字を書かせる。
・教科書 P119 を参考に、似ている漢字の筆順を考えながら、漢字の練習をさせる。
「書き順にも気をつけて漢字を練習しましょう。」

| | |
|------------------|-------------------|
| 石 _{いし} | 貝 _{かい} |
| 左 _{ひだり} | 林 _{はやし} |
| | 右 _{みぎあし} |

○かきじゅんにきをつけてかこう

上 土 左 右

○ならったかん字をつかって文を作ろう

○にている かん字のれんしゅう

貝を 見つける

村のおくに 林がある

右足で 石をける

人が 入ってくる

学校で 文_{ぶん}をならう

④学習した漢字を使って短い文を作らせる。
「似ている漢字を使った文を作りましょう。」

②似ているところに気をつけて漢字を書かせる。
・教科書 P.118 を参考に、似ているところを確かめながら、漢字の練習をさせる。
「似ている部分は、どこでしょう。」
「似ているところに気をつけて漢字の練習をしましょう。」

⑤次時の予告をする。
「次の時間は、『いいこと いっぱい、一年生』を学習します。」

ことば

いちねん

くみ

なまえ

)

めあて

Blank rectangular box for writing the goal.

にているかん字に 気をつけて、かきましよう。

貝見

村林

右石

人入

Blank box for writing the character '貝'.

Blank box for writing the character '村'.

Blank box for writing the character '右'.

Blank box for writing the character '人'.

かきじゆんに気をつけて かこう

右

左

土

上

ならった かん字をつかって 文をつくろう

Blank box for writing the character '左'.

Blank box for writing the character '土'.

Blank box for writing the character '上'.

ことば

記入見本

いちねん

くみ

なまえ

)

めあて

にている かん字のれんしゅう

にているかん字に 気をつけて、かきましよう。

貝見

村林

右石

人入

かきじゆんに気をつけて かこう

右

左

土

上

ならった かん字をつかって 文をつくろう

右を見る。 林の中に入る

79、80

題材名 「いいこと いっぱい、一年生」（第2時／全2時間）

目標 ○一年間の楽しかった思い出を、読む人にわかるように、事柄の順序などを考えながら、文章を書くことができる。
 ・アルバムを、友達に伝えようとすることができる。（主体的に学習に取り組む態度）

領域等 B 書くこと

学習の流れ

| | 教師の働きかけ | 児童の活動 |
|-----------|---|---|
| 導入
5分 | ①題材名とめあてを黒板に書く。
・本時のめあてを黒板に書き、学習の見通しをもたせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> おもいで アルバムを ともだちに知らせよう </div> 「楽しかった思い出でアルバムを作って、友達に知らせましょう。」 | ・本時の目標を知る。
本時のめあてを明確にするために、子どもたちにもめあてを読ませる。 |
| 展開
30分 | ②思い出でアルバムを完成させる。
○P.121を範読、共読みし、書く内容を確認させる。
・題名 ・どんないいことがあったのか
・くわしく思い出したこと ・思ったこと
「思い出アルバムを作りましょう。」 | ・書く内容を確認する。
・アルバムを作る。 |
| 終末
10分 | ③完成したアルバムの見直しをさせる。
「アルバムを読み直しましょう。」

④出来上がった文章を読み合わせる。
「出来上がった思い出アルバムを、友達と読み合いましょう。」
⑤一年間の頑張りをふりかえさせる。
「教科書136ページの表彰状を完成させましょう。」 | ・見直しをする。

・友達と交換し読み合う。

・表彰状を完成させる。 |

指導のポイント

- 補習校によっては、子どもたちの日本語力の実態だけでなく学級内の人数の違いにより活動方法も異なることも考えられるが、子どもたちが自主的に・積極的にアルバムを作ったり見直したり見せ合ったりする活動の場や時間を確保するようにする。（家庭学習との連携）
- 子どもたちの在籍数が比較的多い補習校では、見せ合うグループを固定化しないように工夫し、それぞれの思い出を共有したい友達がいることも考え合わせて活動枠を自由に配慮したい。（同じ思い出のグループ、異なったグループ）また、在籍数が少ない補習校においては、学級全体で見せ合うような活動を行ったり、保護者や幼稚部や他学年の子どもたちを招いて発表会を行ったりするなど学級の実態に応じた活動の広がり工夫したい。
- どの子どもも、この一年間でいろいろなことができるようになったという自己肯定感を感じさせたい。そのための表彰状でもあるので自分だけでなく友達のみから見てできるようになったこと、教師のみからみて成長したことなども知らせてあげられるようにしておく。

板書例

③完成したアルバムの見直しをさせる。
「アルバムを読み直しましょう。」

①題材名とめあてを黒板に書く。
・本時のめあてを黒板に書き、学習の見通しをもたせる。
「楽しかった思いでアルバムを作って、友達に知らせましょう。」

いいこと いっぱい、一年生

○おもいでので アルバムを かんせいしよう

- ・うれしかったこと
- ・たのしかったこと
- ・おどろいたこと
- ・がんばったこと
- ・できるようになったこと
- ・あたらしく しまったこと

○かくないよう

- ・だいいい
- ・どんないいことがあったのか
- ・くわしくおもい出したこと

○みなおしをする

○ともだちとよみあう

かん字

| |
|-----|
| ちから |
| カ |

④出来上がった文章を読み合わせる。
「出来上がった思いでアルバムを、友達と読み合いましょう。」

②思いでアルバムを完成させる。
○P.121 を範読、共読みし、書く内容を確認させる。
・題名 ・どんないいことがあったのか
・くわしく思い出したこと ・思ったこと
「思い出アルバムを作りましょう。」

⑤一年間の頑張りをふりかえさせる。
「教科書136ページの表彰状を完成させましょう。」

おもいだして かこう①

いちねん

くみ

なまえ(

めあて

・うれ

・たの

・おど

・が^ん

・でき

・あた

○かく ないよう

・だい

・ど^んな

・くわしく

・おも

かん字

| |
|---|
| 力 |
| |
| |

)

おもいだして かこう①

記入見本

W
79

いちねん

くみ

なまえ(

めあて

おもい出のアルバムをつくらう

- ・うれしかったこと
- ・たのしかったこと
- ・おどろいたこと
- ・がんばったこと
- ・できるようになったこと
- ・あたらしくなったこと

○かく ないよう

- ・だいいめい
- ・どんないいことがあったのか
- ・くわしくおもいだしたこと
- ・おもったこと

かん字

| |
|---|
| 力 |
| |
| |

板書例

③完成したアルバムの見直しをさせる。
「アルバムを読み直しましょう。」

①題材名とめあてを黒板に書く。
・本時のめあてを黒板に書き、学習の見通しをもたせる。
「楽しかった思いでアルバムを作って、友達に知らせましょう。」

いいこと いっぱい、一年生

○おもいでので アルバムを かんせいしよう

- ・うれしかったこと
- ・たのしかったこと
- ・おどろいたこと
- ・がんばったこと
- ・できるようになったこと
- ・あたらしく しまったこと

○かくないよう

- ・だいいい
- ・どんないいことがあったのか
- ・くわしくおもい出したこと

○みなおしをする

○ともだちとよみあう

かん字

| |
|-----|
| ちから |
| カ |

④出来上がった文章を読み合わせる。
「出来上がった思いでアルバムを、友達と読み合いましょう。」

②思いでアルバムを完成させる。
○P.121 を範読、共読みし、書く内容を確認させる。
・題名 ・どんないいことがあったのか
・くわしく思い出したこと ・思ったこと
「思い出アルバムを作りましょう。」

⑤一年間の頑張りをふりかえさせる。
「教科書136ページの表彰状を完成させましょう。」

| | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|--|
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |

おもいだして かこう②

いちねん

くみ

なまえ (

めあて

)

おもいだして かこう②

記入見本

w
80

いちねん

くみ

なまえ(

)

めあて

おもい出のアルバムを ともだちにしらせよう。

え

文

がんばった玉入れ

一年二くみ おおたに ゆい

五月のうんどうかいで、玉入

れをがんばりました。

おなじ、二年生が、

「かごのちかくにいつてなげる

といいよ。」

と、おしえてくれました。やっ

てみると、たくさん入りました。

らいねんは、わたしが、一年生に

おしえてあげようとおもいます。